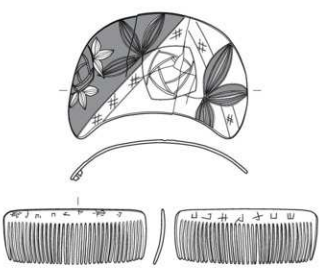
新町戸崎遺跡 2

－新町防災アリーナ建設に伴う旧鐘紡新町工場若草寮跡発掘調査－



2023

高崎市教育委員会

序

高崎市は、古来より関東と信越をつなぐ交通の要衝に位置する人口約36万9千人の中核市です。

平成29年10月末には上野三碑がユネスコ「世界の記憶」に登録され、今年度で５周年を迎えています。また、国重要文化財および史跡である旧新町紡績所や、歴史と景観が調和した国指定史跡保渡田古墳群など、古代から近代までの多くの遺跡が存在する文化財の宝庫となっています。

本書で報告する新町戸崎遺跡は新町防災アリーナ建設工事に伴って発見された埋蔵文化財であり、令和２年４月から令和３年３月にかけ発掘調査を実施したものです。このたびの調査では、大正・昭和初期に建設された旧新町紡績所の関連施設とみられる遺構を検出し、本市の近代化遺産の一端を知る成果をあげることができました。本報告書はこの成果について文化財調査報告書第488集としてまとめたものです。今後の研究の参考資料としてご一読いただければ幸いです。

結びに、本遺跡の発掘調査および報告書刊行にあたりご協力いただきました関係機関ならびに関係者の皆様に心から感謝申し上げ、序といたします。

令和５年３月

高崎市教育委員会

教育長　飯野眞幸

例言

1 本書は新町戸崎遺跡第2次調査（高崎市新町2330-40、調査番号801）の発掘調査報告書である。

2 発掘調査は、新町防災アリーナ建設（市スポーツ課所管）に伴う事前調査として令和2年4月20日より3年3月31日まで実施した。

3 発掘調査は、矢島浩（市教育委員会文化財保護課再任用職員）と坂井隆（同嘱託職員）が担当した。

4 調査は、次の点に留意して行った。

ア 単独の構造物跡をそれぞれ一つの遺構として命名した。

イ 層序は全て自然礫層の上になされた盛り土であるため、断面観察を行わなかった。

ウ 建物の窓ガラスと思われる板ガラス片と瓦当部分を除く瓦片は、遺物としなかった。

エ 各レンガ遺構は調査終了時に解体し有刻印赤レンガを遺物としたが、全てのレンガ遺構の確認はできなかった。耐火レンガは、全てを遺物として取り上げた。

5 出土資料整理と報告書作成は、令和4年4月1日より5年3月31日まで坂井隆が担当して実施した。第1章第2節は滝沢匡（市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財担当係長）、第4節と第3章第2節Dは矢島浩が執筆した。

6 資料整理は、次の点に留意して行った。

ア 鐘紡新町工場女工寄宿舎群（若草寮）の理解を、遺構把握と遺物選択の目的とした。

イ 多くの遺構は建物の構造把握を求めてグループ化したが、そのためにクラシエフーズ株式会社保管の鐘紡時代の各図面を参考にした。

ウ 報告遺物は取り上げ遺物の一部のため、番号は飛んだものがある。特にプラスティック歯ブラシと施釉土管は報告していない。

エ ガラス瓶類は、実測図を作成していない。また形状呼称区分は、次による。

大型：器高20㎝以上　小型：同5-10㎝　超小型：同5㎝以下　短：器高3㎝以下で底径4㎝以上

オ ガラス瓶類の撮影及び整髪具類・洗面具類・大型金属製品等の実測・撮影は株式会社測研に委託した。

カ 遺物番号は、次のように種類ごとに略号を付けた。

CN: 銭貨　CR: 陶磁器類　FL: 製糸器具　HT: 整髪具類　GL: ガラス瓶類　MT: 金属製品
OT: その他　RB: 赤レンガ　ST: 石製品　WB: 耐火レンガ　WD: 木製品　WT: 洗面具類

7 自然科学分析は、株式会社パレオ・ラボが行った。

8 調査と報告書作成には、次の刊行物などを参考にした。

『漢留安型録』1933、『鐘紡新町工場90年史』1969、『新町町誌』1988
群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『新町戸崎遺跡』
サンドラ・シャール2020『『女工哀史』を再考する　失われた女性の声を求めて』京都大学学術出版会
杉並区立郷土博物館2008『硝子壜の残像』
高崎市教育委員会1996『東町Ⅴ遺跡』
高崎市教育委員会2007『飯塚西金井Ⅱ遺跡』
高崎市教育委員会2014『旧新町屑糸紡績所建造物調査概要報告書』
玉里村立史料館2001『特別展近現代遺跡発掘！』
畑中英二2015『岡本太郎、信楽へ－信楽焼の近代とその遺産－』信楽焼振興協議会
三木良1999『四季の糸』西毛文学
瑞浪市陶磁資料館2012『番号の付されたやきもの－戦時下の瑞浪窯業生産－』
よみがえれ！新町紡績所の会2018『鐘紡新町工場に誇りあり－つむぎ手の記憶』

9 調査と報告書作成には、次の個人と組織の方々から助言を得たことを感謝の意を込めて記す。

大西雅弘　長佐古真也　新鐘会　よみがえれ！新町紡績所の会　富岡市教育委員会　片倉シルク記念館

10 発掘調査の記録および報告遺物は、高崎市教育委員会で保管している。

目次

序文　例言
第 1 章　遺跡と調査の概要 6
　第 1 節　遺跡の概要　6（米軍撮影空中写真 7）
　第 2 節　調査に至る経過　8
　第 3 節　調査経過と方法 8
　第 4 節　遺跡の立地と環境 9（周辺の遺跡図 11・12）
第 2 章　調査の成果 13
　第 1 節　概要 17（折込全体図 13）
　第 2 節　建物ごとの主な遺構・遺物 17
　　A 菖蒲寮北外側 17　B 萩寮 18　C 隔離室・遺物廃棄場 SU3 21　D 菊寮 26
　　E 菫・撫子寮・遺物廃棄場 SU2, 5, 6 28　F 教室 33　G 仏間 35　H 梅寮 37　I 竹寮・松寮他 39
　　J 大廊下他 44　K 排水路3・遺物廃棄場 SU1 46　L 藤寮・百合寮・遺物廃棄場 SU4, SX4 48
　第 3 節　遺物実測図 52
　　陶磁器類 52　製糸器具 66　整髪具類 66　洗面具類 69　銭貨・その他 70　金属製品 71
　　木・石製品 72　赤・耐火レンガ 72
　第 4 節　遺物観察表 74
　　陶磁器類 74　製糸器具 77　ガラス瓶 78　金属製品 81　整髪具類 82　洗面具類 83　銭貨 83
　　その他 83　石・木製品 83　赤・耐火レンガ 83
第 3 章　調査のまとめ　84
　第 1 節　遺構の特徴 84
　　A 各建物の規模 84　B 基礎構造 84　C 排水路 85　D 便所と洗面所 86　E 居室のあり方 87
　第 2 節　遺物の特徴 88
　　A 寄宿舎使用遺物とその他 88　B 廃棄場遺物 89　C 製糸器具 89　D ガラス瓶類 90
　　E 近現代陶磁器類 92
　第 3 節　女工寄宿舎の生活 93
　　A 部屋の広さと建物の特徴 93　B 遺物から見た女工の生活 94　C 隔離室 95　D 小結 96
付章　新町戸崎遺跡 2 出土ガラス瓶内液体の成分分析 97
写真
　1 空中撮影写真（原色）101
　2 遺物写真 104
　　原色：陶磁器類 104　製糸器具 112　ガラス瓶類 113　整髪具類 120　その他 122　洗面具類・石製品 123
　　単色：金属製品 124　銭貨 125　木製品 125　赤レンガ 125　耐火レンガ 126
　3 遺構写真（単色）127
　　A 萩寮 127　B 隔離室 130　C 菊寮 136　D 菫・撫子寮 138　E 教室 141　F 仏間 143　G 梅寮 145
　　H 竹寮・松寮他 147　I 大廊下 152　J 排水路 3　154　K 藤寮・百合寮他 156　L 遺物廃棄場 159
抄録 161

第１章　遺跡と調査の概要

第１節 遺跡の概要

本遺跡は明治 10（1877）年創設の官営屑糸紡績所を出発とする旧鐘紡新町工場跡で、その女工寮群（若草寮）跡が今回調査の対象地である。西に 21 km離れた世界文化遺産登録の富岡製糸場から５年遅れて操業開始したこの工場では、製糸場で使われなかった屑繭から絹糸を紡績して国内市場へ供給した。明治 20（1887）年に三井の三越得右衛門に払い下げられた後、同 35（1902）年に他社と合併して絹糸紡績新町工場となり、さらに同 44（1911）年に鐘紡へ吸収された。紡績と関連する紬糸業と共に大正 10（1921）年には製糸業も開始し、製糸部工場は昭和 14（1939）年には片倉富岡製糸場に次ぐ全国２位の規模となった。

輸出が途絶えた第二次大戦を乗り越えて戦後に生産を再開したが、構造的不況により昭和 31（1956）年には製糸業を停止した。その後化学繊維を含めた紡績業を続けたものの、屑糸紡績所創業以来 98 年目の昭和 50（1975）年に繊維工場から食品工場へ転換せざるをえなかった。平成５（1992）年にカネボウフーズ新町工場となったが、さらに広大な敷地も次々と手放すような経営不振によって、巨大企業カネボウは最終的に平成 18（2005）年には事実上倒産した。

後継企業のクラシエフーズに引き継がれた旧紡績部工場には日本式技術で建てられた操業開始時の建物が残っており、当初これらは富岡製糸場と共に絹産業遺産群の一つとして世界遺産候補に組み込まれた。その後、食品企業クラシエフーズが操業を継続していることもあって候補遺産から除外されたが、平成 27（2015）年に工場本館を中心とする範囲が国史跡「旧新町紡績所」、そして残存する明治期建物５棟は一括して国指定重要文化財となった（高崎市教育委員会 2017『史跡・重要文化財　旧新町紡績所保存活用計画』）。この部分の北側を画する温井川の改修に関連した平成 25（2013）年の発掘調査では、大正 13（1924）年に建設されたレンガ造護岸が発見され保存されている（群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013『新町戸崎遺跡』）。

史跡指定地の東側は倒産前の平成７（1994）年にカネボウによって売却され、旧製糸部跡は高梨乳業そして旧女工寄宿舎群跡は群馬県が所有することになった。東端の後者は、多目的空間の芝生広場として合併前の新町（現高崎市）によって管理されていたが、平成 31（2018）年には北側約 2/3 を高崎市が防災アリーナ建設用地として県から購入した。

当初工場近くにあった女工寄宿舎が東に移ったのは、絹糸紡績時代初期の明治 39（1906）年頃である。この会社への合併の明治 35（1902）年から６年間で女工数は２倍以上の 320 人に増えたが、それを支えたのがここで新設された寄宿舎群だった。寄宿舎建物は増設され続け、昭和 13（1938）年頃には 11 棟と食堂など関連建物数棟で構成される千人近い女工たちが生活する場となった。この地区の北側は旧中山道が温井川を渡る弁天橋に接し、旧新町宿西端に極めて近い。

昭和 40~43 年の鐘紡新町工場北東からの全景　手前左が若草寮女工寄宿舎群（『鐘紡新町工場 90 年史』より）

米軍空中写真に見る遺跡地

下写真には、昭和 13（1938）年頃に完成した寄宿舎群「若草寮」の全容が旧中山道に近い右上に見えている。北から東西方向に長い建物群がほぼ等間隔で 6 列並び、撮影時点での呼称は北から順に、松寮西・松寮東、竹寮・藤寮、菊寮・萩寮・梅寮、菫寮・撫子寮・学校・仏間、菖蒲寮・浴場・教室、食堂・桜寮となる。東西方向の道の向い側に、医局建物や社宅があるのが分かる。

寄宿舎群の左に接する上中央の細長い建物 6 列を中心とする区画が、大正 10（1921）年に操業開始した製糸部工場である。昭和 14（1939）年には片倉富岡製糸場に次ぐ全国第 2 位の規模になった姿が、この写真に示されている。だが昭和 31（1956）年には閉鎖され、跡地はテニスコートなどの建物のない状態になってしまった。大正から昭和 13 年までの寄宿舎増設の大きな要因となった製糸部工場の建物群写真は、『鐘紡新町工場 90 年史』には掲載されていない。

さらに左下に斜めに走る国鉄高崎線線路に接する上左側が、明治 10（1878）年建設の官営屑糸紡績所に始まる紡績・紬糸部工場建物群（現クラシエフーズ工場範囲）である。創業当初の建物（現重要文化財指定）を北側の温井川沿いに残すが、大きく増改築されて現在とほぼ変わらない建物群が写っている。右下には、昭和 18（1943）年に中島飛行機に売却された昭栄製糸の工場建物群が見える。片倉に次ぐ長野県岡谷の大資本山十組の新町製糸所だった工場で、製糸工場としては鐘紡より早く明治 38（1905）年に操業を始めた。中山道宿場から工業都市に変わった新町を、この写真に見ることができる。

1947 年 10 月 30 日撮影米軍撮影空中写真での鐘紡新町工場（日本地図センター）

第2節 調査に至る経過

令和元年8月、事業者である高崎市総務部スポーツ課（以下スポーツ課と略）から、高崎市新町において計画している新町防災体育館（仮称）建設工事に先立つ埋蔵文化財の照会が高崎市教育委員会文化財保護課（以下、文化財保護課と略）にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地には該当していないが、国指定史跡および重要文化財旧新町紡績所の隣接地で、当時働いていた女工の宿舎が存在していたことが明らかであったため、遺構を確認するための試掘調査を行うこととなった。

令和元年9月18日、スポーツ課より文化財保護課に埋蔵文化財試掘調査申込書が提出され、同年10月29日に試掘調査を実施した。その結果、近代レンガ建物の基礎を確認した。この結果をもとにスポーツ課と文化財保護課で協議したが、体育館建物部分および駐車場切土部分について現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。

同年11月29日、体育館建設予定地が文化財保護法第95条第1項の規定による周知の埋蔵文化財包蔵地として決定された。

令和2年4月1日、スポーツ課から文化財保護法第94条第1項の通知があり、同日付で工事着手前に記録保存のための発掘調査をするよう勧告を行った。また、同日付でスポーツ課より文化財保護課へ発掘調査の予算執行委託があり、これを受け同年4月20日より体育館建物部分の発掘調査を開始した。遺跡名については「新町戸崎遺跡第2次調査」とした。

調査中である同年7月2日、発掘調査および建設工事の工程についてスポーツ課、高崎市建設部建築住宅課、文化財保護課の三者で協議を行った。当初、体育館本体部分は令和2年度、外構部分は令和3年度に発掘調査する予定であったが、工事工程の都合で令和2年度中にすべての発掘調査を終了させてほしいとの依頼があった。これを受け、切土を中心とする外構部分について、同年8月17日から19日にかけて追加の確認調査を行った。その結果、女工寮に関連する遺構が確認され、予算措置を講じて外構部分の調査を引き続き実施した。

同年11月16日、上記三者による工程会議で体育館本体部分の余掘りで遺構が破壊されることが判明し、追加調査をすることとなった。

第3節 調査経過と方法

A 調査経過

試掘調査で現地表面から20 cmほどでレンガ構造物が発見されたことで、本調査ではまず最上層の芝生化盛り土（厚さ10 cm）から少し下がった程度までを重機によって掘削した。しかしその面で確認できた遺構はかなり限定されたものであり、確認遺構以外部分も手掘りが難しい極めて硬化した盛り土だった。そのためさらに下げた30–40 cmほどの深さまで再度の重機掘削を行ったところ、多くの建物基礎遺構を確認することができた。

最終的に建物が取り壊されたことによる撹乱部分があちこちに見られたが、建物建設時も盛り土がなされていたため識別が簡単ではなかった。基盤の礫層（現地表下約1m）の状態そして遺構を形成するレンガ列と礎群の見極め（基礎構造として原位置保持の確認）が鍵となることを理解するまで、少なくない時間が必要だった。そのため当初は遺物の出土量も、要調査判断の条件とせざるをえなかった。

小型ツルハシしか役に立たない硬化状態により、遺構検出の人力掘削は多大な労力を要した。また体育館の建設設計が調査と並行したため、要調査箇所は当初の建物本体部分から広がり続けた。それにも関わらず調査経費が限定されていたことで作業員人数は限られ、また調査終了時の冬季には休息所なしの調査も強いられた。

ただし結果的には旧織紡新町工場女工寄宿舎群跡地全体の広い領域で、限定的な範囲ながら発掘調査を実施できた。そのため獲得できた情報量はかなり多く、近代建物群としての遺構のあり方理解が次第に可能になった。同時に西側隣接地にあった製糸部工場から持ち込まれたものを中心とする近代産業遺物を認識できたことは、本遺跡調査のような近代産業遺跡の埋蔵文化財調査に対する新しい視点と方法を模索できたと言える。

B 方法

当初調査範囲の南東隅に近い原点（世界測地系 X=31,050, Y=-65,510）をA1グリッドの南西角点として、4 × 4mのグリッドを時計回りに A-1・-A-1・-A1と配した。番号は北方向に＋数字、南方向に－数字、東方向に＋アルファベット、西方向に－アルファベットの組み合わせで命名した。

全てのレンガ・コンクリート・礎構造物で原位置を保っているものを遺構と認定し、それごとに遺構番号を付与した。これらの検出に向けた周辺の手掘り掘削作業で出土した遺物を各遺構の遺物とし、また遺構から離れた状態で出土した遺物はグリッド名を付与した。

自然礫層（地表下約 1m）の上は全て人為的な盛り土で、全ての遺構と遺物はそこからの検出である。この盛り土は最上層の芝生形成層（約 10 cm）を除いて分層が不可能だったため、遺構・遺物検出に当たっての層位記録は取らなかった。重機による表土掘削は遺構上面検出を目安としたが、その絶対的な高さは撹乱状況によってかなり異なっていた。

調査中の実測作業は経費理由により行わず、各地点の終了時に撮影した垂直オルソ写真の図化で平面図を作成した。長く延びる遺構については、同時に撮影した水平オルソ写真の図化により見通し図とした。G-6 グリッドは、調査終了後の工事立会いのみである。

第 4 節 遺跡の立地と環境

本遺跡のある高崎市新町は群馬県中南部に所在し、西と南は藤岡市、北は烏川を挟んで佐波郡玉村町、東は神流川を挟んで埼玉県児玉郡上里町と接する。本遺跡は新町の北西隅部にあり、高崎市役所東南 10 km、市役所新町支所西 0.9 kmに位置している。新町は交通の要所で西に関越自動車道、南に一般国道 17 号と JR 高崎線、東には県道 40 号藤岡大胡線が走っている。

本遺跡北 625 mには高崎市倉渕町の鼻曲山に源を発する烏川が東流し、いずれも烏川支流である群馬県下仁田町と長野県佐久市との境にある物見山に源を発する鏑川が本遺跡西 3.65 km、群馬・埼玉・長野三県が境を接する三国山の北斜面、多野郡上野村楢原元谷地内が源の神流川が東 1.95 kmで共に北北東方向に流下している。本遺跡に隣接する温井川は藤岡市岡之郷温井地区を流れることに由来する。藤岡市篠塚地内を上流端として藤岡台地の北端崖下の藤岡市中栗須堀向より湧水を集め中村堰の用水を流入し、岡之郷・新町地区へ農業用水を分水する。温井集落南から新町北部を北東に流下し、烏川に合流する長さ約 5.4 kmの一級河川である。本遺跡は烏川形成の、完新世未凝固堆積物（礫）による自然堤防堆積物上にある。

新町地区には古代の遺跡は発見されたことはなく、藤岡市の温井遺跡(6)・岡之台遺跡(7)・下川前遺跡(8)が近隣となる。温井遺跡は古墳時代後期から奈良時代・平安時代の集落跡。岡之台遺跡は古墳時代の集落跡。下川前遺跡は奈良時代・平安時代の集落跡。他には森遺跡（9）は古墳時代から平安時代までの集落跡。中Ⅰ遺跡（10）は奈良時代・平安時代の集落跡。中Ⅱ遺跡（11）は奈良時代・平安時代の溝・土壙が検出されている。烏川左岸では高崎市八幡原遺跡（12）、八幡原若宮遺跡（13）、八幡原灰原遺跡（14）、玉村町下郷遺跡（15）がある。八幡原遺跡は古墳時代前期から平安時代の集落跡。八幡原若宮遺跡は古墳。八幡原灰原遺跡は古墳時代前期から平安時代の集落跡。玉村町下郷遺跡では 4 世紀末から 5 世紀初頭の方形周溝墓群と古墳が数基検出されている。

中世は、昭和 15 年に現自衛隊新町基地（5）内から 4 面の板碑が発見された。うち 2 面は無銘であるが、在銘 2 面は応永 2（1395）年と 8（1401）年の銘文があり、仏像のかわりにキリーク（阿弥陀）、サク（観音）、サ（勢至）の種子で阿弥陀三尊を表現し、種子の下には三尊とも蓮華座を刻んでいる。ともに室町時代初期の作である。戦国時代には、天正 10（1582）年 6 月 16 日に織田信長の配下である滝川一益と北条氏直が神流川で合戦に及んだ。その後、従来玉村経由であった馬次を天正 13（1585）年に笛木に変更することにより笛木伝馬宿として成立していく。

近世は承応年間に玉村廻りの中山道が、新町宿設置により正式に移動した。新町宿は本庄宿と倉賀野宿の距離が 3 里 20 町を隔て交通運輸上多大な不便であったことから、承応 3（1654）年に笛木新宿と落合新宿を合併して新町宿が成立したと『上野國志』に記されている。弘化 3（1846）年に神流川の洪水により全村が大被害を被った武蔵国賀美郡忍保荘毘沙吐村が新町地内の下川原に移転を余儀なくされ、笛木村・落合村・毘沙吐村 3 村をもって編成された。

近代は、温井川の護岸工事に伴う新町戸崎遺跡（2）で大正 13（1924）年に鐘淵紡績株式会社が施工したレンガ積護岸工事が検出されている。明治 5（1872）年に我が国最初の官営器械製糸場として開設された富岡製糸場が、本遺跡の西 21 kmにある。この富岡製糸場から出た屑糸を利用した新町屑糸紡績所が明治 10（1877）年 7 月 1 日に開業した。同年 10 月 20 日の開業式は内務卿の大久保利通以下、大隈重信・松方正義・伊藤博文等政府高官を迎えて執行され、明治政府の期待を受けて開業した官営模範工場であった。翌 11（1878）年 9 月 3 日に明治天皇が行幸し、作業を検分して所員達を激励した。

官営模範工場として建設された新町屑糸紡績所は、明治 13（1880）年 11 月 26 日に内務省から富岡製糸場とともに民間への払い下げの広告が出された。このことにより、明治 20（1887）年 6 月 2 日に三越呉服店に払い下げられ、新町三越紡績所と改称した。明治 26（1893）年 9 月に三越呉服店が合名会社三井呉服店に改組したのに伴い、紡績所名も三井新町紡績所と改称した。明治 32（1899）年以来の不景気により全国絹糸紡績連合会が明治 35（1902）年 3 月 15 日に開かれ、三井新町紡績所・京都第一絹糸紡績会社（京都下京）・日本絹糸紡績会社（京都上京）・岡山共立絹糸紡績会社（岡山）・南海絹糸紡績会社（和歌山）・郡山絹糸紡績会社（郡山）が不況を乗り切るため合併することになり、同年 5 月に絹糸株式会社を経て絹糸紡績株式会社となった。同年 8 月 17 日に新会社名を絹糸紡績会社とし、同社の新町工場となった。明治 44（1911）年 3 月 1 日に絹糸紡績会社は鐘淵紡績株式会社と合併し、新町工場は鐘淵紡績株式会社新町支店工場と改称した。平成 19（2006）年にカネボウは営業権をクラシエに譲渡した。

本遺跡調査地点（1）は新町戸崎遺跡（2）から 400m 程東にあり、同様にレンガ積の遺構が検出されている。このレンガを供給した日本煉瓦製造上敷免工場（本遺跡の東 19 km）は、渋沢栄一らによって埼玉県深谷市上敷免に明治 20（1887）年 10 月に開設された我が国初の機械式レンガ工場で、ドイツ製のレンガ型抜き機械、コール式窯内乾燥室、ホフマン式輪窯などが残り、その製品は東京駅等数多くのレンガ建物に用いられている。また同工場のレンガは当初利根川を利用した船運で運ばれたが、明治 28（1895）年に深谷駅から同工場まで専用の鉄道線路が敷設された。

なお高崎駅北東の東町Ⅴ遺跡（3）は大正 5（1916）年に操業開始した龍栄社製糸工場跡で、同 13（1924）年には岡谷の巨大資本小口組の高崎工場となり昭和 6（1931）年頃まで生産を続けていた。また高崎旧市街地の北に接する飯塚西金井Ⅱ遺跡（4）は、著名な製糸組合の碓氷社が同年から操業した高崎直営工場跡で昭和 17（1942）年まで生糸生産を行なっていた。共に発掘調査された製糸工場跡である。さらに富岡製糸場と共に世界遺産登録された高山社（16、藤岡市高山）は本遺跡の 11.5 km東西、その関連施設の競進社模範蚕室（埼玉県本庄市児玉町）は 10 km南南東に位置する。

参考文献

『新町戸崎遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 2013

『温井遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 1981

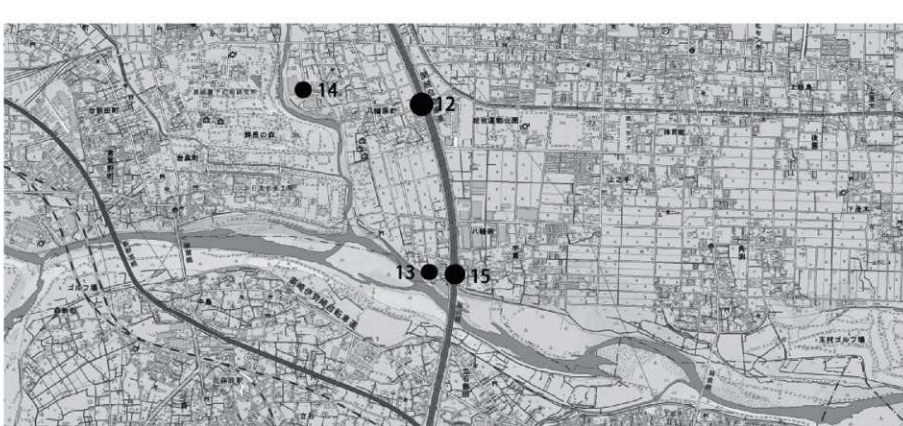
『八幡原遺跡』高崎市教育委員会 1974

『高崎市文化財調査報告書 132』高崎市教育委員会 1994

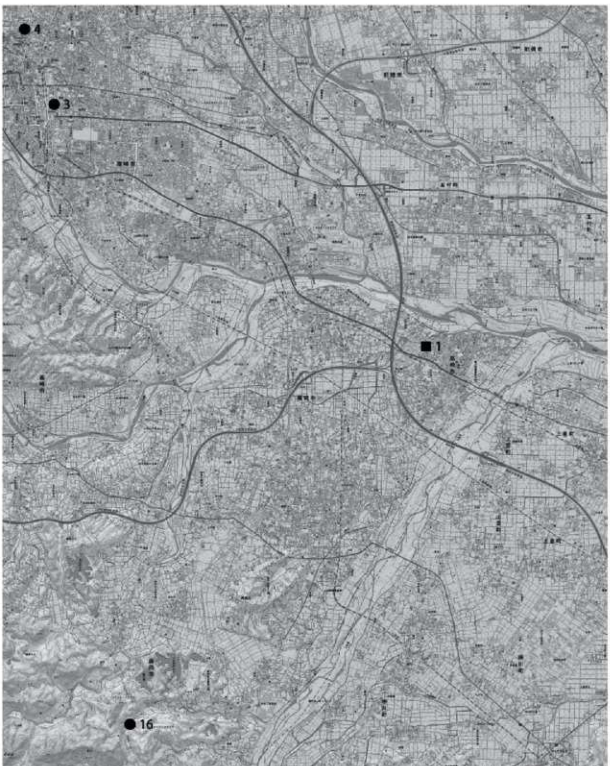
『東町Ⅴ遺跡』高崎市教育委員会 1996

『飯塚西金井Ⅱ』高崎市教育委員会 2007

『新町町誌』新町教育委員会 1988

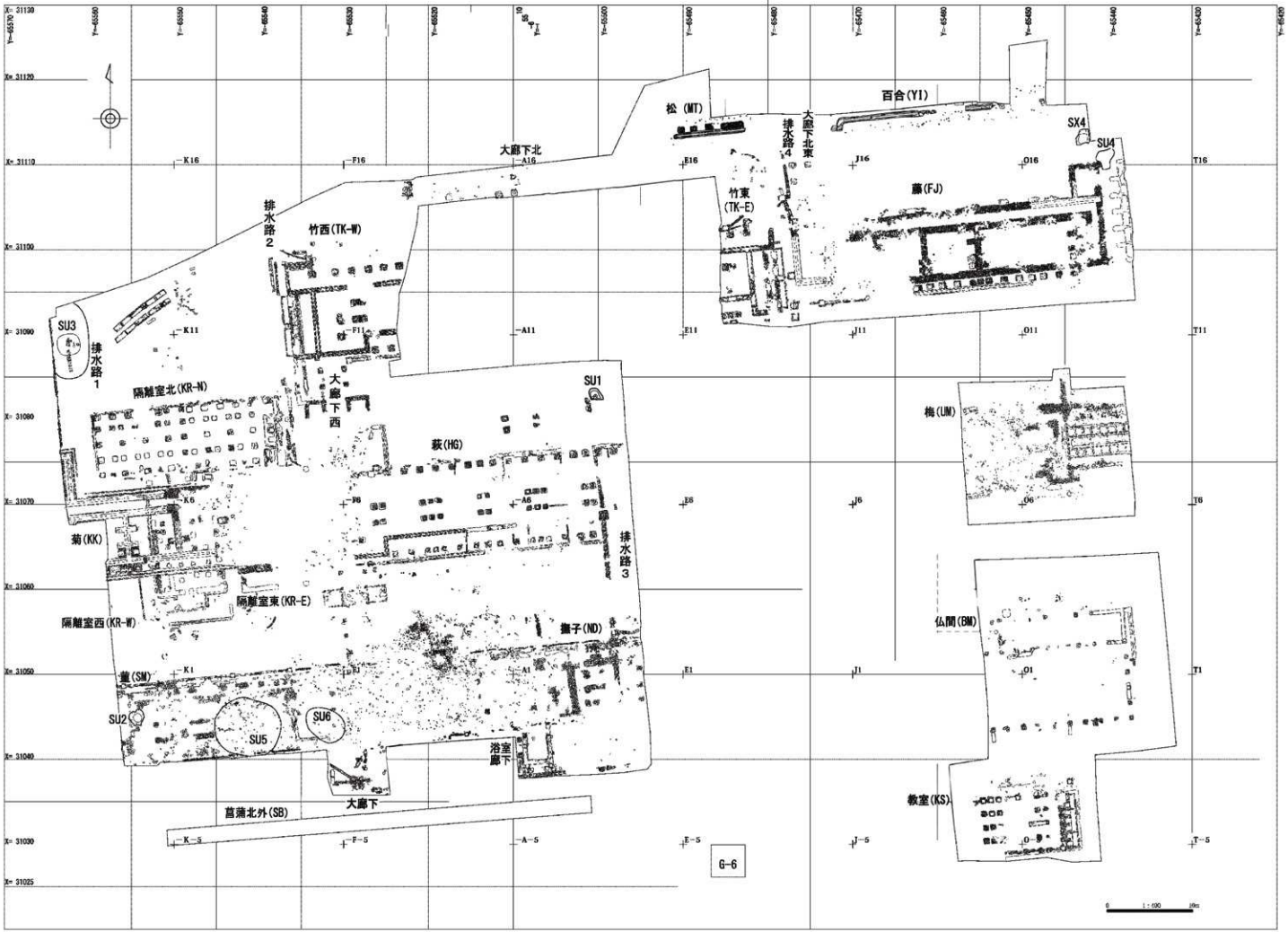


周辺の遺跡地図 A(日本地図センターデジタル 2.5 万分 1)　1 新町戸崎 2　2 新町戸崎　5 新町自衛隊基地　6 温井　7 岡之台　8 下川前　9 森　10 中Ⅰ　11 中Ⅱ　12 八幡原
13 八幡原若宮　14 八幡原灰原　15 下郷



周辺の遺跡地図 B(日本地図センターデジタル 2.5 万分 1)

1 新町戸崎 2　3 東町Ⅴ　4 飯塚西金井Ⅱ　16 高山社　17 競進社模範蚕室


松(MT)
百合(Y1)
大廊下北
排水路4
大廊下北東
SX4
SU4
竹東(TK-E)
藤(FJ)
排水路2
竹西(TK-W)
SU3
排水路1
隔離室北(KR-N)
大廊下西
SU1
萩(HG)
梅(UM)
菊(KK)
排水路3
隔離室東(KR-E)
隔離室西(KR-W)
獅子(ND)
仏間(BM)
菖(SM)
SU2
SU5
SU6
浴室廊下
大廊下
菖蒲北外(SB)
教室(KS)
G-6

第２章　調査の成果

第1節　概要と全体図 (p.13・14 折込)

今回の調査は旧鐘紡新町工場の女工寄宿舎群（総称「若草寮」）だった芝生広場での、新町防災アリーナ建設に伴うものである。しかし調査開始時に設計が完成していたのは建物本体だけで、その後駐車場建設での掘削に関係して要調査地が何回か増えた。そのため全体図に示したように、発掘調査地は事業対象地である芝生広場北半分（約 130 × 100m）に点在する状態となった。

昭和 31（1956）年時点での主要建物と調査の関係は、次のとおりである（北からの列）。

松寮・百合寮：共に南端部のみ

竹寮・藤寮：竹寮は西端と東端、藤寮は全域

菊寮・萩寮・梅寮：菊寮は西半分、萩寮は西半分、梅寮は東端のみ

葦寮・撫子寮・裁縫室（仏間）：葦寮は西半分、撫子寮は東半分、裁縫室（仏間）は東半分

菖蒲寮・浴室・教室：菖蒲寮は北外側空間地のみ、教室は東端のみ

若草ホール・桜寮・売店・社宅：非対象

また竹寮西端から若草ホール東端に達する南北の大廊下は、北半分が対象となった。

昭和 50（1975）年の紡績業停止、平成 7（1994）年の群馬県への売却そして平成 31（2018）年の高崎市の購入と、この土地の所有が変わった。残されていた建物の解体と整地は、土地売却直前になされた可能性が高い。その後の県有地を利用した旧新町による芝生広場造成の詳細と時期は不明だが、建物部材を残さない状態で基盤の礫が表土近くまで上がっていた撹乱は決して狭い範囲ではなかった。重機による掘削で広場造成のローム客土（厚さ 10 cm）下の撹乱の間から、基盤礫層上に全面的になされた石炭ガラ等による極めて硬く締められた盛り土面が現れた。そこでの残存遺構の確認とそれをあらわす発掘は、当初極めて困難な作業だった。

さらに部分的に検出したレンガやコンクリートの基礎が、どの建物なのかの同定も簡単ではなかった。しかしクラシエフーズに保管されていた各時代の建物配置図を検討する中で、最終的な認定が可能になった。ここでは各建物に関わる検出遺構と出土遺物を概ね調査順に報告するが、遺物は 7 箇所確認した廃棄場を除いて、個々の遺構周辺に存在していただけに過ぎない。なお建物名称の変更が頻繁になされたものもあり、記録とは異なる名称を物語る遺物出土もあった。

第２節　建物ごとの成果

A　菖蒲寮北外側 (SB)（図 p.55・56、写真 p.106・115）

菖蒲寮北側の空間地に相当する細長い部分では工事中立会いの G-6 地点も含め遺構は全く見られないが、遺物は次のように検出した。

陶磁器は瀬戸美濃産の型紙刷が多く、山水詩歌文小皿（CR081）・財神倣文皿（CR091）などがあり、また肥前の可能性ある紅葉文蓋物蓋（CR082）そして手描壷芝文小皿（CR084）も見られた。銅版転写では肥前の可能性ある唐獅子牡丹文蓋物蓋（CR080）及び瀬戸美濃のバルメット菊文白磁緑彩茶碗（CR090）があり、美濃多治見産「鐘紡新町」銘色絵皿（CR087）も検出した。ガラス瓶では、「TANCHO VANISHING CREAM」小型卵型瓶（GL101）と「レートフード」偏平瓶（GL102）・「脇田」超小型片口瓶（GL103）があった。

B 萩寮(HG)

位置：調査範囲中央よりで撫子寮の北 12m、西側で大廊下を隔てて隔離室・菊寮に接する。
変遷：大正 14 年頃建設（平面 7 室）。当初中央北側に長方形突出部があるものの、昭和 10 年代以降不明。

検出遺構と重複遺構（図 p.20、写真 p.127-129）

東西に長い建物（南北 9.5m、東西 31m 以上）を検出した。東側で排水路 3（SD37）と無釉土管（SD06・07）を壊す。西端は大廊下に接するが、特に北西部分は大きな撹乱があったため不明瞭だった。

柱基礎：北辺に正方形大型レンガ基礎列（5 段、下面レンガ 12.5 個一辺 0.6m、SB45-298 全 17 基、間隔 1.8m、ただし SB50 のみ小型）、3.8m 南側に小型基礎列（4 段、下面レンガ 8 個一辺 0.5m、SB34-300 全 12 基、間隔 0.9m・4.8m・0.9m・0.9m）、さらに 1.8m 南側にほぼ同様の小型基礎列（SB24-302 全 12 基）、そして 3.8m 離れた南辺に大型基礎列（SB10-311 全 16 基、間隔 1.9m・0.9m・1.9m・1.4m を 2 回ずつ繰り返す）が東西方向に並ぶ。

小型基礎列は桁方向の構造基礎柱だろう。そこには 4 本の南北通し梁ライン（SB49・36・26・12、SB50・38・28・14、SB56・41・31・20、SB57・43・33・22）と 2 本の北側桁までの南から 5.6m ライン（SB37・27・13、SB42・32・21）が認められ、南北通し梁ラインを軸に桁だけが一対の柱で区切られる同じ広さの空間を最低 4 箇所確認できる。

また北辺中央から 2.5m 北側に離れた位置で 4 個のコンクリート柱基礎（SB288-291、間隔南北 1.8m 東西 3.6m）を検出した。

これらの柱基礎はグリ石を敷いた上に粗い礫を多く含んだコンクリートを厚く貼り、その上にレンガを数段正方形に積んだものである。ただしコンクリートとレンガの中心位置の揃わない例が、少なくなかった。

壁基礎：レンガを 4 段以上積んで、南辺柱基礎列に平行に走る SB08 である。南辺柱基礎西端の SB10 から西に 0.9m 離れた地点より北に 1.8m 向かい、さらに東方向に 15.7m 以上直線で延びている。一方、同地点から西方向には 3m 残っていた。このＬ字形構造（幅 0.4m）最下段のレンガは場所によって積み方が側面積みを取っており、上面の高さを揃えるための地業的役割を果たしたと思われる。最上面には、根太材を敷いたようなモルタルが一部見られた。同様の長い東西走向の壁基礎は北辺にも存在していた可能性があり、土管列 SD14 の南端に東西走向の痕跡が少し残っていた。

排水溝など：両側にレンガを積み内側にモルタルを塗った雨落ち水の排水溝が、南面（SD02）と北面（SD05・13）に見られた。それぞれ集水マスが1箇所ずつ残り、また南北辺の同じ位置に鉄釉土管列（SD11・SB11 南側の未命名土管、SD12・10、SD14・09、SD15・08、SB298 西側の未命名土管）が合流していた。SD10 は上記壁基礎 SB08 の最下段部分を抜けており、それぞれ内部から両辺排水溝への通水システムと考えられる。

また北側排水溝 SD13 の北東外側 1m 弱には、スレート製埋甕 SJ1 があった。

全体構造：全体に極めて規則的に柱基礎が並んでおり、また壁基礎 SB08 の屈曲してからの東側位置は南側小型柱基礎列と南辺大型柱基礎列の中間にあたる。上記のように北辺大型柱基礎列と北側小型柱基礎列部分の間に同時に建設された竹寮と同様の壁基礎があった可能性があり、調査時には確認できなかったものの痕跡が写真には写っていた（p.127 下写真）。そのため小型柱基礎と壁基礎で形成される空間はほぼ正方形の同じ広さ（主空間 5.6 × 4.7m、2 副空間 1.8/0.9 × 5.6m）が横に連なった状態になる。壁基礎 SB08 が西端でＬ字形になる理由は、階段構造があったためかもしれない。

出土遺物（図 p.52・66・68・69・72・73、写真 p.104・112・113・120・122・123・125・126）

まとまった面積が調査できたことにより、比較的多くの遺物を検出した。まず銅版転写の食堂食器としては、鐘紡マークの美濃窯業製小皿（CR012）と飯碗（CR018）、さらに大量に搬入された雪の下文飯碗（CR019）がある。また手描で大きく「越」字が描かれた茶碗（CR013）は、三越時代かもしれない。「帝國生命保險岩鼻代理店」と書かれた銅版転写色絵茶碗（CR016）と手描松葉文染付方形皿（CR010）は、建物南西外側で検出した。

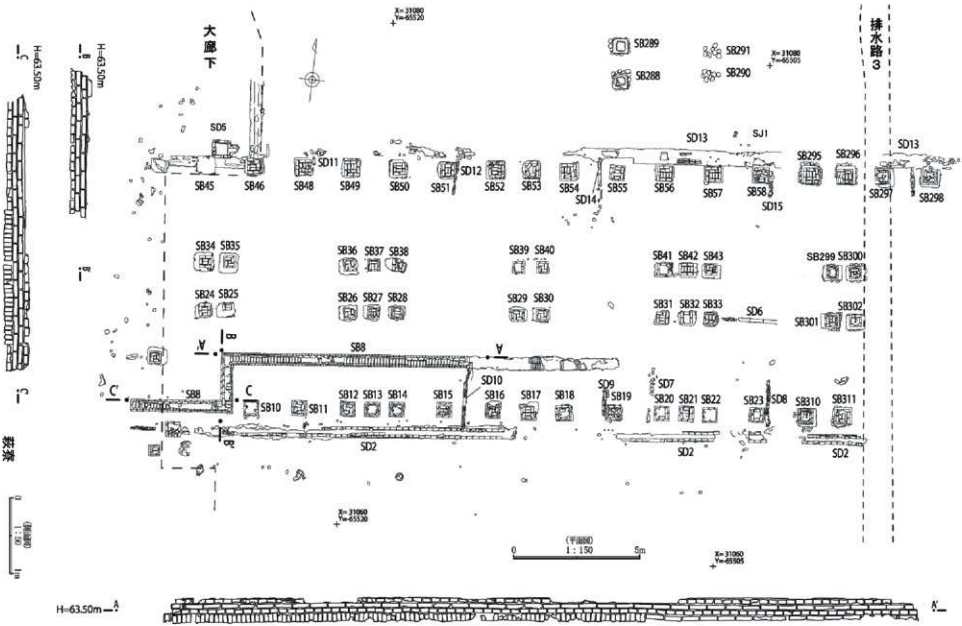
南東端柱基礎 SB310 近くから「二ノ宮キヨ」（HT04）と「ナミセ」（HT05）線刻のセルロイド櫛、5 点の骨製歯ブラシ（WT01, 04, 05 と非報告 2 点）とセルロイド製簪（HT45）、またその北側の柱基礎 SB299 周辺から「三番　小川みつ」線刻の

セルロイド櫛（HT03）とセルロイド製ピン（HT44）が出土した。南辺柱基礎のSB19からは一円硬貨（非報告）を検出し、そこから西のSB12周辺では白磁集緒器（FL01）を確認した。南東部分では、踏み石と思われる加工石片（ST1）を発見した。また本建物より古い土管列SD06は、無釉硬質（CR015）である。

ガラス瓶の出土も多く、化粧品関係では「月美人」小型扁平四角形瓶（GL007）・「美顔水」小型円筒形瓶（GL009）・「148」小型四角形瓶（GL017）・「HIRAO LAIT」扁平四角形瓶（GL020）・「KIN TSURU OSG」超小型四角形瓶（GL024）がある。薬品関係では、「改」円筒形短頸瓶（GL010）・「神薬資生堂製 TOKYOSHISEIDO DISPENSARY」小型八角形瓶（GL014）が出ている。他に「TARADE MARK METORO」小型円筒形瓶（GL013）、「明治200」紙栓撫で肩広口瓶（GL022）、金平糖容器小型小銃型瓶（GL012）も検出した。

さらに南辺中央の排水溝SD02の外側近くでコバルト色大型円筒形短頸瓶（GL008）が出土し（p.129最下段右写真）、ガラス栓が装着された状態で内部に液体が残っていた。同種のガラス瓶は遺物廃棄場SU5で大量に発見されたため、この液体についての成分化学分析を行った（p.97）。

ここでは計235点の「上敷免製」刻印レンガを発見したが、そこには左行刻印（RB044）・狭い刻印（RB186）・長い刻印（RB134・189）・長方形刻印（RB167・196）が含まれていた。左行刻印は403点の刻印例の中で、他には教室発見のRB267しかない。柱基礎には刻印レンガがかなり多く、総数52個程度の大型柱基礎に10個の刻印レンガがあったSB18のような例も珍しくなかった。また残存個数が多くない南北排水溝でも、刻印レンガは少なくなかった。


大廊下
排水路3
SB289
SB288
SB291
SB290
SD6
SD11
SD12
SD13
SJ1
SD14
SD15
SB295
SB296
SB297
SB298
SB45
SB46
SB48
SB49
SB50
SB51
SB52
SB53
SB54
SB55
SB56
SB57
SB58
SB34
SB35
SB36
SB37
SB38
SB39
SB40
SB41
SB42
SB43
SB299
SB24
SB25
SB26
SB27
SB28
SB29
SB30
SB31
SB32
SB33
SB301
SB302
SB8
SB10
SB11
SB12
SB13
SB14
SB15
SB16
SB17
SB18
SD9
SD10
SB19
SD7
SB20
SB21
SB22
SB23
SD8
SB310
SB311
SD2
H=63.50m
A
A'
B
B'
C
C'
0
1:150
5m
1:100
1m

C 隔離室（KR）・遺物廃棄場 SU3・排水路 1（HS-1）

位置：調査範囲北西側で、東側で大廊下と竹寮・萩寮西端に接し、西側で菊寮と重複する。
変遷：大正 9 年建設（3 棟）、昭和 12・13 年頃に壊されて菊寮が建設される。

検出遺構と重複遺構（図 p.24・25、写真 p.130-135）

東西方向建物（北棟、南北 6.8m、東西 21.6m）・南北方向建物（西棟、南北約 12m、東西 7.5m）そして東西方向建物（東棟、南北 3m 以上、東西約 7m）の 3 棟を検出した。北棟は東端が排水路 2 で一部壊された以外ほぼ全容を確認した建物だが、北外側と東棟の大部分は広く撹乱されていた。

東棟 KR-E

柱基礎：グリ石を敷いて粗製コンクリートを貼った SB81 のみを検出した。これは壁基礎 SB80 の東延長方向で約 3m 離れた位置になる。
壁基礎：東西方向に延びる深い基礎（SB03、幅 0.8m・残存長 4.0m・レンガ積み高 0.6m）とそれにＬ字形で接続する浅い基礎（SB80、幅 0.6m・長 4.3m）を確認した。ともにグリ石を敷いた上に礫を多く含むコンクリート地業を貼り、上にレンガを積んでいる。前者は確認面まで 8 段が残り、西端で終わっていた。また他になく大きめグリ石を緻密に入れている。後者はコンクリート地業が確認面のため全くレンガ自体は残っていなかったものの、検出東端が末端である。
その他：SB80 の 3m ほど南に、緩く弧状を描く性格不明のレンガ列 SW1 がある。
全体構造：北と東側が大きく撹乱され、形状は全く不明である。ただ上部の重量を意識した深い壁基礎が本体部分で、浅い壁基礎と柱基礎の間はそれに接する入り口的部分と推定できる。
出土遺物（図 p.54、写真 p.105）

二つの基礎の間から相馬駒焼茶碗（CR044）が出土した。SB03 のレンガには、右行「上敷免製」刻印レンガが 3 個含まれていた。

西棟 KR-W

柱基礎：菊寮建設と撹乱でかなり破壊されていたが、グリ石を敷いた上に粗製コンクリートを貼り、その上の最下段にレンガ 8 個を並べた正方形基礎（約 0.5m 四方）を 15 箇所確認した。他に西側中央の小型柱基礎 SB90 は、レンガ 6 個を並べている。
壁基礎：グリ石を敷いた上に粗製コンクリートを貼り、上にレンガを積んだ壁基礎を 5 箇所確認した。西辺を走り南西隅から南辺中央近くまで延びる SB02 には 3 段のレンガが残り、中央に正方形状小区画（一辺約 0.9m）と南西隅に長方形区画（1.4 × 5.4m 以上）を設けている。南東隅にも同様のコンクリート基礎 SB91 があった。それぞれの南辺から 1.8m 離れて二つの壁基礎痕（SB75・76）があり、長方形空間（3.0 × 1.8m）を南側へ突出させている。また最南部の SB01 は薄いコンクリート基礎の上にレンガ 1 枚を直交して 2 段積んだもので、南東隅から西へ 7.4m、北へ 1.6m 残っていた。
排水溝など：グリ石上にモルタルを貼り両側にレンガ横積みした SD16 は SB02 外側に沿い SB90 西側で土管に変わった後、上記構造に戻り南辺でまた南に曲がる。東側の対称の位置の SD17 も同様で、両者は突出部の両側に沿っている。またすぐ南には人頭大の自然石による石列 SS1 が、SB01 と重複するように見られた。
全体構造：南北方向に長い長方形平面で、東半分には直接外に接する部屋（2.7 × 3.2m）が南北に並んでいる。南側突出部は入り口で、SB02 と 91 の間 1.4m の中央位置 SB72 は扉の基礎だろう。西辺は幅狭い細長い空間で、排水溝が土管に変わった部分に何らかの出入り口があった可能性がある。
出土遺物（図 p.54・67・69・70・71 写真 p.105・114・121・122・125）

SS1 で、「高山ヨコヤマキワコ」線刻のセルロイド製櫛（HT15）とビニール製？装飾紐（HT63）が出土した。SB02

南辺近くに明治 15 年製の二銭銅貨（CN04）と三彩陶器小鉢（CR054）があった。SD16 からは「ビヤン」小型広口瓶？（GL069）が出土した。また切子状文様の合子蓋（GL062A）を検出したが、同身（GL062B）は北棟の SB226 北便槽にあった。SD17 のレンガには、右行「上敷免製」刻印レンガが 3 個含まれていた。南東外側で「ペプシコーラ」銘で肩瓶（GL071）が出たが、菊寮時代のものである。

北棟 KR-N

柱基礎：グリ石を敷き粗製コンクリートを貼った正方形（一辺約 0.8m）地業の上にレンガ 8 個を積んだ基礎を、規則的に 61 基検出した。レンガが残存していたのは北西側だけで、また北辺中央の SB246・250 は、4.5 個を積んだ小型である。すでに完全に壊されていた 4 箇所を加えると、これらは西棟入り口の SB72 から北へ延びる直線を軸として左右対称に並んでいる。なお南西側排水溝 SD35 の外側に、同様の基礎 SB71B が単独で残っていた。

壁基礎：建物東端に東側が開いた状態で 4 区画に仕切られた南北に長い壁基礎（3.7 以上× 1.4m）SB226 があり、中央 2 区画の東側は東側に突出してモルタルが貼られ土製大甕（CR047）が残っていた。埋甕による便所と考えられる。この SB226 北端と建物北東隅に残る壁基礎 SB259（約 0.9 × 0.5m）は、繋がっていた可能性がある。SB226 の南側にはＬ字形の細い SB277 が、次項の東端排水溝 SD33 に壊された形で残る。SD33 から 0.9m 東には、グリ石の上に粗製コンクリートを貼った細長い基礎 SB278（0.4 × 8m 以上）が南北に走っていた。

排水溝など：建物各辺外側にはグリ石基礎上の両側にレンガを横積みし内側にモルタルを塗った排水溝が見られる。北辺の SD32 は SB246 と 250 の間の中央部分が土管になっており、また外側レンガにほぼ接して半裁レンガを 2 段積んだ部分が 5 箇所残っていた。一方西辺の SD31 は、北東隅部分のみが土管で、半裁レンガの残存は 2 箇所だった。残りが良くない南辺の SD35 と SD34 は中央部分で南に直角に曲がって 1m ほど伸び、中央が南に向かう空間（幅約 1.8m）を示した。東辺の SD33 も SB226 中央の突出部に沿って中央部分が 0.6m ほど東へ張り出し、さらに南側は SB226 に沿ってからさらにもう一度南へ曲がって 1.8m ほど延びる。

全体構造：中央に南北通路（幅 1.8m）が走り、両側に南北にやや長い部屋（2.6 × 3.8m）が 3 室ずつ並ぶ構造が明瞭である。これら部屋全体の南側（幅 1.8m）と北側（幅 1.2m）には廊下状空間が延びる。また東端は 1.2m 挟んで便所になっている。便所南側の南東隅は挟れた状態だが、北側の北東隅はそれがなく洗面所空間が想定できる。

出土遺物（図 p.54・66・68・70・71　写真 p.105・112・114・122・125）

SB226 と SD32 からセルロイド製髪留め（HT39・40）が出土した。SB226 の北便槽ではガラス瓶の出土も多く、「ヘチマコロン」扁平四角形瓶（GL047・048）・「日本麦酒鑛泉株式會社」銘で肩長頭瓶（GL049）などが含まれていた。上記のように切子状合子身（GL062B）も出土した。また「會　天槩同業組合」銘瀬戸美濃産透明釉卸皿（CR045）・瀬戸美濃産ゴム印型成形色絵鉢（CR046）・リンゴ文プリント色絵軟質陶器湯呑（CR049）もあった。SD32 では数カ所で、軟質無釉土管（CR048）が見られた。

北外側 KR-NN・遺物廃棄場 SU3・排水路 1(HS-1)

重複遺構：調査範囲北西隅には遺物廃棄場 SU3 があり、その中に排水路 1 の SD51 が南北に走る。いずれも隔離室建物より後出と考えられる。調査範囲北外側は、すぐ温井川護岸になる。

壁基礎など：調査範囲西端で南北に延びるレンガ積壁基礎 SB283 を 23m 確認した。境界にあたるため十分には確認できなかったが、6 段以上のレンガ積で形成されている。ただし下位 3 段相当は南側が側面積みで統一されているのに対し、北側は場所によって積み方が異なっていた。

そこから東に 7m 離れた場所に北東方向に 2 列で緩く弧状に延びる不明遺構 SX1・2 がある。これは長軸方向に幅約 0.5m でレンガを敷き並べて、モルタルを塗って上面を平滑にした構造である。両者の間には 0.6m ほどの空間がある。モルタル上には何の痕跡も残らずレンガの下にはグリ石などは見られないため、重い構造物の基礎とは考えにくい。南側の SX1 から 3.5m 南東に、頂部に方形孔（一辺約 0.15m、深 0.55m）が空き下位はレンガで築かれたコンクリート直方体 SX3（0.4 × 0.4 × 0.63m）があった。

全体構造：SB283は明らかに境界塀の基礎である。しかしSX1・2については、レンガ使用方法が北棟などと共通するが走向は全く異なりむしろ温井川に沿うようなため、性格は不明である。SU3の遺物廃棄は境界であるSB283の上からも見られた。

出土遺物（図 p.54・66-71　写真 p.105・112・121-124・126）

SX1・2の際で「佐藤」（HT12）・「梅田ツヤ」（HT13）・「熊谷スラ」（HT14）等セルロイド製櫛4点とピン（HT48・HT49）、骨製歯ブラシ2本（WT11・12）と編み棒（OT02）があった。東側で繰糸鍋目皿（FL10）、「SHINAGAWA」銘耐火レンガ（WB07）を検出した。SX3傍で、信楽産煮繭鍋（FL14）を確認した。

遺物廃棄場・排水路1（写真 p.159・160）

検出状況　SU3は広い範囲で（約南北8m東西4m）遺物が分布していた。最終的に南西側に不定形の浅い土坑（深さ約0.3m）を確認したが、そこに入れたのではなく敷地隅に広く捨てた状態である。遺物下で南北走向の排水用無釉土管列SD51（土管長0.61m、径0.34m）を検出した。

重複：上記のように遺物廃棄は境界であるSB283の上からも見られたため、隔離室廃絶後になされている。排水路設置時期は遺物廃棄以前である。

出土遺物（図 p.60・61・66-72　写真 p.109・112・117・121-125）

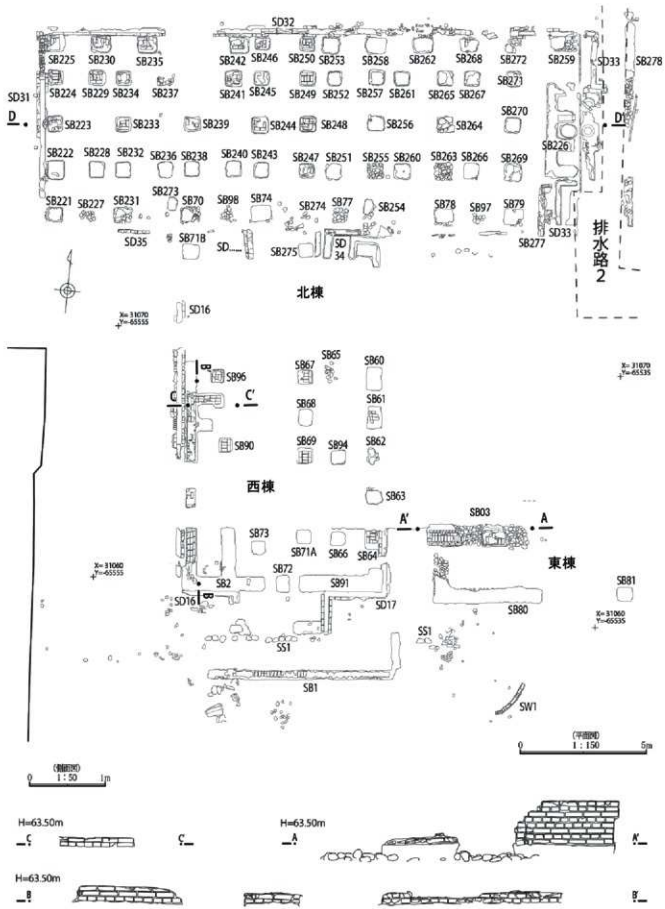
SU3では確認面で、大量の遺物が足の踏み場がないほど散乱していた。

陶磁器類は、瀬戸美濃銅版染付菖蒲文皿（CR162・163）94点、同色絵雪の下文飯碗（CR177）63点、それらの破片の飯碗（CR184）45点、同国民食器飯碗（CR189）40点の数量が多かった。他に瀬戸美濃吹絵飯碗（CR179・180）とゴム印の色絵湯呑（CR174）・桜文染付飯碗（CR176）や軟質陶器蓋付平碗（CR182）・同湯呑（CR183）・同平碗蓋（CR170・171）・同「本庄？」上絵湯呑（CR191）があった。

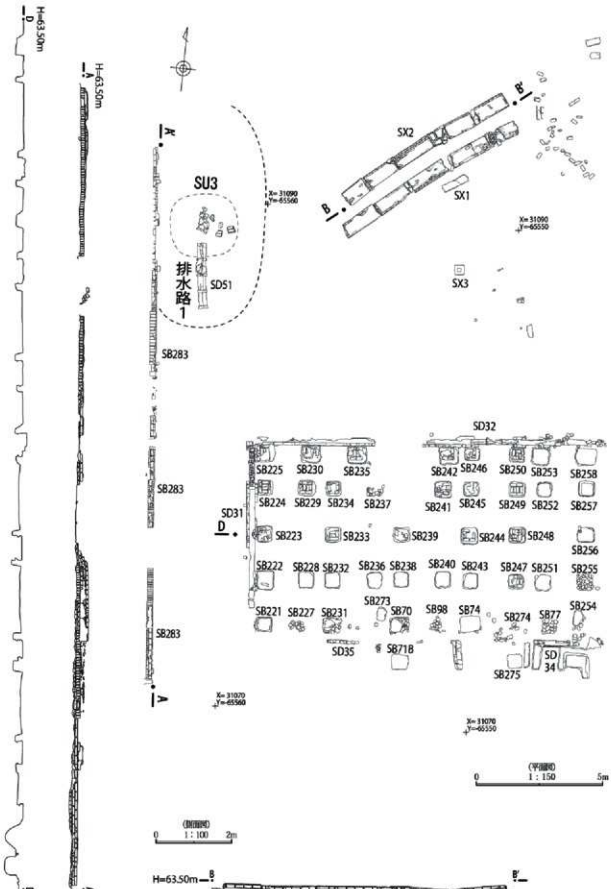
ガラス瓶も多く、化粧品瓶は「TM ヘチマコロン」扁平四角形瓶（GL172）・「東京安藤井筒堂 PEACHFLOWER もゝの花」蓋付短広口瓶（GL180）・「トクヨ」小型広口瓶（GL178）・ウテナロゴ小型卵型瓶（GL183）、薬瓶は「神薬資生堂製 TOKYOSHISEIDO DISPENSARY」小型八角形瓶（GL171）、飲料では「日本麦酒鑛泉株式會社」撫で肩長頸瓶（GL175A）・「大日本麦酒株式會社製造」大型撫で肩長頸瓶（GL173）・ネジ栓の大型撫で肩瓶（GL174A）・「部葉井牛乳」瓶機械栓（GL174B）などを確認した。

また下層を中心に、セルロイド製櫛（HT31・32）・同ピン（HT54-57）・大量の骨製歯ブラシ（WT21-25・27-31・37・39-41・45・49・52-56、柄部16点）が含まれていた。下層では製糸器具も信楽繰糸鍋目皿（FL11AB）・同煮繭鍋（FL13AB）・瀬戸美濃白磁集緒器（FL08）9点・同染付切断計数器（FL09）・ガラス製フリカギ（FL17-20）を確認した。何らかの機械部品である鉄製品（MT32・33）・銅線鉛部品接合品（MT34）や青銅小型製品（MT12-14）もあった。

廃棄元は昭和12・13年頃の寄宿舎内食堂からが中心で、隣接の製糸部工場も加わったと考えられる。なお昭和初年頃にセルロイド製に変わる骨製歯ブラシが、ここに集中した理由は分からない。


SD32
SB225 SB230 SB235 SB242 SB246 SB250 SB253 SB258 SB262 SB268 SB272 SB259 SD33 SB278
SB224 SB229 SB234 SB237 SB241 SB245 SB249 SB252 SB257 SB261 SB265 SB267 SB273
SD31
D
SB223 SB233 SB239 SB244 SB248 SB256 SB264 SB270
D'
SB226
SB222 SB228 SB232 SB236 SB238 SB240 SB243 SB247 SB251 SB255 SB260 SB263 SB266 SB269
SB273
SB221 SB227 SB231 SB70 SB98 SB74 SB274 SB77 SB254 SB878 SB897 SB879
SD35
SB718
SD
SB275
SD 34
SD33
SB277
排水路2
北棟
X=31070 Y=-65555
SD16
SB896
C
C'
SB865
SB867
SB860
SB868
SB861
SB890
SB869
SB894
SB862
X=31070 Y=-65535
西棟
SB863
A'
SB803
A
SB73
SB71A
SB866
SB864
東棟
X=31080 Y=-65555
SB72
SB891
SB81
SB2
SD16
SD17
SB880
X=31060 Y=-65535
SS1
SS1
SB1
SW1
0 1:150 5m
0 1:50 1m
H=63.50m
C
C'
H=63.50m
A
A'
H=63.50m
B
B'

隔離室東・西・北棟



隔離室北外側・遺物廃棄場 SU3

D 菊寮 (KK)

位置：調査範囲西端で、隔離室西棟・東棟と重複。東端は大きく撹乱される。
変遷：昭和 12・13 年頃に隔離室を壊して建設される（5 室平面）。

検出遺構と重複遺構（図 p.27、写真 p.136-137）

東西方向建物（南北 8.5m、東西 19.5m 以上）を検出した。北西隅に張り出し部（南北 5.5m）を持つ。この建物は西端で、隔離室用地西側境界壁基礎 SB283 を壊す。

柱基礎：グリ石上に築かれたコンクリート製で、下部（厚さ 0.2m）の上に上部（約 0.3 × 0.3 × 0.4m）を接合している。南西側の長方形基礎 2 基（0.7 × 0.5m）SB304・305 と南辺に並ぶ正方形基礎 9 基（0.4 × 0.4m）SB85-88・95・306-309 がある。

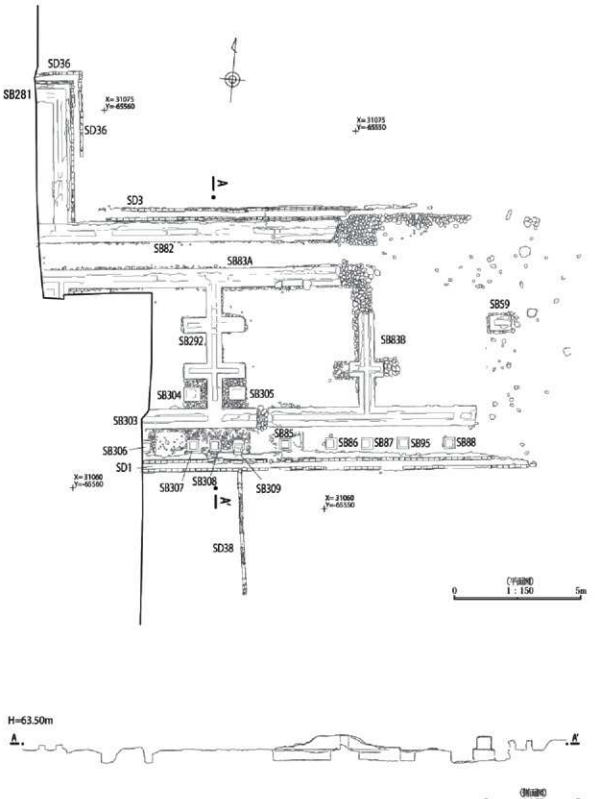
壁基礎：グリ石上に断面台形のコンクリート構造（幅 0.7m、高 0.3m 以上）を築き、頂部に根太材受け部（幅 0.2m）が突出している。東西に延びる幅広基礎を 3 列（SB82・83A・303、幅 0.7m 強）と南北走向基本のやや狭い 4 列（幅 0.6m 強、SB59・83B・292、長 5.7m、SB281 長 5.4m）がある。西側の SB292 は南北 2 箇所に東西に各 0.9m 延びる張り出しを持ち、東側の SB59 は同様の張り出し部分のみが残ったものである。中央の SB83B は南 1 箇所のみに短い（0.45m）の張り出しがある。同様の南北走向基礎は SB83A の西端にも一部確認でき、北西隅の SB281 は北に伸びてから西に向かっている。

排水溝：SB82 の北側に沿って SD03 が東西に走り、SB281 の外側の SD36 に繋がる。また南辺に沿って SD01 が東西に延びる。これらはグリ石の上にモルタルを貼り、両側にレンガを積んだ構造（内幅約 0.2m 強）である。また SD01 には直交方向に無釉土管列 SD38 が 5m 南に伸びている。

全体構造：南北走向壁基礎の張り出し部分間は、ほぼ同じ広さの縦長長方形（5.6 × 4.4m）で、張り出しにより東西に奥行き 0.9m と 0.45m の長方形が接続している。広い部分が居室で、両側に奥行きの異なる押し入れが付くと考えられる。北側には幅広い（1.8m）廊下が続き、居室南側 1.0m の位置に並ぶ柱は各部屋のテラス状部分だろう。北西隅の張り出し SB281 は便所・洗面所の一部と考えられる。

出土遺物（図 p.53・67・73 写真 p.105・114・120・126）

調査面積が狭いため、あまり多くはない。食器では、美濃窯業製鐘紡マーク銅版転写飯碗（CR035）と鐘紡マーク及び「万年」陽刻ベークライト製飯碗（CR042）があった。SB281 からは、「みやび古染」ガラス小型円筒形短頸瓶（GL045）・「一沢キヨ子」（HT09）「美原村金沢サト用」（HT10）線刻セルロイド櫛が出土した。また SD03 内の遺物には、「SHINAGAWA」陽刻の耐火レンガ（WB005）が 3 個含まれていた。SD01 のレンガには、6 点の右行「上敷免製」刻印レンガが混じっていた。


SD36
SB281
X= 31075
Y= 65560
SD36
X= 31075
Y= 65510
SD3
SB82
SB83A
SB59
SB292
SB83B
SB304
SB305
SB303
SB85
SB86
SB87
SB95
SB88
SB306
SD1
X= 31060
Y= 65560
SB307
SB308
SB309
X= 31060
Y= 65530
SD38
0
1 : 150
5m
H=63.50m
A
A'
0
1 : 80
2m

菊寮

E 葦寮(SM)・撫子寮(ND)・遺物廃棄場 SU2, 5, 6

位置：調査範囲南西隅に位置し、中央で大廂下、東端で排水路 3 と重なる。

変遷：撫子寮（9 室平面）は大正 2 年以前に建設され、葦寮は大正 8 年にそこから同列で大廂下西側に増設（5 室平面、大正 11 年 380 坪木造瓦葺 2 階建）。葦寮階下は昭和 27 年まで女工の演芸空間「若草クラブ」として使用。二寮共に昭和 40 年に撤去後、全面改築（15 畳× 10 室平面 411 坪）された。

葦寮

検出遺構と重複遺構（図 p.31　写真 p.138・139）

隔離室西棟から 6.2m あるいは菊寮から 14m 南に位置する東西走向建物（南北約 8.0m、東西 25m 以上）で、東側の撫子寮とは同列になる。二つの寮の間に大廂下があったはずだが、遺構的には撹乱が多いため不明瞭。基礎のグリ石群にレンガ片が混じるものが見られ、改築以前の部材片が混入したことになる。また内部の 3 遺物廃棄場の設置は大正 8 年以前だが、改築時に大きく撹乱された。

グリ石基礎：グリ石を敷き詰めた基礎最下層を多く検出した。北辺土管列 SD18 から約 1.3m の位置で正方形に近い状態で並ぶ SB312・99-101・110-112AB、そして似た形状の西側内部の SB105-107・114・314・315・317 と東側内側の SB119-121 は柱基礎の可能性が高い。

壁基礎：北辺土管に沿い撫子寮までグリ石上コンクリート基礎 SB109（平形断面、幅約 1m）が続く。中央に凸状の根太材部分（幅約 0.1m、高 0.4m 以上）が一部残る。南側では細長い基礎 SB103 と 108・314、104 と 315・105（約各長 2.0m 幅 0.6m）が対状態で東西方向の同じ位置にある。東側の L 字形にグリ石上へモルタルを貼った遺構 SB116（各長 3m 以上、幅約 20 cm）は、柱基礎 SB121 を壊す。

排水溝：北辺と南辺で、それぞれ施釉土管列 SD18（長 0.68m 径 0.19m）と SD20 を、撫子寮まで連続して検出した。共にほぼ同じ位置に、集水マスを設けていた（間隔約 6.8m）。

全体構造：南辺の外側と内側の壁基礎の間（SB114-104 幅約 1.8m）は廂下空間の可能性がある。また北辺の柱基礎群と壁基礎 SB109 間の狭い空間（0.7m）は、テラスだろうか。やや細長い SB102・313 が壁基礎なら、北辺までは 1.8m となる。南側に廂下が設置されていた改築以前と、北側に移った改築後の遺構が混在している可能性がある。

出土遺物（図 p.56・66-69・71-73　写真 p.106・112・115・121-123・125・126）

陶磁器では北西隅で、瀬戸美濃産白磁梅皿（CR095）・同銅版転写繊紡マーク染付飯碗（CR096）・同桔梗文染付飯碗（CR098）・同プリント牡丹文染付飯碗（CR099）を検出した。また西側の SB103 周辺で「小菅」墨書の二彩陶器甕（CR097）が出ている。南西隅の SB318 周辺で、「ホーカ液塀越」小型四角形瓶（GL107）・「ピノール香油」小型卵型瓶（GL108）のガラス瓶があった。中央の遺物廃棄場 SU5 近くでセルロイド櫛片の「中井 ?・セレ」線刻（HT25）・「山 ?・ハイノミヤイメ ?」線刻（HT26）・同葉文毛彫（HT24）が見られた。SB103 と 104 の中間で、骨製歯ブラシ（WT18・19）を確認した。後者からは、右行「上敷免製」細字刻印レンガ（非報告）を検出した。

撫子寮（含む浴室廊下 YR）

検出遺構と重複遺構（図 p.32　写真 p.138・140）

西側葦寮から続く東西方向建物だが、東端で排水路 3 を壊している。

柱基礎：正方形状に敷いたグリ石を東側で検出したが、南北方向に並ぶ SB326-328 と SB332・330・333 を除き規則的な配列は確認できない。ただ SB129・128・333・335・328 は同一線上の位置にある。

壁基礎：葦寮からの北辺基礎 SB109 が続くが、北東では 1.4m 離れて同様の上面にモルタルを貼ったグリ石の東西走向壁基礎 SB117・325（幅約 1m）が一部残っていた。それに接続して南北走向の SB127（長約 5.4m）があり、南側で東西走向の SB132B と接していた。北側に 4m ほど張り出す形での基礎 SB125 を検出し、その西 1.5m にはセメントの上に組まれた単一レンガ基礎 SB123 があった。

一方そのほとんど反対の南外側で、断面台形コンクリート製U字形基礎SB118（東西3.3m南北4.3m）を土管列SD20に壊された状態で確認した。その西辺外側と南辺外側には正方形の柱基礎SB320-323が2箇所ずつ接している。また南辺の南端には集水マスから延びる施釉土管列SD40・41（内径約0.1m）が接していた。

排水溝：西側葦寮から土管列が北辺SD18と南辺SD20に続くが、特に南辺の集水マスはレンガにモルタルを塗ったものだった。改築前のマスをそのまま使っていた可能性がある。東端でSD18は北側に約1m曲がり集水マスを通じて同様の土管列SD45として東へ向かっている。

全体構造：撹乱が多く、基礎の上部構造は残らないため明瞭だが、南側にテラス状部分（幅0.9m）、また北側に廊下状空間（幅1.8m強）があった可能性は高い。そのため1部屋の奥行きは約5.8mになる。北側張り出し部は遺物の出土状況から洗面所と思われる。東端での幅拡張は階段構造のためか。検出したのは、基本的に全面改築後の遺構と考えられる。なお『90年史』掲載写真（p.96）には、両辺排水溝の集水マスに繋がる樋間（6.4-6.8m）に2居室の窓が写っている。

また本体の基礎列とは僅かに軸が異なる南側張り出し部（浴室廊下YR）は、基礎の状態から菊寮と近い頃に建てられた単独部分で、後にさらに南側に拡張されたことが土管列より分かる。大正2年図以降、浴室へ向かう廊下があった位置で、それが部分的に改築された状態と推定される。

出土遺物（図 p.55・57・67-71・73　写真 p.105・107・114・115・121-124・126）

陶磁器では、SB124周辺から「志田山友製」肥前型紙刷染付小型湯呑（CR068）と型紙刷窓絵染付飯碗（CR070）が出土した。北側張り出し部周辺では、統制番号入り美濃プリント色絵湯呑（CR066）とロバ車図プリント瀬戸美濃色絵掛け花瓶（CR067）が見られた。南側張り出し（YR）のSB322周辺から、肥前系青磁染付段重（CR117）が出ている。

またガラス瓶の出土は比較的多く、北側張り出し部周辺から「繊紡新町工場醤局」扁平瓶（GL089）・「純植物性ポマード」短広口瓶（GL086）・「皮膚メンスワー保健薬」超小型円筒形瓶（GL083）、SB125から「神薬　保壽堂製」小型扁平瓶（GL078）、そして線刻セルロイド櫛も「□ヤメ」（HT19）・「ヨイ」（HT20）・「ナデシコ七」（HT21、SB125の東約5m地点）・「ヤザワヤス」（HT22）などとピン（HT50）があり、骨製歯ブラシ（WT14・15）も出土した。また南側張り出し部（YR）SD40集水マスでは「みや古染」小型円筒形瓶（GL118）と骨製歯ブラシ柄部を確認した。北西側から大型耐火レンガ（WB08）が出ている。

遺物廃棄場 SU2

検出状況と重複遺構（図 p.31　写真 p.159）

葦寮西端の基礎SB313・316の間で検出した略楕円形土坑（1.8×1.8×0.4m）である。

出土遺物（図 p.59・60・66・68・69・71　写真 p.108・109・112・116・117・121-125）

陶磁器は瀬戸美濃産の手描・型紙刷・銅版転写の各染付があるが、繊紡マークの銅版転写染付茶碗（CR153）も含め型成形品はない。一方紅彩染付合子蓋（CR152）が含まれていた。ガラス瓶は、化粧品関係で「平尾分店」小型広口十角形瓶（GL148）・「櫻香本舗守田謹製」扁平瓶（GL161）・香水瓶の可能性ある小型脚付瓶（GL163）、飲料で「特別上等　全乳　搾取所愛光舎　販賣所門奈」木紙栓の大型撫で肩長頸瓶（GL162）等があった。

他に製糸器具の白磁集緒器（FL16）、装身具でセルロイド櫛「十一パン中村ミツコ」線刻（HT27）・「〇〇スラ」線刻（HT28）・「卜子」線刻（HT30A）等5点、毛彫り髪留め（HT41・42）、金属製ヘアピン2点（非報告）、短い骨製歯ブラシ（WT20）があった。銅製指輪（MT07）と土坑底を中心に10点近い鉄製ロストル？（MT31）の敷かれた状態が注目される。

以上により土坑への廃棄は大正8年の葦寮建設直前頃と考えられるものの、集緒器のように製糸工場操業（大正10年）以降のものも混じっている。そのため昭和40年改築時に攪乱された遺物も含むことになる。出所は、寄宿舎内そして寮建設以前にあった社宅等の施設からのものが混在している。

遺物廃棄場 SU5

検出状況と重複遺構（図 p.31　写真 p.160）

薹寮の中央部の楕円形状（約東西 8m 南北 4m）に遺物散布域が広がるが、大規模攪乱と重なり特定の掘り込みは確認していない。大量に遺物を含む撹乱とも考えられる。

出土遺物（図 p.62・63・66・70・73　写真 p.110-112・118・123・126）

染付磁器は肥前窓絵蛇の目釉剥ぎ飯碗（CR212）を含む型紙刷の絶対量が多いが、手描・銅版転写・プリントも含まれる。他に、万古鶴文色絵急須（CR220）や「□□名産□□會社□□之章」押印箱型土製品（CR229）があった。

最も特徴あるのはガラス瓶で、48 点確認した同型コバルト色大型円筒形短頸瓶は平底（GL198）・凹み底（GL199：中型）・五稜星陽刻（GL200A）に分かれる。それらと組み合うガラス円筒形栓（GL200B1-5）も 5 種 21 点確認した。薬品瓶と思われる「BAU DEN PIPLRICE DU DOCTEUR PIERRE A.C.777.B」中型円筒形短頸瓶？（GL211）、「市川」小型円筒形瓶（GL215：アンプル？）などがあった。ここでの報告ガラス瓶の 2/3 は薬品関係だった。

他に白磁集緒器（FL22）・骨製歯ブラシ（WT57）・「前」押印耐火レンガ（WB010）も検出した。

遺物廃棄場 SU6

検出状況と重複遺構（図 p.31・72　写真 p.160）

薹寮東側の基礎 SB116 の東に広がる楕円形状（約 4 × 4m）で、SU5 と同様に撹乱と重なる。特定の掘り込みは、同じく確認していない。SU5 と似た大量に遺物を含む撹乱とも考えられる。

出土遺物（図 p.63・64・　写真 p.111・118）

陶磁器は型紙刷染付が目立ち、産地不明紅葉文飯碗（CR234）等碗類が多い。また肥前ゴム印？松童子文合子蓋（CR241）や瀬戸美濃亀甲繋鶴文銅版転写合子蓋（CR243）もあった。ガラス瓶は化粧品用の「平尾分店」小型広口十角形瓶（GL221）、そして大型撫で肩瓶（GL219：ワイン瓶？）があった程度である。

SU5・6 遺物出所・時期

2 遺物廃棄場は、SU2 同様に大正 8 年以前と集緒器など大正 10 年以降の遺物が混じり、全てが同一時期の廃棄ではない。古い廃棄場が昭和 40 年改築時に大きく撹乱され、型紙刷染付は両者に共通するが円筒形短頸瓶は SU5 に集中している。SU2 のように、出所は寄宿舎建物と共に工場内各施設からのものが混じったと考えられる。

SU2
SU5
SU6
SD18
SD20
SB99
SB100
SB101
SB102
SB103
SB104
SB105
SB106
SB107
SB108
SB109
SB110
SB111
SB112
SB113
SB114
SB115A
SB115B
SB116
SB117
SB118
SB119
SB120
SB121
SB122
SB126
SB312
SB314
SB315
SB316
SB317
SB318
大師下
X=31055
Y=46550
X=31103
Y=46530
(平面図)
1:150
0
5m

遺構

排水路3
SB123
SB125
SD45
SD18
SB109
SB338
SB117
SB325
SB331
SB131
SB124
SB127
SB332
SB336
SB326
SB130
SB330
SB329
SB327
SB129
SB128
SB133A
SB333
SB335
SB328
SB133B
SD20
SB320
浴室
廊下
SB118
大廊下
SB321
SB323
SD41
SB322
SD40
1:150
0
5m
塀子茶
32

F　教室(KS)

位置：調査範囲南東隅にあたり、建物東端から 10m で「芝生広場」の東境界になる。

変遷：大正 8 年食堂として建設、同 9 年寄宿舎に改築（大正 10 年現在 435 坪木造スレート葺平屋 4 室）、昭和 14 年頃再改築、20 年代前半社内学校の教室として利用、昭和 27 年内部再々改築。

検出遺構と重複（図 p.34　写真 p.141・142）

東西に長い建物（南北 7.8m、東西 12m 以上）の東端を検出した。重複遺構はない。

柱基礎：正方形（1 辺約 0.7m）状に敷き詰めたグリ石を最下層とするもので、21 基の単独基礎を確認した。その上の正方形構造（1 辺約 0.4m）は、粗いコンクリートと 2 段 4.5 枚のレンガを組んだものに分かれる。北側の 6 基は全て前者で上部構造を伴わないグリ石列が一部残り(SB160 と SB170 の西側)、レンガのものはさらに上段に 2 枚を残す例があった（SB153・157)。また南側の壁基礎 SB152 の中に 4 基のコンクリート正方形基礎が見られた。重要な例は東西に延びる長方形のコンクリート基礎（SB155、残存長さ 2.2m 幅 0.5m 厚さ 0.15m）で、その下には南北の基礎と一致する位置で 2 箇所のグリ石があり、しかも東側は他と全く同じレンガ積みが残っていた。またコンクリート上面中央には、根太材を載せた思われる突帯跡（幅 0.1m）も見られた。そのため、少なくともレンガ基礎からコンクリート根太基礎への改築が認められる。

壁基礎：南側で東西方向に延びる（6.7m）レンガ基礎である（SB152）。グリ石を敷いた上に 2 段以上のレンガを積み、東側の便所の南西隅に一致している。また少し深く掘ってグリ石を敷き、上にコンクリート正方形基礎の載せ、さらにレンガを積んだ部分が 3 箇所ある。そのうち中央と東側のものは、北側の基礎列走行と同じ位置である。

便所：建物の東端で、西側に並ぶ 7 個室（1.2 × 0.8m）とその東に接する 3 基の便槽で構成されるレンガ構造である（SB151、6.3 × 0.7m)。内側はレンガ上面にモルタルが塗られ、個室側から傾斜を持って便槽へ下がっている。便槽はモルタル基礎の上に 11 段以上レンガが積まれ（残存高 0.75m)、東側外面には補強のためのモルタル壁（厚さ約 0.1m）が 2 箇所残っていた。

排水溝：北東隅に正方形のレンガ側面積み 3 段以上の、集水マス部分（SD21、1 辺 0.6m）のみが残っていた。内外面にモルタルが塗られており、西に 4m 強離れた位置に溝部分と考えられる長い撹乱があった。

全体構造：東西両側と南壁の基礎の間（基礎間南北 1.6m）は、長方形（南北 6.4m 東西 4.6m）の空間となり、その東西両側に長方形部分（幅 0.9m）が設置されている。また北側の排水溝までの間に東西に長い空間（幅約 1.6m）があり、また便所までも同じ幅の南北走行の空間が認められる。SB155 の状態は、略正方形空間のコンクリート根太基礎による改築を示している。

出土遺物（図 p.54・67・69　写真 p.105・114・121・122）

便所からは「TRADE MARK K.S.」鶴丸文が銅版転写された完存の貼り合わせ白磁便器（CR060)、南側部分で「十五ば」線刻の櫛（HT16）が出土した。また便所のレンガには、403 点の刻印確認では萩寮の RB044 と共に 2 例しかない左から右に書かれた「上敷免製」刻印レンガ(RB267)が 1 点含まれていた。四角文色絵灰皿(CR059)と「TOYOTOKI」マーク銅版転写の白磁便器片（CR061）は、排水溝撹乱周辺で検出した。

SB151
SD21
SB158
SB159
SB160
SB156
SB157
SB155
SB153
SB154
SB152
SB162
SB163
SB170
SB164
SB165
SB166
SB167
SB168
SB169
SD211
SB209
SB210
A
A'
B
B'
H=63.00m
H=63.00m
0
1:80
2m
0
1:150
5m
0
1:50
1m

教室

G 仏間 (BM)

位置：調査範囲東側中央で教室の北 7m、建物東端から 4m で「芝生広場」の東境界になる。

変遷：昭和 2 年頃楽室（47 坪木造スレート葺平屋）として建設。昭和 15 年までに仏間兼裁縫室となり集会場としても使われた。昭和 27 年増築され、最後に昭和 35 年物干場となった。

検出遺構と重複遺構（図 p.36　写真 p.143・144）

東西に長い建物（南北 12.6m、東西 18m 以上）の東端を検出した。重複はない。

柱基礎：正方形（1辺約 0.5m）状に敷き詰めたグリ石を最下層とし、その上に正方形の砂礫を多く含む粗いコンクリート（厚さ約 0.1m）を載せたものを規則的並んだ状態で 29 基確認した。これらはグリ石なしで同じコンクリートにより薄く繋がれていた（SB182・188）が、大きめの石を中央に配したものが多いため、柱基礎と推定される。北辺から少し離れた位置の SB204 は、略正方形（1 辺約 0.8m）に均質コンクリートで平坦に作られ中央に小正方形（1 辺約 0.2m）の痕跡が残る。位置と技法が全く異なるので、上記の構造とは無関係と考えられる。

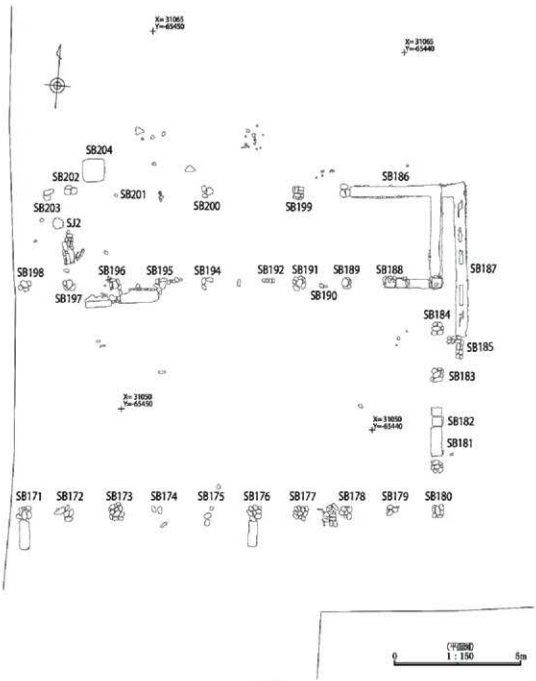
壁基礎：柱基礎より新しいものが、グリ石を敷き詰めた上に断面台形状に同様コンクリート（底幅約 0.4m）を長く載せた北東隅の SB186 で、頂部には根太基礎跡（幅約 0.1m）が残る。東辺に 1m 突出する SB185 も同様の可能性がある。一方、同じ位置で最も新しい SB187 は比較的均質な上面が平らなコンクリートで築かれ（断面平形）、中央には凸状に根太基礎が部分的に残る。南辺の柱基礎 SB171 と SB176 から南に約 1m 延びる基礎も同じ形状と判断できる。また北辺中央の SB195 と 196 の南側に倒壊した状態で残っていたコンクリート構造も、それと同様のものの可能性がある。

便所：北辺中央で、便槽と考えられる埋甕底部（SJ2）を検出した。

全体構造：壁と柱の基礎による建物（基礎間 1.8m）は、内部に全く柱基礎のない広い主空間（南北幅 9m）を中心とし、北側に東端から 3.6m 地点から始まる細長い副空間（南北幅 3.6m）がある。副空間の調査範囲西端は便所として利用されていた。後に北東隅の回みをなくす状態で改築され（SB186）、また北東隅から 6m に小さな突出部が設けられた。その後この突出部を覆う状態で東辺に増築がなされ（SB187）、同時に南辺 2 箇所に短く南に延びる構造が付加された。度重なる用途の変更から、このような小さな増築がなされたと考えられる。

出土遺物（図 p.52・70　写真 p.104・113・125）

埋甕 SJ2 内からは銭種不明の銅銭（CN01）が出土した。この周辺で統制番号の入った岐阜県瑞浪の曽根磁叟園製陶所製パピリオクリーム代用小型角瓶陶器（CR001）と食堂食器と推定される菊文色絵銅版型成形飯碗（CR003）が見られ、また柱基礎 SB204 の脇には王冠栓「東京第一ミルクプラント和田牛乳店」撫で肩瓶（GL001）が残っていた。他には近世の遺物が少しあったのみで、全体に遺物量は多くない。量の少なさは、この建物が生活空間ではなかったことを示していると思われる。


X=31065
Y=65450
X=31065
Y=65440
SB204
SB202
SB201
SB200
SB199
SB186
SB203
SJ2
SB198
SB196
SB195
SB194
SB192
SB191
SB189
SB188
SB187
SB197
SB190
SB184
SB185
SB183
X=31050
Y=65450
X=31050
Y=65440
SB182
SB181
SB171
SB172
SB173
SB174
SB175
SB176
SB177
SB178
SB179
SB180
(平面図)
0
1：150
6m
仏間

H 梅寮 (UM)

位置：調査範囲東側中央で仏間の北 15m、建物東端が「芝生広場」の東境界になる。
変遷：昭和 12 年頃建設、昭和 20 年代前半梅寮（平面 5 室）。

検出遺構と重複遺構（図 p.38　写真 p.145・146）

東西に長い建物本体の東側（南北 8.6m、東西 13m 以上）とその東に接する便所を検出した。当初は全てが撹乱された印象だったが、便所部分はレンガ構造を良好に検出できた。

柱基礎：明らかな柱基礎は確認できなかった。

壁基礎：グリ石を敷き詰めた基礎構造の最下部を東端部分で確認した。東西走向（SB212・213・215・216）と南北走向（SB207・214）に分かれるが、それぞれを明確に分離することは難しい。標準の幅は 0.5m で、SB212 のみは 1m ほどと広い。また南北走行のものは、便所跡 SB205 の西端と一致する。

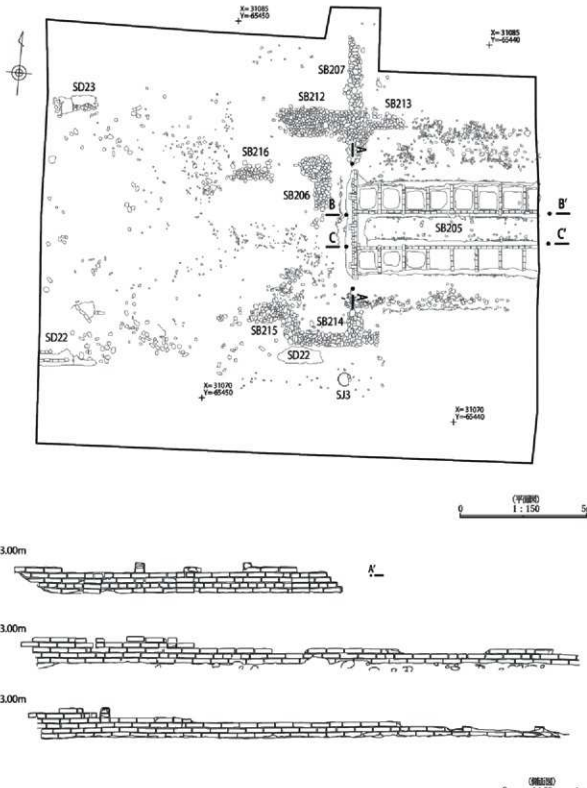
便所：便所 SB205 は、レンガを積んで築かれた東西に並ぶ 8 室の便槽跡 2 列で構成される。グリ石基礎の上に礫を多く含むコンクリートを貼って下部構造とし、その上にレンガを積んで内幅 0.9m の便槽を設けている。各便槽底は二重にモルタルを貼って（当初：南北、2 回目：東西）中央が凹む状態を作っているため、便器はそれぞれの直上に設置されていたと考えられる。両列の外側に約 0.8m それぞれ離れて、便槽と平行して走るレンガの撹乱ラインまでが通路ではないか。また便槽列間の細長い空間（幅 1.3m）は糞尿の搬出用部分だろう。一部で 6 段残っていたレンガ積みは、羊羹型をやや多く使っている。

排水溝など：調査範囲西端で、建物本体の南北辺に設けられた排水溝の一部が残っていた。グリ石基礎の上にモルタルを貼って底とし、その上に 2 列のレンガを積んだ構造である。北側（SD23）は極めて小範囲のみの残存だが、南側（SD22）は建物南東隅付近にレンガ跡を残すモルタル面を確認した。また南側のさらに外側に鉄薄板で閉めたモルタル製円筒形容器（直径 0.5m、SJ3）の底部を検出した。

全体構造：壁基礎と排水溝の位置から、南北両辺に細長い空間が東西方向へ延びていた可能性が推定できる（幅：北約 2.0m、南 0.9m）。それらに挟まれた部分（南北約 5.4m）内には、顕著な基礎跡は見られない。また便所との間には通路空間（幅 1.2m）があり、南端では幅が倍ほどに広がっている（SB214）。北東端の SB207 周辺が洗面所と思われる。

出土遺物（図 p.57・71・73　写真 p.107・115・124・126）

便所からは白磁製便器（CR111）以外に、統制番号入り美濃窯業製国民食器皿（CR113）・鉄製機械部品（MT28・29）が出土した。また百円硬貨 3 枚と 10 円硬貨 1 枚も出土した（非報告）。ここで確認したレンガ刻印は全て右行「上敷免製」（RB351・358）で、刻印幅は前者が狭く後者が広い。建物の南外側で産地不明褐釉青磁飯碗（CR110）と瀬戸美濃産手描染付茶碗（CR112）・「ヤマト糊」ガラス超小型広口瓶（GL115）を検出した。撹乱が大きかったため、遺物出土量は少ない。


X=31085
Y=65450
X=31085
Y=65440
SB207
SD23
SB212
SB213
SB216
SB206
B
B'
C
C'
SB205
SD22
SB215
SB214
SD22
X=31070
Y=65450
SJ3
X=31070
Y=65440
(平面図)
0
1:150
5m
H=63.00m
A
A'
H=63.00m
B
B'
H=63.00m
C
C'
(断面図)
0
1:50
1m

梅寮

l 竹寮 (TK)・松寮 (MT)・排水路 4(HS-4)

位置：調査範囲北側で、竹寮は西端と東端、松寮は南辺のみを調査した。
変遷：大正 14 年頃に建設される（竹寮 7 室平面、松寮 5 室平面）。

竹寮

検出遺構と重複遺構（図 p.41-43 写真 p.147-151）

竹寮は東西方向建物（南北 9.8m、東西 57.4m）の両端のみが調査範囲となった。西端は大廊下と合流して排水路 2 が平行し、東端は排水路 4 が接する。全体に遺構の残存状況は良好だった。

柱基礎：グリ石上に粗いコンクリートを塗ったレンガ積み構造で、大型（12.5 枚、0.6 × 0.6m）を西側南辺で 2 基 SB357-358・北辺で 6 基 SB349-354、東側南辺で 3 基 SB383・395・396、北辺で 2 基 SB371・372 を検出した。また中型（10 枚、0.6 × 0.4m）を西側で 5 基 SB341-345、東側で 1 基 SB373 を確認している。SB342 は同じ長方形コンクリート基礎の上に南北方向にレンガ積み中型 2 基を近接して並べ、SB343 と 344 は同じグリ石上に東西方向に並んでいる。SB345 も後者と同様に本来 2 基があった状態である。他に小型（2 枚、一辺 0.2m 強）2 基 SB361・362 が西側の北外にあった。

壁基礎：推定根太材基礎の幅広く（約 0.5m）長いレンガ構造を東西走向 2 列 SB346・378 と SB355・375、南北走向を西側で 1 列 SB359（長 7.2m）、東側で 2 列 SB377（長 7.6m）・376（長 2.0m）検出した。SB346 は西端から 8.6m 地点及び東端から 3.2m 地点で L 字形に屈曲して 1.9m 内側に入って伸びている。東側では L 字形 SB377 が先に築かれ、そこに東西走向の SB378 が接続されている。

便所・洗面所：建物の両端で、2 傾斜部と長方形便槽（3.1 × 0.7m）のセットが分離した状態で南北に並ぶ同型の便所を確認した。西端 SB347 は便槽西端から 1.8m 離れた個室入り口部の南北に走る壁基礎も良く残っていた他に、傾斜部と便槽を繋ぐ 2 段レンガ積みアーチ構造 2 基も残存していた。便槽基礎からアーチ上面までは 13 段のレンガが積まれ、内側はモルタルが塗られている。東端 SB374 も同型だが、アーチ構造は壊れていた。SB347 と SB359 の北側で SB355 を挟んだ建物北西隅にはレンガ 1 個幅（約 0.2m 強）で囲われた空間（5.2 × 3.3m）SB348 があり、南東側に入り口（幅 1.8m）が空いていた。位置と出土遺物より洗面所と考えられる。その西側に塀基礎 SB356 を確認し、また北側には長方形（3.2 × 1.1m）にレンガで囲い内側にモルタルを水平に貼ったと思われる空間 SB360 が見られた。東端の北東隅にも似た広さの空間 SB372・376 があったが残りの状態は不良だった。

排水溝：南辺では SB346 から 0.7m 離れた位置で、レンガを積み内面にモルタルを貼った排水溝 SD49（幅 0.4m）を検出した。東西両部分で、この排水溝の集水マス（一辺 0.7m）各 1 箇所が残っていた。南辺では他に SB346 と SB359 の交点付近で単独の小型集水マス（0.5 × 0.4m）SD52 があり、また北西隅では SB360 と重複する状態で中型集水マス（0.6 × 0.6m）から斜めに走る土管列 SD50 を確認した。北東隅近くでは、4 方向に土管が延びる中型集水マス SD59 があった。西端の西側と東端の東側に沿って施釉土管を繋げた南北走行排水路 2 と排水路 4 があり、後者は集水マス 4 箇所を検出した。

全体構造：南辺の L 字形壁基礎 SB346 と大型柱基礎の関係は、同時期に建設された萩寮の SB08 とかなり類似している。そのため萩寮の似た位置にある小型柱基礎 SB343-345 の東側は、居室（南北 5.7m 東西 4.7m?、南側テラス幅 1.8m）であった可能性が高い。また北側壁基礎 SB355 の北側で東西に延びる空間（幅 1.8m）は廊下と考えられる。一方西端便所の東側の壁基礎 SB359 と柱基礎 SB341・342 の位置は、南から延びる大廊下の柱基礎走行と一致している。この部分の東側にあたる SB346 の L 字形屈曲は、二階への階段施設部分とするのが妥当である。東端部分では大廊下相当部分がなく、L 字形屈曲部が直接便所 SB374 に接している。

出土遺物（図 p.56・57・66・68-73 写真 p.106・107・112・115・122・123・125・126）

東端では SB374 から瀬戸美濃産白磁便器（CR103）、「PILOT MADE IN JAPAN」小型扁平四角形瓶（GL110）そし

て白磁集緒器（FL07）、SB376 周辺から「500 Gram」色絵片口椀（CR104）が出土した。SB377 周辺で「入」線刻のセルロイド櫛（HT35）、SB372 周辺で同ピン（HT59・60）、SB375 周辺で骨製歯ブラシ（WT64）を確認した。他に骨製歯ブラシ柄部 3 点（SB371・375・377、非報告）もあった。

また西端では、北辺で美濃窯業製統制番号入り国民食器丼（CR106）及び瀬戸美濃産国民食器皿（CR108）が見られた。SB348 では、「セイレン中村キリ子？」線刻セルロイド櫛（HT36）、同ピン（HT61・62）そして 2 点の骨製歯ブラシ柄部を検出した。

SB347 では十円硬貨と五円硬貨各1枚（非報告）と木製下駄（WD1）、SB374 では木製サンダル（WD2AB）を確認した。なお SB377 のレンガには、右行「上敷免製」刻印レンガが 2 個（RB342・345）あった。他に同種刻印レンガが西端では 6 個（SB346・347・351）、東端では 32 個（SB374・376・377・395）、そして SD49 から 2 個検出した。

2 寮中間（大廊下北）（図 p.42、写真 p.151）

柱基礎：グリ石上の粗いコンクリート上に、縦長直方体を 2 個接続させた大型（0.6 × 0.6m）3 基 SB364-366 を中央部分で確認した。竹寮と松寮を繋ぐ廊下（大廊下北）の基礎と考えられる。

その他：モルタルを塗った長方形（約 2.0 × 1.5m）の何らかの貯水施設的遺構 SB363 を、上記基礎の 10m 西で検出した。

松寮（図 p.43、写真 p.151）

柱基礎：やや横長長方形（0.8 × 0.6m）のグリ石基礎 4 基 SB367-370 を、次の排水溝に接して東西に並んだ状態で確認した。最東端の SB370 は 2.6m の長さで、2 基の共通グリ石かもしれない。

排水溝：モルタルを内側に塗り両側レンガ積みで東西に走る SD54 を、柱基礎に沿い 8m 検出した。

その他：SD54 から南に 3m 離れて、弧状にレンガを並べた SW2（長 3m）を確認した。

出土遺物（図 p.54・66-69　写真 p.105・114・121・123）

SD54 から瀬戸美濃染付銅版転写盃（CR064）、推定建物範囲東側で産地不明飴釉掲彩湯呑（CR065）を確認した。後者近くで「□ラ□サイ□七セイレン渡辺ハキ用？」線刻セルロイド櫛（HT18）と骨製歯ブラシ（WT13）、また SD54 から外側に少し離れて不明線刻セルロイド櫛（HT17）が出土した。

排水路 4

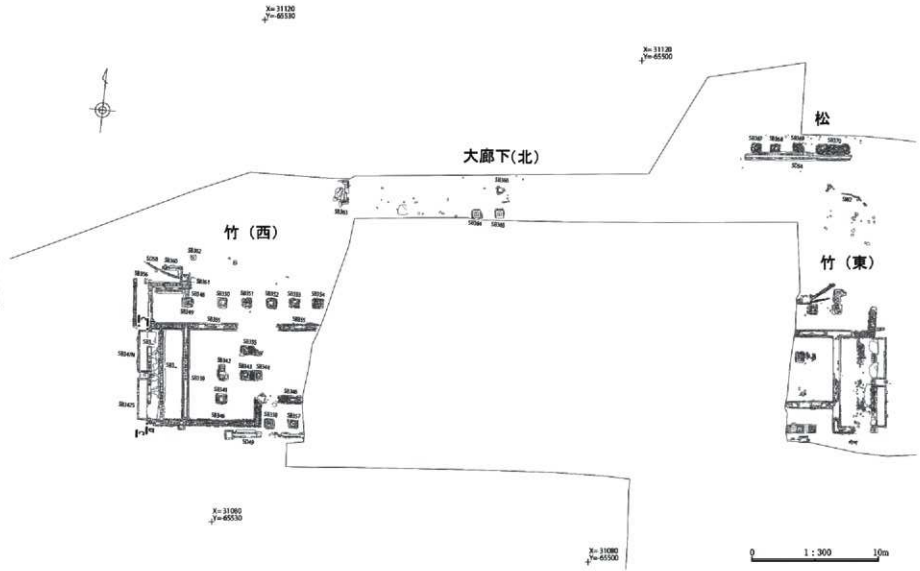
検出状況（図 p.43・51　写真 p.150）

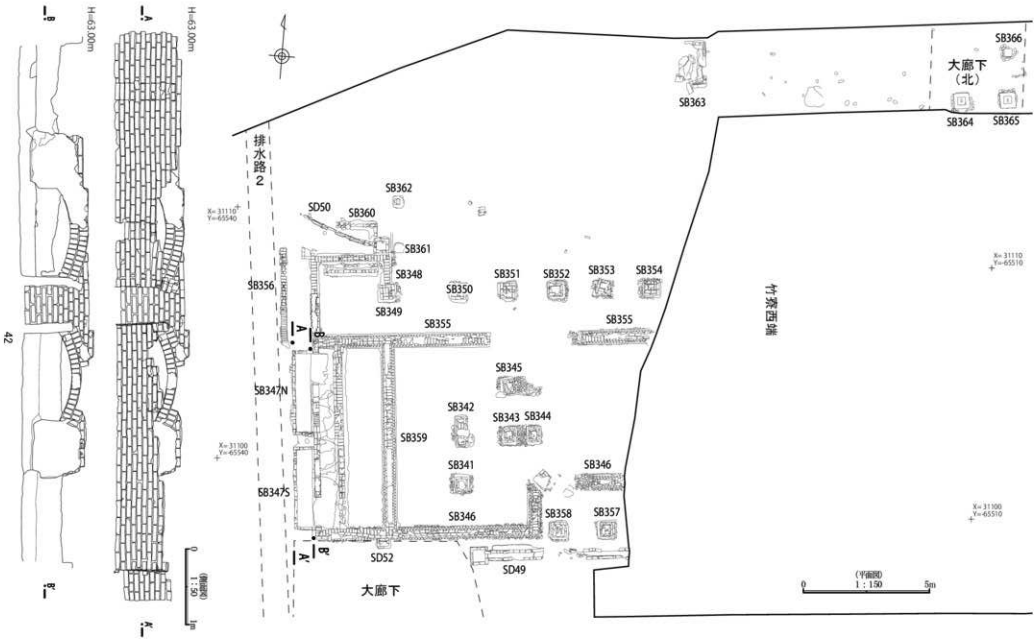
藤寮西端の SB379 と竹寮東端の SB374 の間で 15m 以上延びる南北走向施釉土管列 SD58 のマス 4 基を検出した（土管本体全体の発掘は調査期間の関係で行えなかった）。その最北端の A マスには北から逆 L 字形走向の SD56、そして南より藤寮北辺排水溝 SD60 西端のマスからの SD57、さらに南西側竹寮北辺方向からの 3 本の施釉土管列が合流していた。南側の B マスは竹寮東端便所 SB374 中央部からの土管、C マスには藤寮南辺の排水路 SD41、最南端のマス D には竹寮南辺の排水路 SD49 が入っていた。

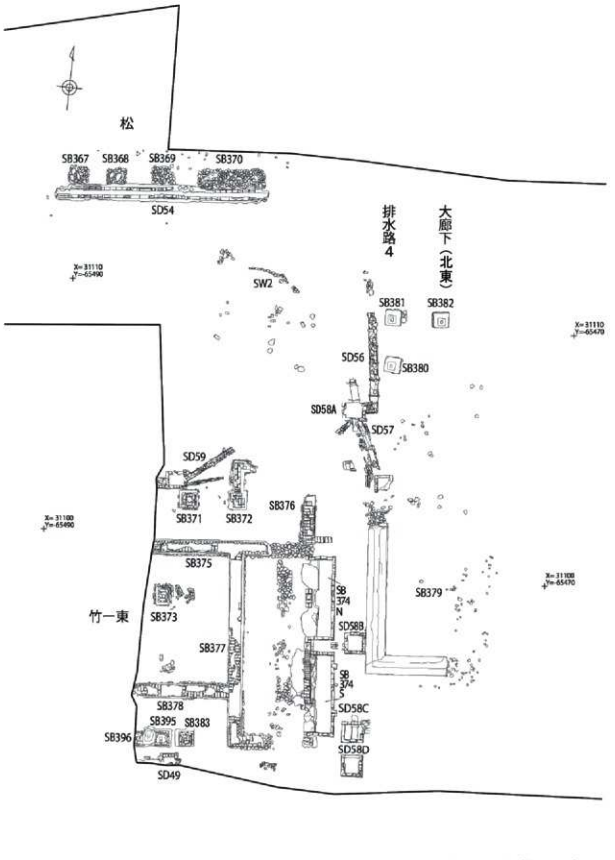
出土遺物（図 p.53・66-68・70　写真 p.104・105・113・120・122・123）

SD56 からは瀬戸美濃産青磁小鉢（CR033）・「□ツネノ□」線刻櫛（HT07）・花形髪留め（HT38）・「クリヤー・インキ」小型四角錐瓶（GL039）、SD58 からは「明治スカット」大型瓶で肩瓶（GL040）・グラス（GL043）・取手付きカップ（GL044）・「梅之□山之ミヤ？」線刻櫛（HT08）・「ヤマダシメコ」線刻石鹸箱（WT73）・「テツコ」ペン書き石鹸箱（WT74）などが出土した。

以上により、竹・藤・百合寮の建設後に設けられた最終排水路で、寄宿舎群生活の最後まで機能していたものと考えられる。


X=31120
Y=65530
X=31120
Y=65500
松
大廊下(北)
竹（西）
竹（東）
X=31080
Y=65530
X=31080
Y=65500
0
1:300
10m


A
H=63.00m
B
A'
B'
42
排水路2
SD50
SB360
SB362
SB361
SB348
SB349
SB356
SB350
SB351
SB352
SB353
SB354
SB355
SB355
SB345
SB347N
SB342
SB343
SB344
SB359
SB341
SB346
SB347S
SB346
SB358
SB357
SD52
SD49
大廊下
SB363
SB366
大廊下
(北)
SB364
SB365
竹資置場
X=31110
Y=65540
X=31100
Y=65540
X=31110
Y=65510
X=31100
Y=65510
0
1:50
5m
(平面図)
1:150
5m


松
SB367
SB368
SB369
SB370
SD54
排水路4
大廊下（北東）
SW2
SB381
SB382
SD56
SB380
SD58A
SD57
SD59
SB371
SB372
SB376
SB375
竹一東
SB373
SB374N
SD588
SB379
SB377
SB374S
SB378
SB395
SB383
SB396
SD58C
SD58D
SD49
X=31110
Y=65490
X=31110
Y=65470
X=31100
Y=65490
X=31100
Y=65470
0
1:150
5m

竹寮東端・松寮・排水路4

J 大廊下 (OR)・排水路 2(HS-2)

位置：寄宿舎群を南北に結ぶ屋根付き廊下で、調査範囲中央西側に位置する。

変遷：大廊下の前身は大正 2 年には存在していた菖蒲寮中央と撫子寮西端を繋ぐ廊下で、大正 14 年頃に建設された萩寮と竹寮の各西端まで延長された（大廊下西）。竹寮内北側の廊下を経て松・百合寮まで繋がる（大廊下北・北東）。排水路 2 は大廊下の西側に南北に伸びる太い施釉土管列である。

大廊下

検出遺構と重複遺構（図 p.45　写真 p.152・153）

等間隔幅（約 2.7m）で南北に伸びる柱基礎群の走向（大廊下西）は、竹寮西端の壁基礎 SB359 と柱基礎 341・342 などと一致する。しかし撫子寮南側に当たる南端部では西列の位置に柱基礎 SB324 を確認したが、より古いモルタル塗り水路 SD42 とレンガ蓋水路 SD46 などが重複していた（大廊下南）。

柱基礎：上記コンクリート製 SB324 を除けば、全てグリ石の上に粗いコンクリートを敷いてレンガを 4 個半積んだ小さなもの 10 基（間隔 1.8m）SB339・340・286・287・44・09・84・89・92・93 を同一線上に検出した。

壁基礎：竹寮から 5m 南の位置の両側に柱基礎を隅としてグリ石上にコンクリートを載せた二つの正方形空間 SB284・285（北側突出部、1 辺約 2m）を確認した。西側の SB284 の北西側にはさらに長方形（約 5 × 1m）の同様の基礎 SB279・294 が後補されている。また萩寮の北西部分に接して鉄筋コンクリート長方形基礎（5.6 × 3.6m）SB47 があった。南端部では南北走向のコンクリート基礎 SB319 と 334 を確認したが、残存状況は不良である。

その他：萩寮から 3m 南の位置に 1 枚のレンガを並べた 2 基の正方形空間（1 辺 1.8m）SB04・05 による南側突出部がある。内側はモルタルを貼った痕跡があり、また両者の中間部分 SB06 もモルタル塗布面をなしていた。両者の内側隅は柱基礎があり廊下の一部となっている。

全体構造：全体残存は不良だが、50m 近く直線で伸びる企画性は顕著である。竹寮内北辺の廊下を経て北側（SB364-366）と北東部分（SB380-382）の柱基礎も松・百合寮への通路として繋がる。両突出部の性格の特定は難しいが、モルタル塗りの南側は外へ降りる出入り口が想定できる。また南端部は大正 5 年頃便所があった場所で、斜行の SD46 等の水路はそれとの関係が推定される。

出土遺物（図 p.55・66・69-73　写真 p.106・112・114・115・123-126）

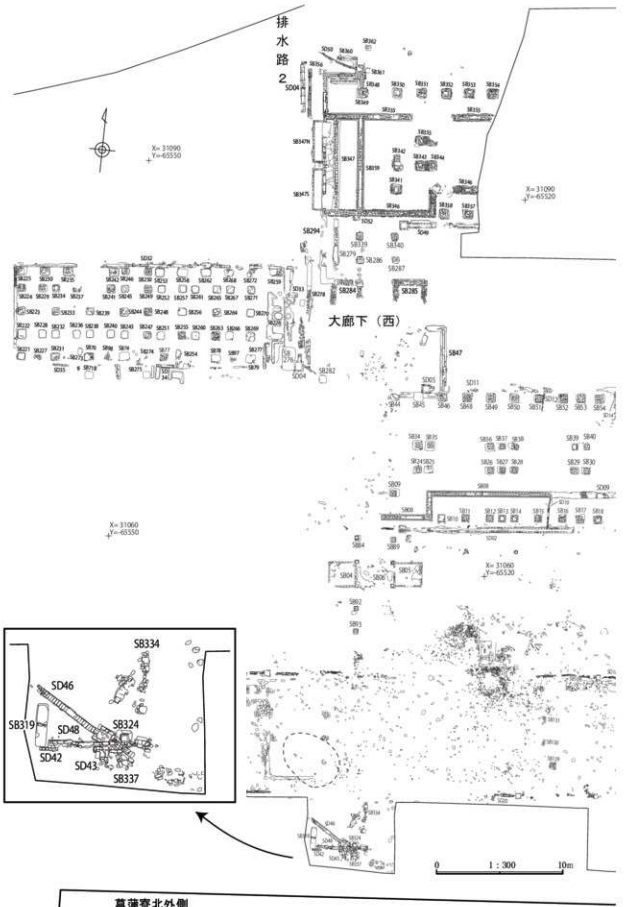
陶磁器では「越」字手描染付の飯碗（CR074）と型紙刷鶴松文窓絵皿（CR075）が、南端部で出土した。ガラス瓶では化粧品瓶推定「ヤマ　マツ」十角形瓶（GL096）と「櫻屋製」小型円筒形瓶（GL100）が出た。セルロイド製耳掻き（WT75）・小型合金支え具（MT22）・同「MADE IN GERMANY」陰刻機械部品（MT23）、さらに白磁製集緒器（FL04）とガラス製フリカギ（FL15）も検出した。また右行「上敷免製」刻印レンガ（RB295［細字］・296・304［小型印］）を確認した。

排水路 2

南北走向施釉土管列 SD04 は約 25m を検出したが、調査の手順により検出部分は両端のみである。南端部分はレンガ製の集水マスで、南東方向から径の小さな施釉土管列が合流している。

全体構造：集水マスは隔離室北棟の南東隅に接するが、確認した流路は萩寮北辺からのみである。位置から萩寮・竹寮の建設時の設置で、当初から施釉土管だったかは不明である。

出土遺物：顕著な遺物は出土しなかった。


排水路2
大廊下（西）
X=31090
Y=65550
X=31090
Y=65520
X=31060
Y=65550
X=31060
Y=65520
SB334
SD46
SB319
SD48
SB324
SD42
SD43
SB337
0
1：300
10m
蒼蒲寮北外側

大廊下・排水路2

K 排水路 3(HS-3)・遺物廃棄場 SU1

位置：調査範囲中央に位置する。

変遷：大正 2 年建設の撫子寮の東と南側、大正14年頃建設の萩寮東側に、それら以前に存在していた排水路網。

排水路 3

検出遺構と重複遺構（図 p.47 写真 p.154・155）

南北走向の SD37（幅 0.5m、長 44m 以上）と東西走向 SD39（幅 0.4m、長 13m 以上）で構成される。それぞれ萩寮・撫子寮より古く、また前者は北端で SU1 に壊される。

排水溝：両溝は内面がモルタル塗布されないレンガ造で、前者は 15m の間隔で 2 基の大型集水マス（1 × 1m 以上）を備える。北側マスから先は無釉土管列（内径約 0.3m）に変わっている。南側マスに後補の施釉土管敷設跡が東側に残っていた。後者は西端で細いレンガ排水路 SD44（長 2m）を壊し、東側一部は撫子寮施釉土管列 SD47 に壊されている。SD37 と 39 の交差部分は撹乱されていた。

全体構造：SD37 北側土管部分は南北方向に長い建物があった可能性が高いが、その痕跡は確認できなかった。位置からは、大正 6・7 年頃に建設された便所と洗濯場があった場所に近い。南側マス東側の土管も建物を想定でき、撫子寮位置設定に関係したと思われる。

出土遺物（図 p.53・66-70 写真 p.104・112・113・120・122・123）

SD37 周辺で「MENUMA POMADE 岐 723」代用小型広口瓶（CR022、溝外）・型紙刷菊文飯碗（CR024）・同鶴松文皿（CR025）・同桐文飯碗（CR030）を検出した。ガラスは「脇田」小型広口瓶（GL032）・「MENTUM HANKYU KYOYEI」小型円筒形瓶（GL033）・「IZUTSU」扁平短頸瓶（GL027）等で、他に「青木愛子」線刻セルロイド製櫛（HT06）・同ヘアーピン（HT46・47）・手鏡（HT64）・「丸山」プラスティック石鹸箱（WT72）・骨製歯ブラシ（WT06）と白磁集緒器（FL02）が出土。

遺物廃棄場 SU1

検出状況と重複遺構（図 p.47 写真 p.159）

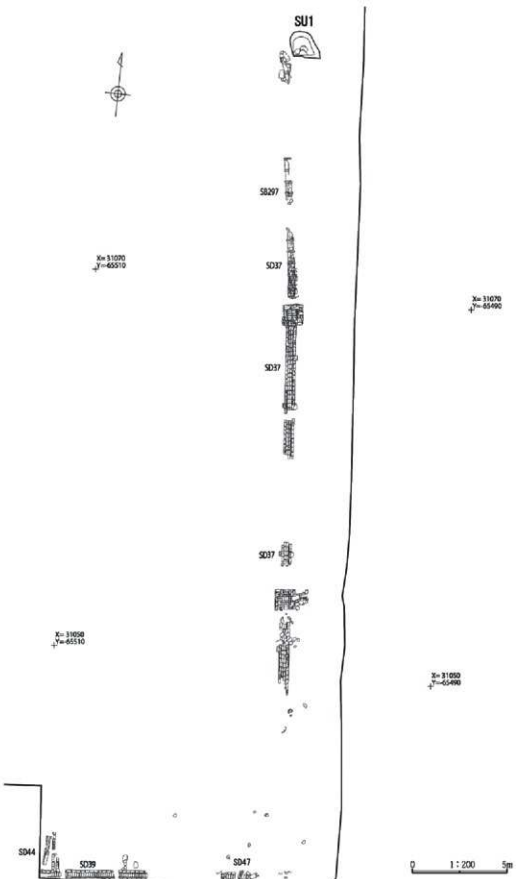
SD37 北端の土管部分を壊した状態での、楕円形土坑（2.2 × 1.2m）である。

出土遺物（図 p.57-59・66・71 写真 p.107・108・112・115・116・124）

陶磁器は、各種プリントと手描洋皿が瀬戸美濃産（CR133・136・138・139）と「富士山印硬質」陶器（CR140）があった。統制番号磁器では美濃窯業製皿（CR135）・美濃多治見産「繍紡新町 岐 19」石版色絵湯呑（CR141B）・瀬戸産「瀬 383」手描掲釉染付小鉢（CR144）があり、国民食器では美濃窯業製鉢（CR147）・瀬戸美濃繍紡マーク皿（CR134）・同井蓋（CR137）を含んでいる。また瀬戸美濃産？青磁銚子（CR145）・瀬戸美濃染付手描囲碁絵小皿（CR131）・手描プリント山水文染付長方形皿（CR124）・大堀相馬産白磁灰皿（CR122）・笠間系？刷毛目土瓶（CR148）もあった。信楽産長石釉分業式煮繭鍋（FL12A）は、排水制御木棒（FL12B）が残る完存状態だった。

ガラス瓶は超大型短頸瓶（GL138）があり、また「キリンビール」大型撫で肩瓶（GL125）・キックアップの大型撫で肩瓶（GL129）・大型撫で肩瓶（GL130：一升瓶）などのアルコール容器の他に、「全乳」紙栓撫で肩広口瓶（GL135）、「養命酒」扁平瓶（GL131）・「EYE LOTION ROHTO」小型扁平点眼容器（GL132）などの薬瓶、「ELINA」小型広口十角形瓶（GL139）・「Poppy」小型広口六弁形瓶（GL140）のような化粧品瓶があった。

全体状況：昭和 16（1941）年の製糸部縮小との関係が想定できる煮繭鍋など、廃棄遺物は寄宿舎で使われていたとは考えられない。統制記号磁器とキリンビールより、同年頃から昭和 21（1946）年までの廃棄と推定できる。



排水路 3・遺物廃棄場 SU1

L 藤寮 (FJ)・百合寮 (YJ)・遺物廃棄場 SU4, SX4

位置：調査範囲北東隅で、西端で竹寮・松寮と接する。

変遷：百合寮は大正 14 年頃、藤寮は昭和 10 年頃に建設される（各 5 室平面）。

藤寮

検出遺構と重複遺構（図 p.51　写真 p.156-158）

南側で東西方向建物（南北 8.4m、東西 36.0m）と東端の便所（南北 12.2m）を検出した。北東隅張り出し部（4.6 × 2.5m）の外側に、2 箇所の遺物廃棄場（北東 1.5m で SU4、北 3m で SX4）があった。また西側 3 分の 1 ほどは大きく撹乱されていた。

柱基礎：グリ石上の正方形コンクリート製（一辺 0.6m、厚 0.3m）で上面に方形突出部を持つ。南辺 13 基（SB384-390・403-407・416）並び、内側で 5 基（SB391・392・412・414・421）を確認した。

壁基礎：グリ石上に断面台形のコンクリート構造を築き、頂部に根太材受け部（幅 0.2m）が突出する構造である。東西に延びる幅広基礎を 3 列（SB393・402・409、幅 0.7m 強）と南北走向基本のやや狭い 5 列（幅 0.6m 強、SB401 長 7.2m、SB379 長 6.5m 以上、SB413・417 長 5.4m、SB418 残存 2m）がある。SB413 から西に張り出す SB398・415 は明らかに壁基礎で、同じ位置の SB410・411・419・420 もその可能性がある。西端の SB379 は南端で東方向に直交して 2.8m 残っていた。また東端の SB401 は北辺からさらに伸びて上記長方形張り出し部を形成する（SB394・399・400）。

便所・洗面所：北東隅張り出しは洗面所だろう。建物本体東端から約 1.8m 離れてコンクリート壁基礎（約 1m）と内部がモルタルで塗られた長方形空間（1.4 × 0.6m）が 6 個南北に並ぶ SB408 があった。2 個室用便槽列と考えられる。

排水溝：グリ石上にモルタルを貼り、両側レンガ積構造（内幅約 0.2m 強）の排水溝を南北辺で部分的に検出した（南辺 SD61 残存長 25.4m、北辺 SD60 残存長 31m）。SD61 は西端集水マスから排水路 4 の SD58C マスへ土管で繋がり、SD60 西端マスは土管 SD57 を通じて SD58A マスと結んでいる。

全体構造：北辺の SB393 と 402 の間（幅 1.8m）は仕切りが全く見えず、長大な廊下空間と推定される。また SB409 と柱基礎の間（幅 0.9m）は萩寮などと同様のテラス部分だろう。SB413・417 及び南北の壁基礎で囲まれた部分が 1 室空間（南北 5.6m、東西 4.4m）で、そこには南北に並ぶ柱基礎により東側に押し入れ空間（幅 1.2m）が想定できる。西端の壁基礎 SD379 が東へ曲がる部分と排水溝の土管部分は、萩寮や竹寮と同様に張り出した階段部分と思われる。同じ昭和 2 年平面図初出の萩・竹寮とは、基礎構造が全く異なっている。

出土遺物（図 p.52・66・68-70・71　写真 p.104・112・113・120・122-125）

陶磁器の出土量は少なく、近世のものを除けば顕著なものは SB401 から瀬戸美濃黒釉染付湯呑（CR005）、便所 SB408 から同青磁便器（CR006）が出土した程度である。便所からは他に角製裁縫用ヘラ（OT03）・不明銅貨（CN02）・鉄製長金具（MT26）が出土した。ガラス瓶は洗面所 SB400 付近から「白元」超小型円筒形瓶（GL002）、そして SD61 集水マスから「神藥資生堂製 SHISEIDOTOKIO DISPENSARY」小型扁平八角形瓶（GL003）が見られた。SB404 付近から「ノ四　武井しづ」線刻セルロイド櫛（HT02）、SD60 中央北外側で「引口 ?」線刻セルロイド櫛（HT01）を検出した。また SB399 付近で「武寮の五号室　清水」線刻大型差し櫛（HT37）を確認した。SD60 と 61 に、右行「上敷免製」刻印レンガ 3 点が含まれていた。

百合寮

検出遺構（図 p.51、写真 p.156・158）

藤寮から北に 12m 離れて東西方向建物（東西 25.5m 以上）南辺を検出した。

柱基礎：次の排水溝に沿って、グリ石に貼られたコンクリート基礎 SB397 を検出しただけである。

排水溝：東西方向に延びるグリ石上両側にレンガを立て、内面モルタル塗布の SD55（長 24.5m）を部分的に検出した。西端で逆 L 字形に 0.9m 屈曲するが、その後の延長方向は西側の松寮 SD54 に一致している。

出土遺物（図 p.57 写真 p.107・115）

調査範囲僅少のため、絶対量は少ない。陶磁器は、SD55 内から「幹山」銘瀬戸美濃産手描黒釉染付盃（CR114）、西端付近で同銅版転写型成形染付茶碗（CR115）が出た程度である。排水溝東外側では、三日月ロゴが陽刻された小型卵型ガラス瓶（GL116）があった。

中間地点（大廊下北東）（図 p.51、写真 p.156）

柱基礎：グリ石の上に貼られた厚い正方形コンクリート基礎 3 基 SB380–382 が、SD60 西端マスから北に 4.4m で検出した。南北 2.4m 東西 1.8m の間隔で並び、西側の南北走向は SB379 の延長線上にあたる。いずれも頂部に長方形の窪みがあり、藤寮と百合寮を繋ぐ廊下の基礎と考えられる。

遺物廃棄場 SU4

検出状況（図 p.51 写真 p.160）

藤寮北東隅の洗面所と便所北端の近くで、集中した大量の磁器碗を確認した。それらの磁器を除去すると、不定形皿状（直径 1m、深 0.3m 程度）の掘り込みになった。

出土遺物（図 p.61・62・66・68・69 写真 p.110・112・122）

瀬戸美濃銅版転写型成形色絵雪の下文飯碗（CR197）76 点、同菊文飯碗（CR196）45 点、それらの破片の可能性ある色絵？飯碗片（CR202）72 点が量的に多い種類で、他にも 22 点の各種銅版転写碗があった。皿は肥前銅版転写牡丹窓絵山水文褐釉染付大皿（CR200）を含め 7 点しかなかった。

これらの種類は、食堂からの同種磁器碗に集中した廃棄状況を示している。ただ SB399 東端とほぼ接するため、昭和 10 年頃の藤寮建設直前と考えるのが妥当である。

遺物廃棄場 SX4

検出状況（図 p.51 写真 p.159）

SU4 の北西側に比較的広い範囲（約直径 3m）で、ガラス瓶を含む各種遺物が確認面で散乱していた。ほぼ遺物を取り上げると隅丸方形の土坑状掘り込み（一辺約 2.5m、深約 0.4m 以上）になったが、調査時間制限のため完全には遺物を取り上げできなかった。

出土遺物（図 p.64–66・68・70 写真 p.111・112・118–120・122・123）

陶磁器は 27 種を報告するが、複数点数出土の同一種類はない。興味深いものとして、「マスター」化粧品代用白磁扁平小瓶（CR244）・「Moncoco」化粧品代用透明釉陶器小瓶（CR264）・瀬戸美濃吹絵染付富士茄子文飯碗（CR245）・「昭和十三年上半期新町工場紡績部第一位獲得記念・人一倍の事を為すに非ざれば一倍の人となること能わず」上絵瀬戸美濃青磁湯呑（CR254）・「東海硬質磁器 MARUKO」プリント白磁金赤彩アールデコ様式湯呑（CR255）・「親と歯は大切に 新町桜井歯科医院 硬質磁器」型成形ゴム印？色絵湯呑（CR256）・美濃窯業製国民食器丼（CR258）・「岐 258」銘透明釉陶器代用小瓶（CR263）・横浜産巴雷文貼付黒釉陶器花瓶（CR265）・産地不明「MARY HAD A LITTLE LAMB」プリント色絵陶器コーヒーカップ（CR270）があった。

ガラス瓶類も大量に出土したが、ここでは 72 点を報告する。化粧品関係では、「TSUKIBIJIN 月美人」小型扁平四角形瓶（GL230・231・241）・「ANDO」小型扁平卵型瓶（GL232）・「Juju」小型逆四角錐瓶（GL240）・「ヘチマコロン」扁平撫で肩瓶（GL250）・「MASTER SHOBIDO」小型扁平卵型瓶（GL272）・「お染ポマード」短広口瓶（GL276）・「共榮會特製ボンネットクレ」小型広口十二角形瓶（GL277）・「尚美堂」小型卵型瓶（GL280）・「千代花」小型円筒形瓶（GL293）等があった。

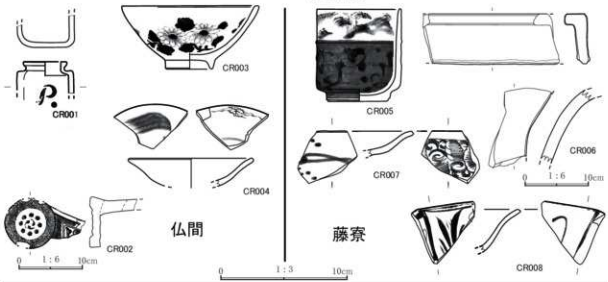
薬瓶は、「良藥□□□苦し」中型円筒形短頸瓶（GL246）・「WAKAMOTO」円筒形瓶（GL247）・「EYE LOTION ROHTO 40」小型扁平点眼容器（GL264）・「植原醫院」中型円筒形短頸瓶（GL281）など多彩である。他に飲料容器として、「AKADAMA PORT WINE KOTOBUKIYA」大型撫で肩長頸瓶（GL236）・「180cc 乳」王冠撫で肩瓶（GL259）

があり、またインク瓶も「大國文具」小型扁平八角形瓶（GL253）・「RIGHT INK 2OZ MADE IN JAPAN」小型円筒形瓶（GL290）など複数見られた。化粧品と考えられる瓶は、この遺構からの報告ガラス瓶総数の半数に近い35点を数えた。

これらの遺物で最新のものは、昭和15-21（1941-46）年の統制記号入り代用陶器小瓶（CR263）と1946年のジュジュ化粧品洗顔クリーム（GL240）である。そのため女工たちが使用していた生活用品を中心に、寄宿舎からの廃棄物として第二次大戦直後に廃棄がなされたと考えられる。戦争中には製糸部が大幅に縮小され、また勤労動員女学生の宿泊などもあり、そのような普通とは異なる寄宿舎生活の変化によって廃棄がなされた可能性が想定できる。

SU4
SX4
藤
百合
大廊下北東
SB408
SB401
SB400
SB399
SB394
SB393
SB411
SB410
SB392
SB403
SB404
SB390
SB389
SB388
SB407
SB406
SB416
SB405
SB387
SB386
SB385
SB384
SB409
SB414
SB413
SB415
SB398
SB397
SB417
SB419
SB412
SB420
SB423
SB418
SB402
SB397
SB055
SB379
SB381
SB382
SB380
SB370
SB403
SD060
SD055
SD057
SD056
SD504
SD058
SD059C
SD059
SD061
SD067
SD060
X=3110
Y=-6540
X=3090
Y=-6540
X=3110
Y=-6470
X=3090
Y=-6470
0
5m
1：200

陶磁器類

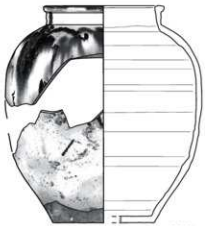

CR001
CR003
CR004
CR002
仏間
0 1:6 10cm
CR005
CR006
CR007
藤寮
CR008
0 1:3 10cm

CR011
CR017
CR013
CR014
CR018
CR016
CR009
CR019
CR012
CR010
CR020
CR021
0 1:3 10cm
萩寮
CR015
0 1:6 10cm

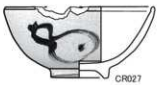
陶磁器類

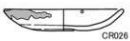
CR024

CR025

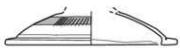

CR023

0 1:6 10cm


CR027


CR026

CR029


CR031

0 1:3 10cm

CR030

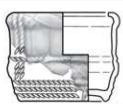
排水路 3

CR028

CR032

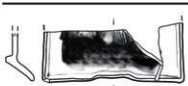
0 1:4 10cm

刻印1/1 CR022


CR033

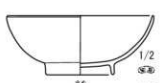
排水路 4

0 1:3 10cm


CR034

CR035

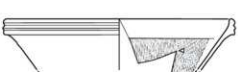
菊寮


1/2
CR042

CR036

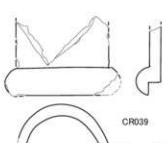
1/2
CR043

0 1:3 10cm


CR037

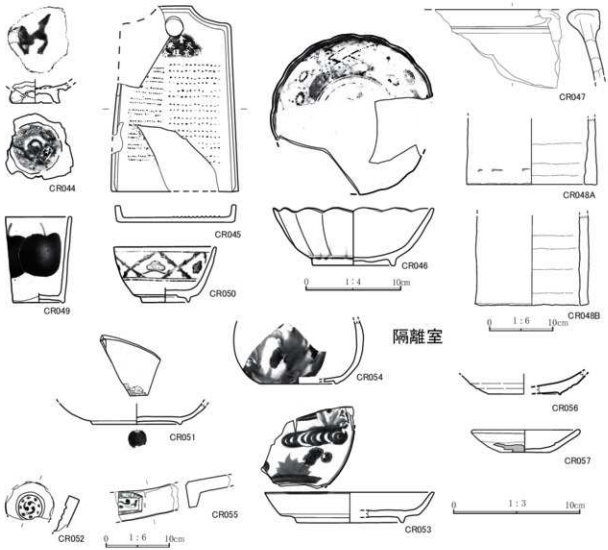
CR040

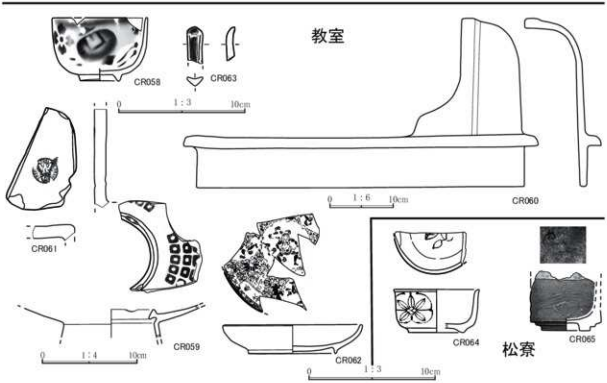
CR038


CR039

CR041

0 1:6 10cm


CR044
CR045
CR046
CR047
CR048A
CR048B
CR049
CR050
隔離室
CR051
CR052
CR053
CR054
CR055
CR056
CR057
0 1:6 10cm
0 1:4 10cm
0 1:3 10cm


教室
CR058
CR059
CR060
CR061
CR062
CR063
CR064
CR065
松寮
0 1:3 10cm
0 1:6 10cm
0 1:4 10cm

CR067

CR066

CR068

CR069

CR070

CR072

CR071

撫子寮

CR075

CR073

CR076

CR078

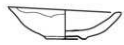
CR074

大廊下

CR077

CR079

CR084



CR085

CR080

菖蒲寮北外側

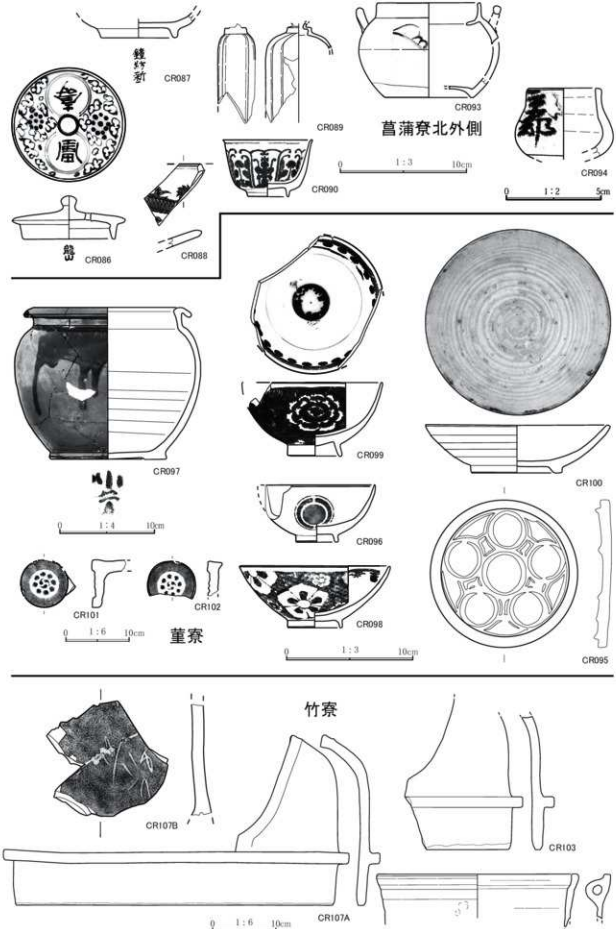
CR081

CR092

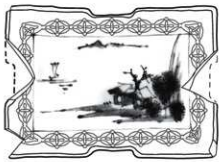
CR082

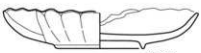
CR083

CR091


CR087
CR089
CR093
菖蒲寮北外側
CR090
CR094
CR086
CR088
CR097
CR099
CR100
CR096
CR101
CR102
CR098
CR095
董寮
竹寮
CR107B
CR103
CR107A
CR109

竹寮
梅寮
百合寮
浴室廊下
遺物廃棄場 SU1
CR104
CR105
CR106
CR108
CR111
CR113
CR110
CR114
CR115
CR116
CR112
CR118
CR119A
CR119B
CR117
CR120A
CR120B
CR137
CR143
CR142AB
CR147
1/2
0 1:3 10cm
0 1:4 10cm
0 1:6 10cm



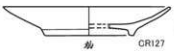

CR123

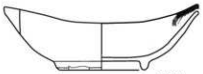
CR124

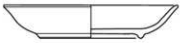
CR121

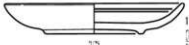
遺物廃棄場 SU1

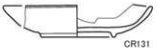
CR130

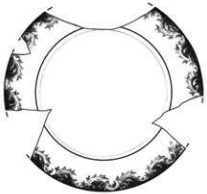

CR127


CR129

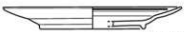

CR134

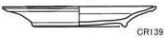

CR135

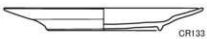

CR131

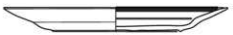


CR136


CR138

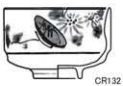

CR139

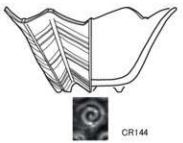

CR133

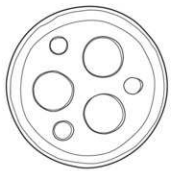

CR140

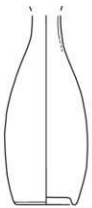
CR128

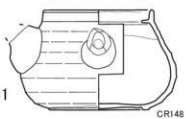
CR125


CR132

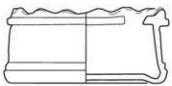

CR144

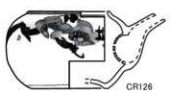



CR145


CR148

CR149


CR122


CR126

遺物廃棄場 SU1

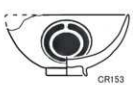
CR141A

CR141B

CR146

CR150

CR151


CR153

CR155

CR157

遺物廃棄場 SU2

CR158

CR161

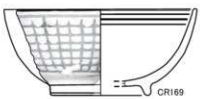
CR160

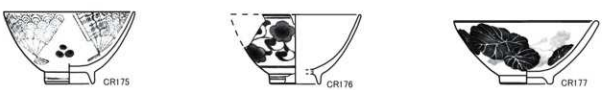
CR152

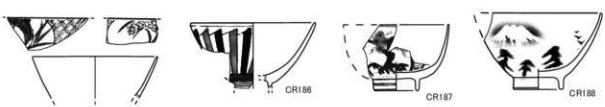
CR159

遺物廃棄場 SU2

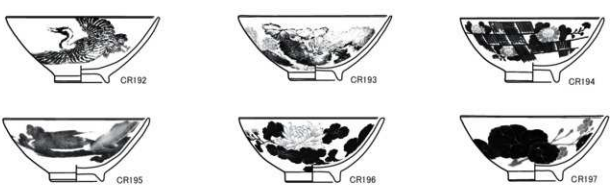
遺物廃棄場 SU3







遺物廃棄場 SU3



遺物廃棄場 SU4

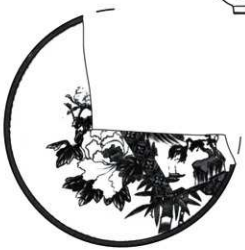
CR204

CR205

遺物廃棄場 SU4

CR206

CR198


CR200

CR199

CR201

0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

遺物廃棄場 SU5

CR207

CR210

CR211

CR212

CR213

CR218

CR222

CR208

CR217

0 1:3 10cm

陶磁器類

CR214

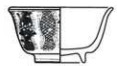
CR226

CR223

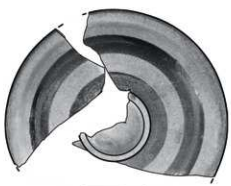
CR221

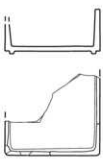
CR216

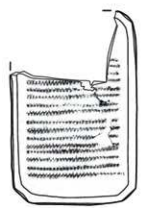
CR224

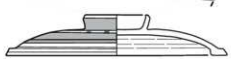

CR225

CR215

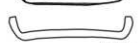




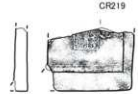


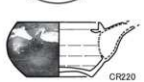

CR228

CR209


CR219

遺物廃棄場 SU5



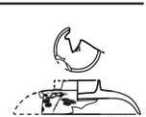

CR220

CR229

CR227

遺物廃棄場 SU6

CR234


CR240

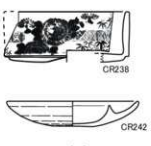
CR235

CR236

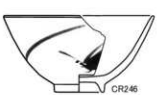
CR239

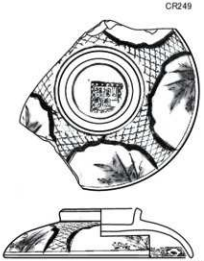
陶磁器類

遺物廃棄場 SU6



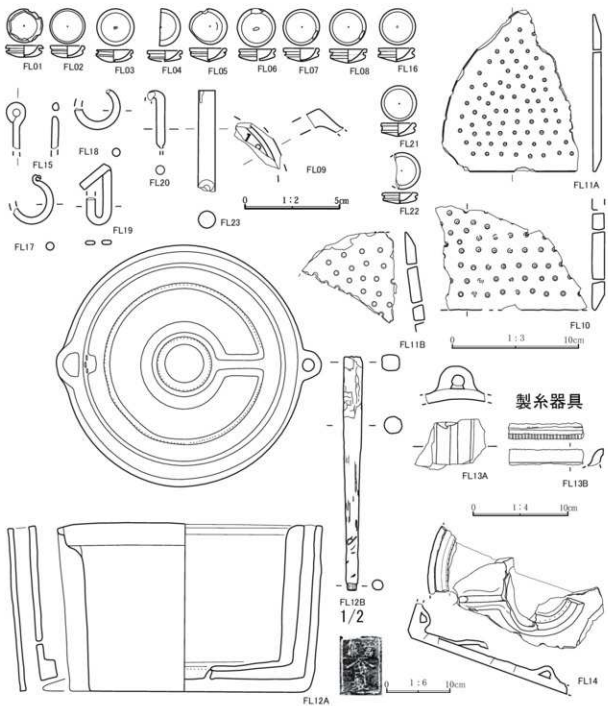
遺物廃棄場 SX4

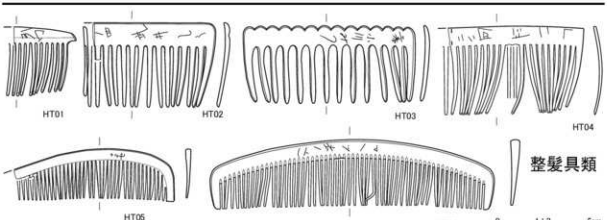


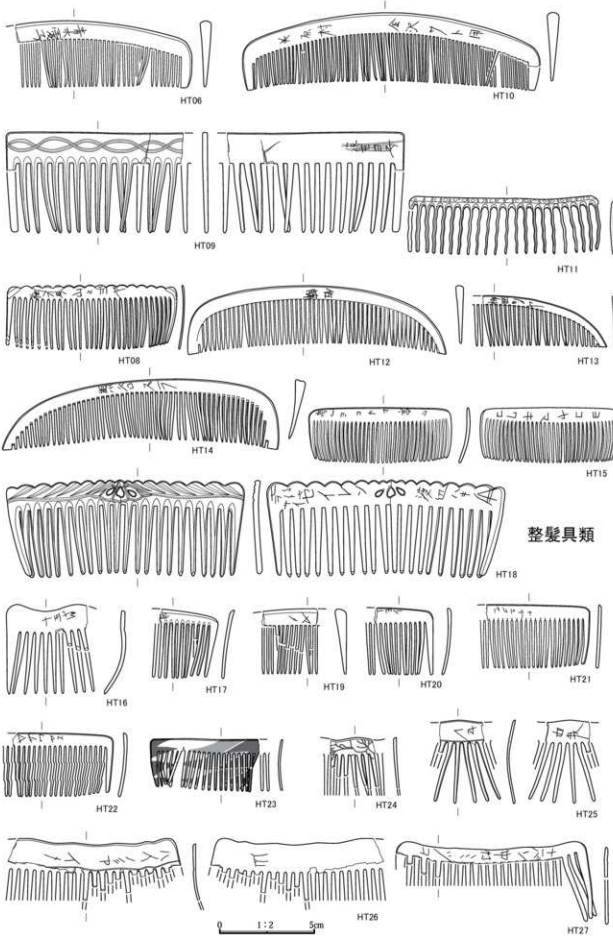


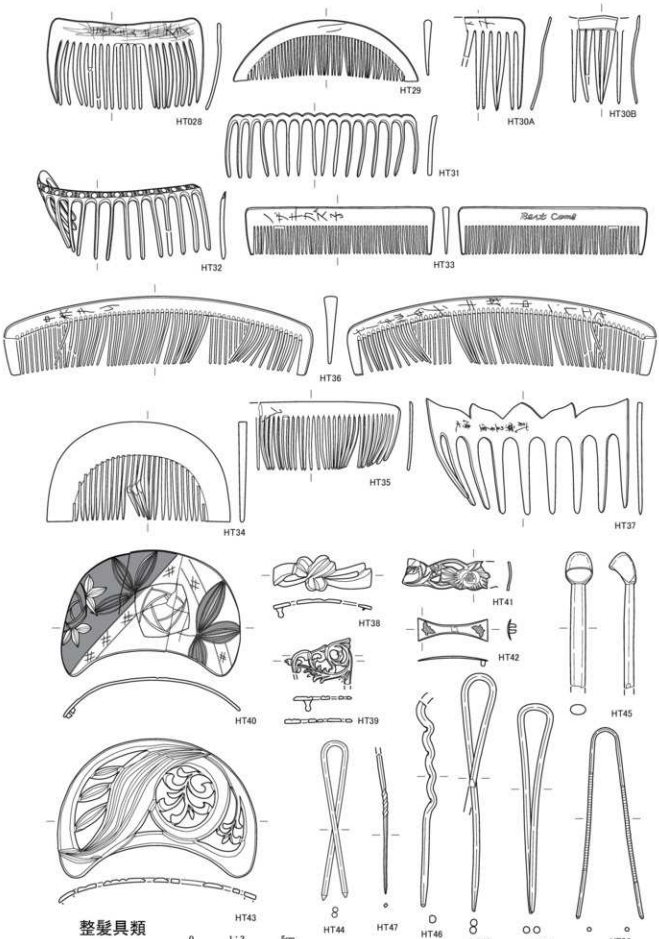
遺物廃棄場 SX4

1/1
1/1
CR253
CR254
CR255
CR256
CR257
CR258
CR260
CR262
CR263
CR264
CR266
CR267
CR268
CR269
CR270
CR271
CR247
CR250
CR244
CR265
0 1:3 10cm
0 1:4 10cm

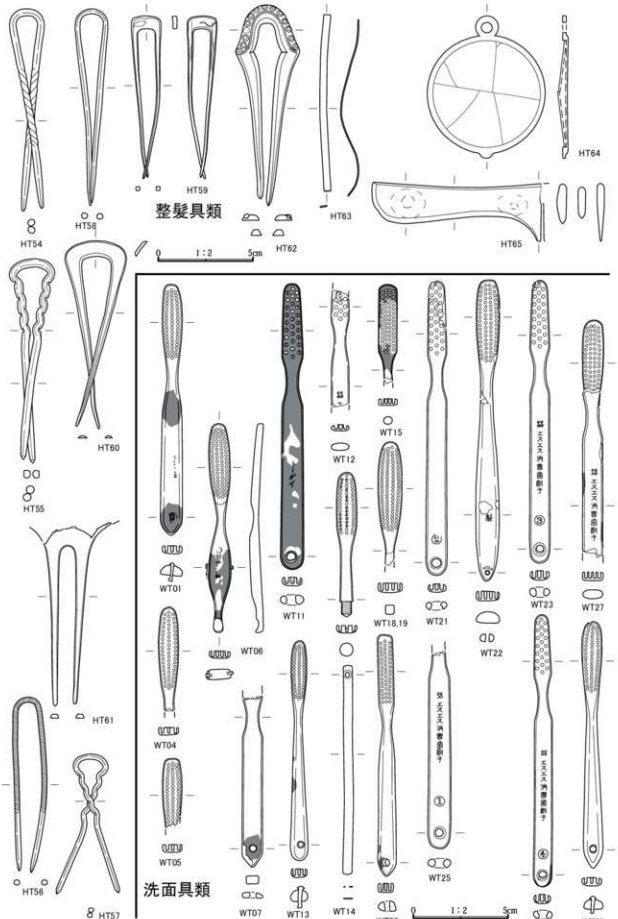

FL01
FL02
FL03
FL04
FL05
FL06
FL07
FL08
FL16
FL15
FL18
FL20
FL09
FL21
FL22
FL17
FL19
FL23
0 1:2 5cm
FL11A
FL10
FL11B
0 1:3 10cm
製糸器具
FL13A
FL13B
0 1:4 10cm
FL12B
1/2
FL12A
FL14
0 1:6 10cm

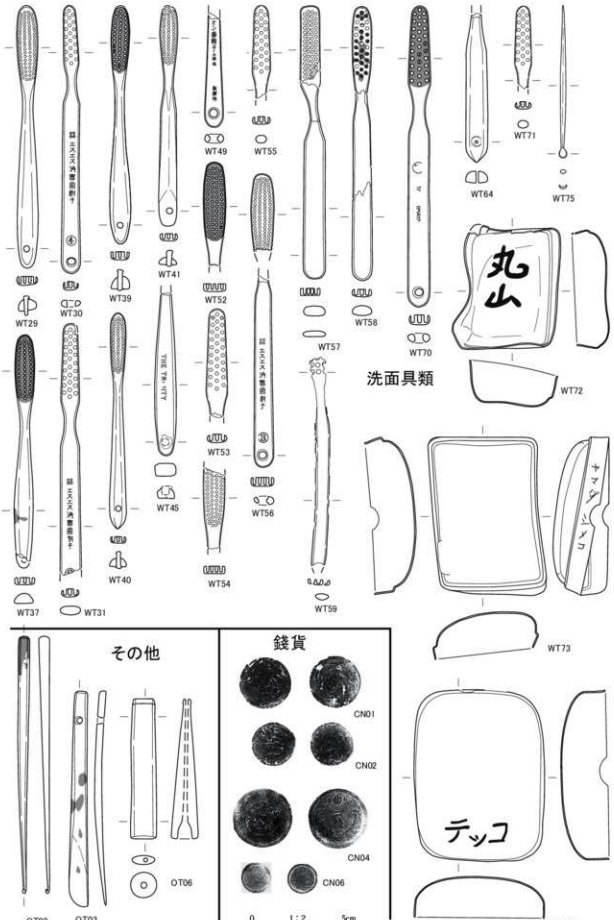

HT01
HT02
HT03
HT04
HT05
HT07
整髪具類
0 1:2 5cm

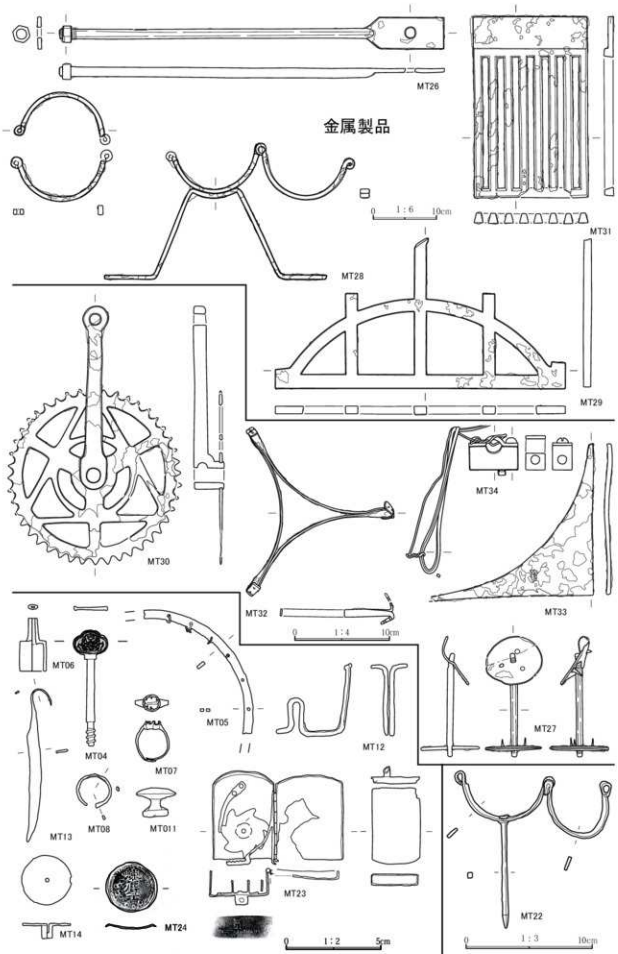

HT06
HT10
HT09
HT11
HT08
HT12
HT13
HT14
HT15
HT18
整髮具類
HT16
HT17
HT19
HT20
HT21
HT22
HT23
HT24
HT25
HT26
HT27
0 1:2 5cm

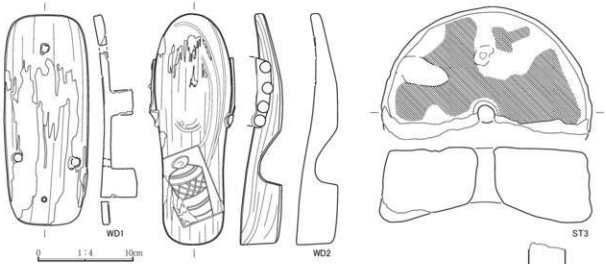

HT028
HT29
HT30A
HT30B
HT31
HT32
HT33
HT36
HT34
HT35
HT37
HT38
HT41
HT42
HT40
HT39
HT45
HT43
HT44
HT47
HT46
HT48
HT49
HT50
0 1:2 5cm

整髮具類

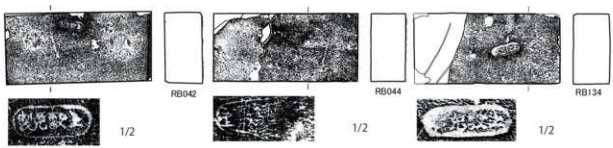

整髪具類
洗面具類
HT54
HT58
HT59
HT62
HT63
HT64
HT65
HT55
HT60
HT61
HT56
HT57
WT01
WT04
WT05
WT06
WT07
WT11
WT12
WT13
WT14
WT15
WT18.19
WT20
WT21
WT22
WT23
WT24
WT25
WT27
WT28
0 1:2 5cm

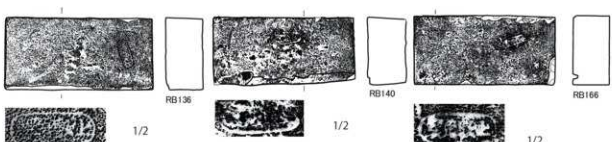

洗面具類
丸山
テッコ
その他
錢貨
WT29
WT30
WT31
WT37
WT39
WT40
WT41
WT45
WT49
WT52
WT53
WT54
WT55
WT56
WT57
WT58
WT59
WT64
WT70
WT71
WT72
WT73
WT74
WT75
OT02
OT03
OT06
CN01
CN02
CN04
CN06
0 1:2 5cm


金属製品
MT26
MT31
MT28
MT29
MT30
MT34
MT32
MT33
MT06
MT05
MT12
MT27
MT04
MT07
MT13
MT08
MT011
MT23
MT14
MT24
MT22
0 1:6 10cm
0 1:4 10cm
0 1:2 5cm
0 1:3 10cm

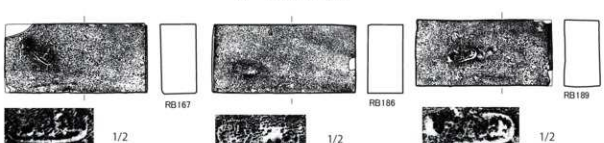

WD1
WD2
ST3
0 1:4 10cm
ST2
ST1
0 1:6 10cm
ST4

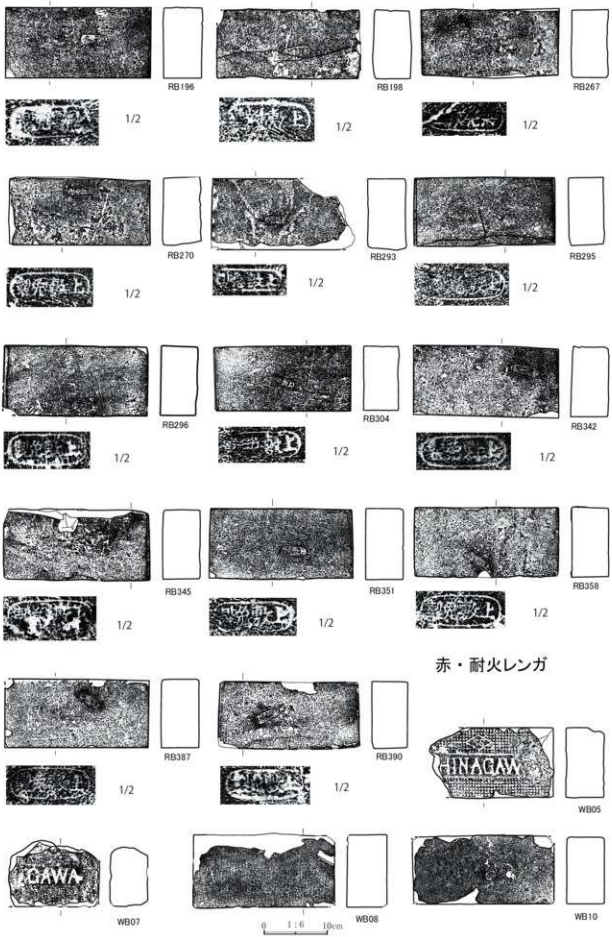
木・石製品


RB042
RB044
RB134
1/2
1/2
1/2


RB136
RB140
RB166
1/2
1/2
1/2

赤・耐火レンガ


RB167
RB186
RB189
1/2
1/2
1/2
0 1:6 10cm


RB196
RB198
RB267
1/2
1/2
1/2
RB270
RB293
RB295
1/2
1/2
1/2
RB296
RB304
RB342
1/2
1/2
1/2
RB345
RB351
RB358
1/2
1/2
1/2
赤・耐火レンガ
RB387
RB390
1/2
1/2
WB05
WB07
WB08
WB10
0 1:6 10cm

陶磁器類観察表

番号	図	写真	建物	遺構	種類	形状	釉	文様	技法・時代	産地	口径cm	底径cm	器高cm	備考
CR001	p.52	p.104	BM	O2g	陶器	代用小型角瓶	染付	「P.」	軟質・プリント	瑞浪、曽根磁叟園製陶所	3.4	-	-	パピリオ・クリーム
CR002	p.52	p.104	BM	O3g	桟瓦	軒瓦		八点星・三巴	近世	不明	8.0	-	-	
CR003	p.52	p.104	BM	O2g	磁器	飯碗	色絵	菊文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃	10.9	3.8	5.0	
CR004	p.52	p.104	BM	R2g	磁器	小皿	染付	柳文	近世	肥前？	10.0	-	-	
CR005	p.52	p.104	FJ	SB401	磁器	湯呑	黒釉染付	山水文　陽刻	手描・型成形	瀬戸美濃	6.6	4.8	7.3	
CR006	p.52	p.104	FJ	SB408	磁器	便器	青磁			瀬戸美濃？	-	-	8.0	
CR007	p.52	p.104	FJ	SB402	磁器	皿	染付	ペンシル・ドローイング	近世	肥前	-	-	-	
CR008	p.52	p.104	FJ	SB410	磁器	稜花皿	染付	芙蓉手	近世	肥前？	-	-	-	
CR009	p.52	p.104	HG	-A6g	陶器	土瓶	色絵	花文	手描	不明	7.0	8.0	7.5	
CR010	p.52	p.104	HG	-D3g	磁器	長方形皿	染付	松葉文・「松月？」	手描	瀬戸美濃	16.0	11.8	3.2	CR034 と同じ
CR011	p.52	p.104	HG	SB310	磁器	茶碗	色絵	花文・「東陶園松山製」	銅版転写	瀬戸美濃	8.0	4.0	5.0	
CR012	p.52	p.104	HG	SB041	磁器	皿	染付	鐘紡・扇マーク	銅版転写・型成形	瑞浪、美濃窯業	12.6	7.5	2.6	
CR013	p.52	p.104	HG	SB056	磁器	茶碗	染付	見込「銘」・外圏線	手描	瀬戸美濃？	10.0	4.0	4.3	
CR014	p.52	p.104	HG	-B3g	磁器	茶碗	青磁染付	松葉・山水文・渦福銘	近世	瀬戸美濃	8.1	3.4	4.8	
CR015	p.52	p.104	HG	SD06	土器	土管			硬質	不明	17.2	13.4	63.3	
CR016	p.52	p.104	HG	-B3g	磁器	茶碗	色絵	鶴文「帝國生命保險岩鼻代理店」	銅版転写・陰刻	瀬戸美濃	-	2.4	-	
CR017	p.52	p.104	HG	B4g	磁器	茶碗	青磁	鶴	手彫り	瀬戸美濃	7.8	3.0	4.3	
CR018	p.52	p.104	HG	SB310	磁器	飯碗	染付	鐘紡・扇マーク	銅版転写	瑞浪、美濃窯業	10.9	3.6	4.7	
CR019	p.52	p.104	HG	-A5g	磁器	飯碗	色絵	雪の下文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃	11.0	-	-	
CR020	p.52	p.104	HG	SB290	磁器	皿	染付	窓絵花文・蛇目釉剥ぎ	型紙刷	不明	14.0	7.3	3.0	
CR021	p.52	p.104	HG	-D5g	磁器	合子蓋	染付	紅葉文	型紙刷	肥前？	9.6	8.4	2.0	
CR022	p.53	p.104	HS-3	SD37	陶器	代用小型広口瓶	染付	「MENUMA POMADE」「岐723」刻印	プリント	美濃、土岐	5.2	6.4	3.9	
CR023	p.53	p.104	HS-3	SD37	陶器	甕	白地青緑彩	内鉄釉		笠間？	19.0	-	16.0	
CR024	p.53	p.104	HS-3	C5g	磁器	飯碗	染付	菊文	型紙刷	瀬戸美濃	12.0	3.8	4.9	
CR025	p.53	p.104	HS-3	C5g	磁器	皿	染付	鶴松文・蛇目釉剥ぎ	型紙刷	不明	13.8	7.8	3.0	
CR026	p.53	p.104	HS-3	C4g	陶器	灯明皿	透明釉	煤痕	近世	不明	10.4	-	2.1	
CR027	p.53	p.104	HS-3	SD37	陶器	飯碗	白地青緑彩	籠目文	近世	不明	12.0	4.5	5.6	2 個体以上
CR028	p.53	p.104	HS-3	SD37 枠外	陶器	徳利？	褐釉	「ニモ？」墨書	近世	不明	-	4.8	-	
CR029	p.53	p.104	HS-3	SD37	磁器	茶碗	色絵	花文	近世？	瀬戸美濃？	8.0	-	-	
CR030	p.53	p.104	HS-3	C5g	磁器	飯碗	染付	桐文	型紙刷	不明	12.0	4.2	4.2	
CR031	p.53	p.104	HS-3	SD37	陶器	行平鍋蓋	褐釉		飛びカンナ	不明	13.6	-	-	
CR032	p.53	p.104	HS-3	SD37 枠外	陶器	鉢	白地藍彩	葉文　外オリーブ釉白彩	近世？	不明	-	12.0	-	
CR033	p.53	p.104	HS-4	SD56	陶器	小鉢	青磁	縞状陽刻		瀬戸美濃	8.0	7.0	7.0	
CR034	p.53	p.105	KK	SD03	陶器	長方形皿？	染付	山水文？	手描	瀬戸美濃	11.0	-	2.7	CR010 と同じ
CR035	p.53	p.105	KK	試掘	陶器	飯碗	染付	鐘紡・扇マーク	銅版転写	瑞浪、美濃窯業	11.1	3.8	4.7	
CR036	p.53	p.105	KK	SB281	陶器	徳利？	染付	山水文？	近世？	瀬戸美濃	-	-	-	
CR037	p.53	p.105	KK	-H5g	陶器	擂鉢	褐釉		近世	瀬戸美濃	36.0	-	-	
CR038	p.53	p.105	KK	SD01	桟瓦	軒瓦		なし	不明	不明	8.5	-	-	
CR039	p.53	p.105	KK	SB281	桟瓦	棟瓦			不明	不明	18.5	14.5	8.4	
CR040	p.53	p.105	KK	SB281	桟瓦	棟瓦		なし	不明	不明	14.6	-	-	
CR041	p.53	p.105	KK	SB082	桟瓦	軒瓦		なし	不明	不明	8.0	-	-	
CR042	p.53	p.105	KK	SB003	ベークライト	飯碗		「万年」・鐘紡マーク		不明	11.4	4.4	4.7	
CR043	p.53	p.105	KK	-L2g	磁器	皿	白磁緑彩	国民食器・「岐673」	銅版転写	美濃、土岐	14.0	8.0	2.2	
CR044	p.54	p.105	KR-E	-H3g	陶器	茶碗	透明釉	馬文・「相馬」	押し型・ヘラ当て	相馬駒	-	3.8	-	
CR045	p.54	p.105	KR-N	SB226N	磁器	卸皿	透明釉	「會　天栄　同業組合」		瀬戸美濃	10.1	13.6	1.4	
CR046	p.54	p.105	KR-N	SB226N	磁器	鉢	色絵	見込十字花文・窓絵	ゴム印・プリント・型成形	瀬戸美濃	17.0	8.6	6.1	
CR047	p.54	p.105	KR-N	SB226N	土器	大甕			酸化	不明	c.60.0	-	-	
CR048A	p.54	p.105	KR-N	SD32	土器	土管	下端部	ヘラ当て痕	軟質	不明	-	20.4	1.8	
CR048B	p.54	p.105	KR-N	SD32	土器	土管	下端部？		軟質	不明	-	18.2	1.3	
CR049	p.54	p.105	KR-N	SB226N	陶器	湯呑	色絵	リンゴ文	軟質・プリント	不明	1.3	4.0	6.8	
CR050	p.54	p.105	KR-NN	SX1.2	磁器	茶碗	染付	梅文	銅版転写	瀬戸美濃	8.1	3.7	4.4	
CR051	p.54	p.105	KR-NN	-K11g	磁器	皿	色絵	牡丹文・鐘紡マーク	銅版転写	瀬戸美濃	-	3.5	-	
CR052	p.54	p.105	KR-NN	SX1.2	桟瓦	軒瓦		八点星・三巴	近世	不明	7.7	-	-	
CR053	p.54	p.105	KR-W	-JK1g	磁器	小皿	色絵	葉文・口紅	銅版転写	瀬戸美濃	6.8	6.8	2.4	
CR054	p.54	p.105	KR-W	SB002	陶器	小鉢	三彩	碁笥底	軟質	不明	-	6.0	-	
CR055	p.54	p.105	KR-W	-J2g	桟瓦	軒瓦		唐草文	近世	不明	-	4.7	1.9	
CR056	p.54	p.105	KR-W	SB064	陶器	小皿	灰釉	凹み底・目跡	近世	不明	-	5.6	-	
CR057	p.54	p.105	KR-W	SB001	陶器	灯明皿	灰釉	内目跡	近世	瀬戸美濃？	8.8	3.8	1.8	
CR058	p.54	p.105	KS	SB151C	磁器	茶碗	色絵	花文？	吹絵	瀬戸美濃	7.5	3.2	5.0	
CR059	p.54	p.105	KS	O-4g	磁器	灰皿	色絵	「ロロロ」	プリント	不明	8.0	-	-	
CR060	p.54	p.105	KS	SB151	磁器	便器	白磁	鶴丸文銅版「TRADE MARK K.S」刻印「DC1」	貫入　貼り合わせ	京都？	56.5	25.0	26.7	
CR061	p.54	p.105	KS	O-4g	磁器	便器	白磁	「TOYOTOKI CO.LTD」		小倉、東洋陶器	-	-	-	
CR062	p.54	p.105	KS	SB155	磁器	小皿	染付	雷神文	型紙刷	瀬戸美濃	11.0	7.0	3.4	
CR063	p.54	p.105	KS	SB151S	磁器	蓮華	染付		近世	瀬戸美濃	-	-	-	
CR064	p.54	p.105	MT	SD54	磁器	盃	染付	花文	銅版転写	瀬戸美濃	6.7	4.4	3.4	
CR065	p.54	p.105	MT	I17g	陶器	湯呑	飴釉褐彩	見込褐彩馬文？	型成形	不明	-	3.8	-	
CR066	p.55	p.105	ND	B2g	磁器	湯呑	色絵	葉文・「岐276」	プリント	美濃	7.3	3.8	7.3	アールデコ様式
CR067	p.55	p.105	ND	B2g	磁器	掛け花瓶	色絵	ロバ車西洋童話	金彩プリント	瀬戸美濃	7.4	7.8	16.4	
CR068	p.55	p.105	ND	SB124	磁器	小型湯呑	染付	「志田山友製」	型紙刷	肥前	4.5	3.0	5.4	
CR069	p.55	p.105	ND	A-2g	磁器	管？	飴釉褐彩	蜻蛉文？		瀬戸美濃？	1.7	-	-	
CR070	p.55	p.105	ND	SB124	磁器	飯碗	染付	扇・円窓絵文	型紙刷	肥前？	11.1	3.8	4.7	
CR071	p.55	p.105	ND	B2g	磁器	小皿	染付	詩歌扇・小鳥文	型紙刷	瀬戸美濃	10.9	6.4	2.0	
CR072	p.55	p.105	ND	B2g	磁器	小皿	染付	有孔方格文	近世？	肥前	12.6	5.8	3.2	
CR073	p.55	p.106	OR-E	SB382	磁器	盃	染付	田植絵・詩文	手描	瀬戸美濃	5.7	2.8	3.2	

陶磁器類観察表

番号	図	写真	遺物	遺構	種類	形状	釉	文様	技法・時代	産地	口径cm	底径cm	器高cm	備考
CR074	p.55	p.106	OR-S	-EF-3g	磁器	飯碗	染付	「越」	手描	瀬戸美濃？	-	4.4	-	
CR075	p.55	p.106	OR-S	-E-1g	磁器	皿	染付	鶴松文窓絵	型紙刷	不明	14.3	7.3	3.2	
CR076	p.55	p.106	OR-W	SB004	陶器	盃	掛け分け	波絵・不明押印	プリント	不明	7.0	3.4	4.0	
CR077	p.55	p.106	OR-W	-F3g	磁器	茶碗	染付	花文・不明銘	近世	瀬戸美濃	7.8	4.0	5.0	廃棄後付着物
CR078	p.55	p.106	OR-W	SB004	磁器	瓶？	褐釉染付		近世	肥前？	-	-	-	
CR079	p.55	p.106	OR-W	-E3g	桟瓦	軒瓦		八点星	近世	不明	8.0	-	-	
CR080	p.55	p.106	SB	-J-5g	磁器	蓋物蓋	染付	唐獅子牡丹文	ゴム印・銅版転写	肥前？	9.7	8.0	2.1	
CR081	p.55	p.106	SB	-F-5g	磁器	小皿	染付	山水・詩歌文	型紙刷	瀬戸美濃	11.0	6.5	1.7	
CR082	p.55	p.106	SB	-D-5g	磁器	蓋物蓋	染付	紅葉文「弓粟？」刻印	型紙刷	肥前？	9.6	8.0	1.9	
CR083	p.55	p.106	SB	-D-5g	磁器	飯碗	染付	内菊文・外蓮弁文	型紙刷	瀬戸美濃	11.4	4.0	4.7	
CR084	p.55	p.106	SB	-D-5g	磁器	小皿	染付	霊芝文	手描	肥前？	10.9	6.0	2.0	
CR085	p.55	p.106	SB	-D-5g	磁器	紅皿	白磁	蛸唐草文・松文陽刻	近世	不明	6.0	2.2	1.7	
CR086	p.56	p.106	SB	-F-5g	磁器	急須蓋	染付	寿字文「龍山」刻印	手描	不明	6.0	4.8	2.3	
CR087	p.56	p.106	SB	A,B-5g	磁器	茶碗？	色絵	「鐘紡新町」赤絵		美濃、多治見	-	4.7	-	CR141Bと同銘
CR088	p.56	p.106	SB	A,B-5g	磁器	皿	色絵	竜文		瀬戸美濃？	-	-	-	
CR089	p.56	p.106	SB	-C-4g	磁器	代用鼻平小瓶	白磁			瀬戸美濃？	-	5.3	-	
CR090	p.56	p.106	SB	-G-5g	磁器	茶碗	白磁緑彩	パルメット菊文	銅版転写	瀬戸美濃	7.0	3.3	4.5	
CR091	p.55	p.106	SB	-D-5g	磁器	小皿	染付	財神俵文・魚子紫陽花文	型紙刷	瀬戸美濃	12.0	3.5	4.0	
CR092	p.55	p.106	SB	-F-5g	磁器	小皿	染付	花文	型紙刷	瀬戸美濃	7.5	2.3	2.3	
CR093	p.56	p.106	SB	-J-5g	陶器	土瓶	透明釉褐彩	葉文？	近世	不明	8.0	7.0	7.5	
CR094	p.56	p.106	SB	-I-5g	陶器	小壺	灰釉黒彩	「三都？」	近世	不明	4.0	-	-	
CR095	p.56	p.106	SM	-K-1g	磁器	梅皿	白磁	6孔		瀬戸美濃	11.6	11.6	0.6	
CR096	p.56	p.106	SM	-K-1g	磁器	飯碗	染付	鐘紡マーク	銅版転写	瀬戸美濃	9.3	3.4	4.5	
CR097	p.56	p.106	SM	SB103,-IJ-1g	陶器	甕	二彩	「小管」墨書		不明	15.0	12.0	16.1	
CR098	p.56	p.106	SM	-K-1g	磁器	飯碗	染付	桔梗文	銅版転写	瀬戸美濃	12.0	4.4	4.9	
CR099	p.56	p.106	SM	-K-1g	磁器	飯碗	染付	牡丹文	プリント	瀬戸美濃	11.1	4.4	5.8	
CR100	p.56	p.106	SM	SB103	陶器	皿	長石釉白彩	回転螺旋文	近世	瀬戸美濃	14.6	7.2	3.8	
CR101	p.56	p.106	SM	-H-3g	桟瓦	軒瓦		八点星・三巴	近世	不明	7.5	-	-	
CR102	p.56	p.106	SM	SD18	桟瓦	軒瓦		八点星・三巴	近世	不明	7.3			
CR103	p.56	p.106	TK-E	SB374S	磁器	便器	白磁		内面コバルト痕	瀬戸美濃		23.7	24.0	
CR104	p.57	p.106	TK-E	SB376	磁器	片口杯	色絵	「500 Gram」上絵		瀬戸美濃	10.0			
CR105	p.57	p.106	TK-E	SD59	陶器	卸皿	褐釉	卸目	近世	不明			0.8	
CR106	p.57	p.107	TK-W	-D13g	陶器	丼	白磁緑彩	国民食器・「岐 1,065」	銅版転写	瑞浪、美濃窯業	15.0	6.0	7.3	
CR107A	p.56	p.107	TK-W	SB355	磁器	便器	白磁	削り	内面コバルト痕	不明	54.8	24.3	27.0	
CR107B	p.56	p.107	TK-W	SB355	磁器	便器	白磁	数字？線刻		不明			0.9	
CR108	p.57	p.107	TK-W	-D13g	磁器	皿	白磁緑彩	国民食器	銅版転写	瀬戸美濃	14.7	8.6	1.9	
CR109	p.56	p.107	TK-W	SB357	土器	土鍋		内耳	中世	不明	32.0			
CR110	p.57	p.107	UM	S5g	磁器	飯碗	褐釉青磁	梅花斜格子文	型成形	不明	11.7	4.3	5.9	
CR111	p.57	p.107	UM	SB205	磁器	便器	白磁			肥前？			8.3	
CR112	p.57	p.107	UM	S5g	磁器	茶碗	染付	水平線	手描	瀬戸美濃	8.0	3.6	5.6	
CR113	p.57	p.107	UM	SB205	磁器	皿	白磁緑彩	国民食器・「岐 1,065」	銅版転写	瑞浪、美濃窯業	14.0	7.8	2.4	
CR114	p.57	p.107	YI	SD55	磁器	盃	黒釉染付	鯉滝登り文・「幹山」銘	手描	瀬戸美濃	6.7	3.5	3.8	
CR115	p.57	p.107	YI	K17g	磁器	茶碗	染付	梅花竹格子文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃	8.0	3.8	4.3	
CR116	p.57	p.107	YI	O17g	陶器	擂鉢	褐釉		近世	不明	36.0	-	-	
CR117	p.57	p.107	YR	SB322	磁器	段重	青磁染付	花文		肥前？	-	7.6	3.4	
CR118	p.57	p.107	YR	SD39	磁器	飯碗	染付	四方襷文	銅版転写	瀬戸美濃？	10.4	4.0	5.6	
CR119AB	p.57	p.107	YR	SD44	陶器	蓋付平碗	白地青緑彩	遊魚文	軟質・型成形	不明	10.2	6.4	7.6	
CR120AB	p.57	p.107	YR	SD44	陶器	蓋付平碗	白地緑紫彩	花文	軟質	不明	9.8	-	-	
CR121	p.58	p.107	HS-3	SU1	磁器	飯碗蓋	染付	鶴文・角福・内圏線	プリント	瀬戸美濃	10.2	4.2	3.2	
CR122	p.59	p.107	HS-3	SU1	磁器	灰皿	白磁	6孔		大堀相馬	12.0	12.0	6.0	
CR123	p.58	p.107	HS-3	SU1	磁器	長円形皿	染付	山水文・角丸「製」印	プリント・手描	瀬戸美濃	15.5	7.0	3.2	
CR124	p.58	p.107	HS-3	SU1	磁器	長方形皿	染付	山水文 四方襷文陽刻	手描・型成形	瀬戸美濃	16.8	12.6	3.2	
CR125	p.59	p.107	HS-3	SU1	磁器	小鉢	褐釉染付	猫	プリント・型成形	瀬戸美濃	12.0	5.6	6.0	
CR126	p.59	p.107	HG	SU1	磁器	急須	青磁染付	梅文	手描・型成形	瀬戸美濃	6.2	6.0	6.1	
CR127	p.58	p.107	HG	SU1	磁器	小皿	青磁染付	ダルマ文「89」押印	手描	美濃	13.4	7.0	2.3	
CR128	p.59	p.107	HG	SU1	磁器	栓	染付	「RE-」	プリント	瀬戸美濃？	4.2	1.8	3.1	
CR129	p.58	p.107	HG	SU1	磁器	長円形皿	青磁褐釉染付	葉文	型打成形・手描	瀬戸美濃	15.4	6.8	5.2	
CR130	p.58	p.108	HG	SU1	磁器	方形小鉢	青釉	寿字文	型成形	瀬戸美濃？	9.6	5.0	3.6	
CR131	p.58	p.108	HG	SU1	磁器	小皿	染付	囲碁絵・詩文	手描	瀬戸美濃	11.7	6.0	2.5	
CR132	p.59	p.108	HG	SU1	陶器	茶碗	色絵	押し型花文	押し型・手描	不明	8.6	3.6	5.6	
CR133	p.58	p.108	HG	SU1	磁器	洋大皿	色絵	唐草文	プリント	瀬戸美濃？	21.0	11.7	2.4	日本陶器様式
CR134	p.58	p.108	HG	SU1	磁器	皿	白磁緑彩	国民食器・鐘紡マーク	銅版転写	瀬戸美濃	18.4	11.0	3.5	
CR135	p.58	p.108	HG	SU1	磁器	皿	白磁緑彩	国民食器・「岐 1,065」	銅版転写・型成形	瑞浪、美濃窯業	14.2	7.8	2.4	
CR136	p.58	p.108	HG	SU1	磁器	洋皿	白磁			瀬戸美濃	19.0	10.2	2.2	
CR137	p.57	p.108	HG	SU1	磁器	丼蓋	白磁緑彩	国民食器	銅版転写	瀬戸美濃	14.0	6.2	4.0	
CR138	p.58	p.108	HG	SU1	磁器	洋皿	染付	圏線	手描	瀬戸美濃	18.8	11.0	2.3	
CR139	p.58	p.108	HG	SU1	磁器	洋皿	色絵	唐草文	プリント	瀬戸美濃？	16.3	10.0	2.2	日本陶器様式
CR140	p.58	p.108	HG	SU1	陶器	洋大皿	色絵	圏線・富士記号「硬質」	手描	硬質陶器	23.6	13.5	2.5	
CR141A	p.59	p.108	HG	SU1	磁器	湯呑蓋	色絵	ナンテン文	プリント	瀬戸美濃	7.9	6.0	2.1	
CR141B	p.59	p.108	HG	SU1	磁器	湯呑	色絵	円文・「岐 19」陽刻「鐘紡新町」赤絵	石版	美濃、多治見	6.7	3.8	7.1	CR087と同銘
CR142A	p.57	p.108	HG	SU1	磁器	丼蓋	色絵	唐獅子文 角福銘	プリント	瀬戸美濃	13.4	5.8	4.1	
CR142B	p.57	p.108	HG	SU1	磁器	丼身	色絵	唐獅子文	プリント	瀬戸美濃	15.7	5.9	7.4	
CR143	p.57	p.108	HG	SU1	磁器	丼	色絵	梅文	手描	瀬戸美濃	15.3	6.1	7.5	
CR144	p.59	p.108	HG	SU1	磁器	小鉢	褐釉染付	青磁胎土「瀬 383」釉下印	手描	瀬戸	13.6	5.3	6.7	
CR145	p.59	p.108	HG	SU1	磁器	餅子	青磁		緑胎	瀬戸美濃？	-	4.4	-	

陶磁器類観察表

番号	図	写真	建物	遺構	種類	形状	釉	文様	技法・時代	産地	口径cm	底径cm	器高cm	備考
CR146	p.59	p.108	HG	SU1	磁器	湯呑	色絵	鳥松文・「涙山口中入ロロ」	銅版転写・吹絵	九谷	6.2	3.3	6.2	
CR147	p.57	p.108	HG	SU1	磁器	鉢	白磁緑彩	国民食器・扇マーク	銅版転写	瑞浪、美濃窯業	14.8	5.7	6.2	
CR148	p.59	p.108	HG	SU1	陶器	土瓶	刷毛目二彩	押し型花文	碁笥底風	笠間？	8.4	7.6	7.9	
CR149	p.59	p.108	HG	SU1	陶器	花生	黒釉白彩		ヘラ削り痕	不明	7.1	6.6	-	
CR150	p.59	p.108	HG	SU1	磁器	甕	青磁染付		手描・目跡	肥前？	20.0	11.8	21.4	
CR151	p.59	p.108	SM	SU2	磁器	飯碗	染付	百舌鳥文	銅版転写	瀬戸美濃	11.0	3.8	4.8	
CR152	p.59	p.108	SM	SU2	磁器	合子蓋	紅彩染付	窓絵・菊花文	銅版転写	瀬戸美濃	9.0	7.6	2.6	
CR153	p.59	p.108	SM	SU2	磁器	茶碗	染付	紡績マーク	銅版転写	瀬戸美濃？	9.6	3.2	4.8	
CR154	p.60	p.108	SM	SU2	磁器	小皿	染付	松葉・松竹梅文	銅版転写	瀬戸美濃？	11.1	6.5	2.4	
CR155	p.59	p.109	SM	SU2	磁器	飯碗	染付	桜・紅葉文	型紙刷	瀬戸美濃？	11.6	3.5	4.8	
CR156	p.60	p.109	SM	SU2	磁器	小皿	染付	蝶文等	型紙刷	瀬戸美濃？	7.7	2.3	2.7	
CR157	p.59	p.109	SM	SU2	磁器	飯碗	染付	花文	手描	瀬戸美濃	10.0	4.0	4.7	
CR158	p.59	p.109	SM	SU2	磁器	茶碗	染付	梅樹文 蛇の目凹型高台	プリント	瀬戸美濃	8.3	3.8	4.2	
CR159	p.59	p.109	SM	SU2	磁器	飯碗	染付	桔梗文	銅版転写	瀬戸美濃	12.0	4.3	4.7	
CR160	p.59	p.109	SM	SU2	磁器	飯碗	染付	亀甲聚鶴文	銅版転写	瀬戸美濃	11.0	3.8	4.7	
CR161	p.59	p.109	SM	SU2	磁器	飯碗	染付	牡丹文・松竹梅文	プリント	瀬戸美濃	10.9	4.2	5.5	
CR162	p.61	p.109	KR-NN	SU3	磁器	皿	染付	菖蒲文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃？	14.0	7.4	2.8	
CR163	p.61	p.109	KR-NN	SU3	磁器	皿	染付	菖蒲文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃？	14.0	7.6	2.7	
CR164	p.61	p.109	KR-NN	SU3	磁器	鉢	染付	水草池文・蛇の目凹型高台	近世	瀬戸美濃	18.4	9.0	5.8	
CR165	p.61	p.109	KR-NN	SU3	磁器	皿	白磁緑彩	ダイアマーク	銅版転写・型成形	瀬戸美濃	13.8	7.6	2.8	
CR166	p.61	p.109	KR-NN	SU3	磁器	皿	白磁緑彩	国民食器	銅版転写・型成形	瀬戸美濃	14.0	7.5	2.8	
CR167	p.61	p.109	KR-NN	SU3	磁器	皿	染付	波文	近世	肥前	-	-	-	
CR168	p.61	p.109	KR-NN	SU3	磁器	皿	染付	馬文？	近世	肥前	-	-	-	
CR169	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	鉢	褐釉染付	方格文	近世？・型成形	瀬戸美濃	15.3	7.8	6.8	
CR170	p.60	p.109	KR-NN	SU3	陶器	平碗蓋	色絵	花文	軟質	不明	11.4	2.4	3.2	
CR171	p.60	p.109	KR-NN	SU3	陶器	大型平碗蓋	色絵	花文	軟質	不明	14.5	3.3	4.0	
CR172	p.61	p.109	KR-NN	SU3	陶器	土瓶	灰釉			不明	6.4	7.0	10.0	
CR173	p.61	p.109	KR-NN	SU3	磁器	六角鉢	青磁	竹文		肥前	11.0	10.0	-	
CR174	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	湯呑	色絵	蛙貨文	ゴム印	瀬戸美濃？	5.6	3.1	6.1	
CR175	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	飯碗	染付	扇文	銅版転写	瀬戸美濃？	10.4	3.8	5.7	
CR176	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	飯碗	染付	桜文	ゴム印	瀬戸美濃	10.4	4.0	5.5	
CR177	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	飯碗	色絵	雪の下文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃？	11.6	4.2	5.0	
CR178	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	小碗	染付	菊文	プリント	瀬戸美濃	9.8	3.8	5.4	
CR179	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	飯碗	染付	葉文	吹絵	美濃	11.2	4.0	6.2	
CR180	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	飯碗	褐釉染付	梅文	吹絵	美濃	11.1	4.2	6.0	
CR181	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	茶碗	染付	蓮華文「岐」	手描	美濃	8.4	3.6	4.6	
CR182	p.60	p.109	KR-NN	SU3	陶器	蓋付平碗	二彩	葉文	軟質・型成形	不明	11.0	6.2	5.0	
CR183	p.60	p.109	KR-NN	SU3	陶器	湯呑	二彩	花文	軟質	不明	5.6	3.2	5.7	
CR184	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	飯碗	色絵？		銅版転写？型成形	瀬戸美濃	11.6	4.4	5.1	
CR185	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	飯碗	染付	富士文	吹絵	瀬戸美濃	10.2	3.8	6.1	
CR186	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	飯碗	染付	蝶文	プリント	瀬戸美濃	9.8	-	5.2	
CR187	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	茶碗	染付	松文	手描	瀬戸美濃？	8.4	3.4	5.2	
CR188	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	飯碗	染付	稲穂文	銅版転写	瀬戸美濃	10.0	-	-	
CR189	p.60	p.109	KR-NN	SU3	磁器	飯碗	白磁緑彩	国民食器	銅版転写・型成形	瀬戸美濃	11.2	4.0	4.9	
CR190	p.60	p.109	KR-NN	SU3	陶器	湯呑	黒彩	松文	軟質	不明	6.0	3.4	5.7	
CR191	p.60	p.109	KR-NN	SU3	陶器	湯呑	赤彩	「本庄」	軟質	不明	5.4	3.8	7.4	
CR192	p.61	p.110	FJ	SU4	磁器	飯碗	染付	雛文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃？	12.0	4.3	5.2	
CR193	p.61	p.110	FJ	SU4	磁器	飯碗	緑彩染付	野菜文	銅版転写	瀬戸美濃？	12.2	4.1	5.1	
CR194	p.61	p.110	FJ	SU4	磁器	飯碗	紅釉染付	花文・方格文	銅版転写	瀬戸美濃	11.4	4.3	5.1	
CR195	p.61	p.110	FJ	SU4	磁器	飯碗	緑地紅彩	鯉文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃	11.6	4.3	5.0	
CR196	p.61	p.110	FJ	SU4	磁器	飯碗	色絵	菊文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃	11.5	4.4	5.0	
CR197	p.61	p.110	FJ	SU4	磁器	飯碗	色絵	雪の下文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃	11.8	4.3	5.1	
CR198	p.62	p.110	FJ	SU4	磁器	皿	染付	菖蒲文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃	13.8	7.8	2.8	
CR199	p.62	p.110	FJ	SU4	磁器	皿	紅彩染付	鶏文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃？	13.8	7.8	2.6	
CR200	p.62	p.110	FJ	SU4	磁器	大皿	褐釉染付	牡丹窓絵山水文	銅版転写	肥前	25.0	15.5	2.9	
CR201	p.62	p.110	FJ	SU4	磁器	小皿	紅彩染付	扇絵	銅版転写・型成形	瀬戸美濃	10.5	5.8	2.1	
CR202	p.61	p.110	FJ	SU4	磁器	飯碗	色絵？		銅版転写？	瀬戸美濃	11.4	4.5	5.0	
CR203	p.61	p.110	FJ	SU4	磁器	飯碗	緑彩染付	花文・菱形文	銅版転写	瀬戸美濃	11.9	4.3	5.0	
CR204	p.62	p.110	FJ	SU4	磁器	飯碗	紅彩染付	山水文・高台内無釉	銅版転写	瀬戸美濃	11.4	4.4	5.0	
CR205	p.62	p.110	FJ	SU4	磁器	飯碗	紅彩染付	扇絵・花枝文・高台内無釉	銅版転写	瀬戸美濃	11.5	4.3	5.0	
CR206	p.62	p.110	FJ	SU4	磁器	飯碗	色絵	菊文	銅版転写・型成形	瀬戸美濃	11.2	3.9	4.7	
CR207	p.62	p.110	SM	SU5	磁器	飯碗	緑彩染付	蝶文等	銅版転写・吹絵	瀬戸美濃？	11.6	4.1	5.0	
CR208	p.62	p.110	SM	SU5	磁器	碗蓋	染付	窓絵詩文	銅版転写	瀬戸美濃？	11.0	4.4	2.8	
CR209	p.63	p.110	SM	SU5	磁器	段重	染付	稲穂文	銅版転写	瀬戸美濃？	-	7.5	3.5	
CR210	p.62	p.110	SM	SU5	磁器	飯碗	染付	菊文	型紙刷	不明	12.0	4.0	4.6	
CR211	p.62	p.110	SM	SU5	磁器	飯碗	染付	梅文	型紙刷	不明	11.4	4.2	5.4	
CR212	p.62	p.110	SM	SU5	磁器	飯碗	染付	窓絵・蛇の目釉剥ぎ	型紙刷	肥前	11.6	4.5	5.0	
CR213	p.62	p.110	SM	SU5	磁器	飯碗	染付	松竹梅文	型紙刷	不明	11.8	4.0	5.0	
CR214	p.63	p.110	SM	SU5	磁器	小皿	染付	花文	型紙刷	不明	7.6	2.6	2.0	
CR215	p.63	p.110	SM	SU5	磁器	皿	染付	鶴松文窓絵・蛇目凹型高台	型紙刷	不明	14.1	7.3	3.4	
CR216	p.63	p.110	SM	SU5	磁器	小皿	染付	霊芝文	手描	瀬戸美濃？	10.0	6.0	1.9	
CR217	p.62	p.110	SM	SU5	磁器	碗蓋	染付	菊文	手描	瀬戸美濃？	10.0	3.6	2.7	
CR218	p.62	p.110	SM	SU5	磁器	茶碗	色絵	花文・日章旗	手描	瀬戸美濃？	9.1	2.8	3.9	
CR219	p.63	p.110	SM	SU5	陶器	卸皿	褐釉	條線		不明	-	9.8	1.9	
CR220	p.63	p.110	SM	SU5	陶器	急須	色絵	鶴文		万古	6.5	5.2	4.3	
CR221	p.63	p.110	SM	SU5	磁器	盃	白磁			瀬戸美濃	6.8	3.0	2.8	
CR222	p.62	p.110	SM	SU5	磁器	飯碗	染付	蝶文等	プリント	瀬戸美濃？	10.0	3.4	4.3	
CR223	p.63	p.110	SM	SU5	磁器	小型湯呑	染付	桜文	手描	瀬戸美濃？	5.3	3.4	5.2	
CR224	p.63	p.110	SM	SU5	磁器	茶碗	染付	円形窓絵	銅版転写	瀬戸美濃？	8.0	3.6	4.2	
CR225	p.63	p.110	SM	SU5	磁器	茶碗	染付	縦長窓絵	銅版転写	瀬戸美濃？	8.3	4.0	4.4	
CR226	p.63	p.110	SM	SU5	磁器	小皿	染付	蝶文等	型紙刷	瀬戸美濃	6.8	2.4	2.5	
CR227	p.63	p.110	SM	SU5	陶器	土瓶	褐釉			不明	9.0	-	-	

陶磁器類観察表

番号	図	写真	建物	遺構	種類	形状	釉	文様	技法・時代	産地	口径cm	底径cm	器高cm	備考
CR228	p.63	p.111	SM	SU5	陶器	行平鍋蓋	褐釉		飛びカンナ	不明	17.5	5.0	3.2	
CR229	p.63	p.111	SM	SU5	土器	箱型土製品		「□□名産□□會社□□之章」		不明	-	-	1.2	
CR231	p.64	p.111	SM	SU6	磁器	盃	染付	葉文・蛇の目凹型高台	銅版転写・吹絵	瀬戸美濃	6.6	2.8	4.0	
CR232	p.64	p.111	SM	SU6	磁器	小皿	染付	窓絵梅唐草文	銅版転写	不明	13.2	7.4	2.3	
CR233	p.64	p.111	SM	SU6	磁器	茶碗	染付	紅葉文	銅版転写	瀬戸美濃？	7.6	3.5	4.3	
CR234	p.63	p.111	SM	SU6	磁器	飯碗	染付	紅葉文	型紙刷	不明	11.8	3.8	4.9	
CR235	p.63	p.111	SM	SU6	磁器	飯碗	染付	桜菊花文	型紙刷	不明	12.1	3.8	4.9	
CR236	p.63	p.111	SM	SU6	磁器	飯碗	染付	窓絵花文・蛇目釉剥ぎ	型紙刷	不明	11.6	4.6	5.0	
CR237	p.64	p.111	SM	SU6	磁器	皿	染付	菊竹梅文菊垣文・蛇目凹型高台	型紙刷	不明	13.7	7.0	2.0	
CR238	p.64	p.111	SM	SU6	磁器	段重	緑彩染付	花文・竹文	型紙刷	不明	10.0	9.1	4.0	
CR239	p.63	p.111	SM	SU6	磁器	茶碗	染付	花弁窓絵	型紙刷	不明	9.8	4.6	4.7	
CR240	p.63	p.111	SM	SU6	磁器	碗蓋	染付	松文・不明銘	手描	肥前	10.0	3.6	2.7	
CR241	p.64	p.111	SM	SU6	磁器	合子蓋	染付	松葉子文	ゴム印？	肥前	10.2	-	-	
CR242	p.64	p.111	SM	SU6	陶器	灯明皿	透明釉		近世	不明	10.4	-	1.9	
CR243	p.64	p.111	SM	SU6	磁器	合子蓋	染付	亀甲繋ぎ銭文	銅版転写	瀬戸美濃	8.6	-	3.4	
CR244	p.65	p.111	FJ	SX4	磁器	代用扁平小瓶	白磁	「マスター」ベークライト蓋	代用品	肥前？	3.5	3.1	6.1	
CR245	p.64	p.111	FJ	SX4	磁器	飯碗	染付	富士・茄子文	吹絵	瀬戸美濃	11.3	3.2	6.1	
CR246	p.64	p.111	FJ	SX4	磁器	飯碗	染付	草文	手描	瀬戸美濃	11.8	3.8	6.1	
CR247	p.65	p.111	FJ	SX4	磁器	輪花皿	色絵	松葉文・扇文	手描・蛇の目凹型高台	瀬戸美濃	13.5	7.9	4.4	
CR248	p.64	p.111	FJ	SX4	磁器	飯碗	色絵	菊文	手描・外反り	瀬戸美濃	11.3	4.1	6.2	
CR249	p.64	p.111	FJ	SX4	磁器	碗蓋	色絵	蔓花文	手描・飛びカンナ	瀬戸美濃	10.4	3.4	2.7	
CR250	p.65	p.111	FJ	SX4	磁器	輪花皿	緑褐彩	草文	プリント	瀬戸美濃	18.3	8.5	5.4	
CR251	p.64	p.111	FJ	SX4	磁器	丼	青磁	「山風」押印	緑胎	瀬戸美濃	15.3	5.8	8.0	
CR252	p.64	p.111	FJ	SX4	磁器	飯碗	緑彩染付	松葉文	手描	瀬戸美濃	11.0	3.6	5.7	
CR253	p.65	p.111	FJ	SX4	磁器	茶碗	染付	富士文	吹絵	瀬戸美濃	7.5	3.1	5.2	
CR254	p.65	p.111	FJ	SX4	磁器	湯呑	青磁	「S.13 紡績部第一位獲得記念」上絵	緑胎	瀬戸美濃	6.8	3.0	6.6	
CR255	p.65	p.112	FJ	SX4	磁器	湯呑	白磁金赤彩	「東海硬質磁器 MARUKO」	菊花唐草文プリント	瀬戸美濃	6.2	4.3	7.0	アールデコ様式
CR256	p.65	p.112	FJ	SX4	磁器	湯呑	色絵	「群馬縣新町桜井歯科医院電話五十番」「硬質磁器」	ゴム印？・型成形	瀬戸美濃？	6.8	3.2	5.8	
CR257	p.65	p.112	FJ	SX4	磁器	湯呑	色絵	薔薇文	プリント	瀬戸美濃？	6.9	3.2	6.9	
CR258	p.65	p.112	FJ	SX4	磁器	丼	白磁緑彩	国民食器「美濃窯業」	銅版転写	瑞浪、美濃窯業	15.0	5.4	7.0	
CR259	p.64	p.112	FJ	SX4	磁器	丼蓋	白磁緑彩	果物文	銅版転写	瀬戸美濃	14.3	-	-	
CR260	p.65	p.112	FJ	SX4	磁器	コーヒーカップ	色絵	蝶鶴文	プリント・ラスター	瀬戸美濃？	8.0	3.5	6.3	
CR261	p.64	p.112	FJ	SX4	磁器	丼蓋	色絵	窓絵・「山一陶園特製」	銅版転写	瀬戸美濃	13.4	4.8	3.9	
CR262	p.65	p.112	FJ	SX4	磁器	茶碗	色絵	方格文	銅版転写	瀬戸美濃	7.3	3.2	5.1	
CR263	p.65	p.112	FJ	SX4	陶器	代用小瓶	透明釉	「岐 258」		美濃、多治見	3.8	3.3	5.6	
CR264	p.65	p.112	FJ	SX4	陶器	代用小瓶	透明釉	「Moncoco」アルミ蓋		瀬戸美濃？	3.8	4.6	5.4	
CR265	p.65	p.112	FJ	SX4	陶器	花瓶	黒釉	魚子地八弁巴・雷文盾型貼付文	軟質	横浜	10.0	-	c.24	輸出様式
CR266	p.65	p.112	FJ	SX4	陶器	鉢	三彩		軟質		11.7	8.2	8.7	
CR267	p.65	p.112	FJ	SX4	陶器	土瓶	色絵	舞踊文	軟質手描		6.2	5.8	7.4	
CR268	p.65	p.112	FJ	SX4	磁器	皿	色絵	蝶	手描・型成形	肥前？	17.0	8.7	4.3	
CR269	p.65	p.112	FJ	SX4	磁器	匙	白磁			瀬戸美濃？	-	4.8	-	
CR270	p.65	p.112	FJ	SX4	陶器	コーヒーカップ	色絵	「MARY HAD A LITTLE LAMB」	軟質・プリント	不明	7.6	6.8	7.0	欧米物語
CR271	p.65	p.112	FJ	SX4	陶器	急須	黒彩	竹文	軟質手描	不明	7.4	6.4	7.0	

製糸器具観察表

番号	図	写真	建物	遺構	種類	色など	製品	数量	産地	高cm	径cm	幅cm	備考
FL01	p.66	p.112	HG	-C4g	磁器	白磁	集緒器	1	瀬戸美濃	0.6	1.8	-	
FL02	p.66	p.112	HS-3	SD37	磁器	白磁	集緒器	2	瀬戸美濃	0.6	1.8	-	
FL03	p.66	p.112	KR-N	SB283	磁器	白磁	集緒器	1	瀬戸美濃	0.6	2.0	-	
FL04	p.66	p.112	OR-W	-E2g	磁器	白磁	集緒器	1	瀬戸美濃	0.6	1.9	-	
FL05	p.66	p.112	SB	-B-5g	磁器	白磁	集緒器	1	瀬戸美濃	0.7	2.0	-	
FL06	p.66	p.112	SB	-G-5g	磁器	白磁	集緒器	1	不明	0.6	2.0	-	
FL07	p.66	p.112	TK-E	SB374N	磁器	白磁	集緒器	1	瀬戸美濃	0.6	1.9	-	
FL08	p.66	p.112	KR-NN	SU3	磁器	白磁	集緒器	9	瀬戸美濃	0.7	1.9	-	
FL09	p.66	p.112	KR-NN	SU3	磁器	染付	切断計数器	1	瀬戸美濃	-	c.8.0	-	銅版転写
FL10	p.66	p.112	KR-NN	-J12g	陶器	長石釉	目皿	1	不明	c.16.0	1.9	c.22.0	半円形？
FL11A	p.66	p.112	KR-NN	SU3	陶器	長石釉	兼業式目皿	1	信楽	c.21.1	1.4	c.25.8	半円形
FL11B	p.66	p.112	KR-NN	SU3	陶器	長石釉	兼業式目皿	1	信楽	c.16.0	1.7	c.14.5	半円形
FL12A	p.66	p.112	HG	SU1	陶器	長石釉	分業式煮繭鍋	1	信楽	26.6	36.8	2.0	「江州信楽山ヤス製」刻印
FL12B	p.66	p.112	HG	SU1	木製品		煮繭鍋制御棒	1		36.6	2.6	1.4	
FL13A	p.66	p.112	KR-NN	SU3	陶器	長石釉	分業式煮繭鍋	1	信楽	c.5.5	-	-	給気部内径 1.3 cm
FL13B	p.66	p.112	KR-NN	SU3	陶器	長石釉	兼業式煮繭鍋	1	信楽	c.7.9	-	-	排気部
FL14	p.66	p.112	KR-NN	SX3	陶器	長石釉	分業式煮繭鍋	1	信楽	-	32.6	-	底部
FL15	p.66	p.112	OR-S	SD42	ガラス	透明	フリカギ	1		c.2.5	0.3	1.0	旧番号 HT51
FL16	p.66	p.112	SM	SU2	磁器	白磁	集緒器	1	瀬戸美濃	0.6	1.9	-	
FL17	p.66	p.112	KR-NN	SU3	ガラス	透明	フリカギ	1		c.2.1	0.4	2.3	
FL18	p.66	p.112	KR-NN	SU3	ガラス	透明	フリカギ	1		c.1.6	0.4	2.4	
FL19	p.66	p.112	KR-NN	SU3	ガラス	透明	フリカギ	1		c.3.2	0.5	1.8	扁平断面
FL20	p.66	p.112	KR-NN	SU3	ガラス	コバルト	フリカギ	1		c.3.1	0.4	-	
FL21	p.66	p.112	FJ	SU4	磁器	白磁	集緒器	1	瀬戸美濃	0.6	2.0	-	
FL22	p.66	p.112	SM	SU5	磁器	白磁	集緒器	1	瀬戸美濃	0.5	1.9	-	
FL23	p.66	p.112	FJ	SX4	ガラス	コバルト	フリカギ？	1		c.5.3	0.8	-	

ガラス瓶観察表

番号	写真	種類	建物	遺構	色	形状	栓	技法	エンボス	高cm	径cm	幅cm	企業名・年代等
GL001	p.113	飲料	BM	SB204	透明	撫で肩瓶	王冠栓	機械	全乳一合入東京第一ミルクプラント和田牛乳店 ??	19.0	5.3	-	1925-37
GL002	p.113	薬品	FJ	SB400	茶	超小型円筒形瓶		機械	白元 6	4.7	2.7	-	
GL003	p.113	薬品	FJ	SD61 標	コバルト	小型扁平八角形瓶		機械	神 薬 資 生 堂 製 SHISEIDOTOKIO DISPENSARY	7.0	1.9	1.3	
GL004	p.113	化粧品？	FJ	SD57 標	淡青	小型広口瓶		泡		3.5	3.8	-	
GL005	p.113	化粧品？	FJ	O15g	淡青	小型広口瓶			一	5.4	6.5	-	
GL006	p.113	化粧品？	FJ	SB402	透明	円筒形栓	円形摘み			4.7	2.8	2.4	
GL007	p.113	化粧品	HG	SB013	黒	小型扁平四角形瓶		機械	TSUKIBIJIN 月美人	5.5	3.2	4.7	1945 頃月美人
GL008	p.113	薬品	HG	B4g	コバルト	大型円筒形短頸瓶	ガラス栓	泡	五稜星（液体残存）	20.0	6.8	-	
GL009	p.113	化粧品	HG	SB310	コバルト	小型円筒形瓶		機械	美顔水	7.0	1.6	-	
GL010	p.113	薬品	HG	B4g	淡青	円筒形短頸瓶		泡	改	19.2	6.8	-	
GL011	p.113	化粧品？	HG	SD13	淡青	小型円筒形瓶		機械		8.5	3.9	-	
GL012	p.113	食品	HG	SB310	淡青	小型小鉢型瓶		機械		c.10.6	-	3.3	金平糖
GL013	p.113	文具	HG	SD13	緑	小型円筒形瓶		機械	TRADE MARK METORO	6.0	5.6	-	インク瓶？
GL014	p.113	薬品	HG	-A3g	淡青	小型八角形瓶		泡	神 薬 資 生 堂 製 TOKYOSHISEIDO DISPENSARY	c.6.8	2.1	-	
GL015	p.113	化粧品？	HG	A2g	淡青	小型広口瓶		機械		9.0	6.3	-	
GL016	p.113	化粧品	HG	SB310	乳白	小型広口瓶				3.5	4.9	-	
GL017	p.113	化粧品	HG	SB310	乳白	小型四角形瓶			148	5.6	3.8	-	
GL018	p.113	化粧品	HG	SB310	乳白	円盤型栓			CREME LAIT	0.8	3.0	-	平尾賛平商店
GL019	p.113	化粧品？	HG	-A3g	透明	扁平十二角形瓶		機械		11.0	4.9	3.2	
GL020	p.113	化粧品	HG	B4g	透明	扁平四角形瓶		機械	SAMPEI.HIRAO "LAIT" TOILET WATER	c.11.2	4.4	2.9	平尾賛平商店化粧水
GL021	p.113	化粧品？	HG	SB310	透明	扁平四角形瓶		機械		10.3	4.9	2.8	
GL022	p.113	飲料	HG	SB016	透明	撫で肩広口瓶	紙栓	機械	〇正 200cc 明治 200 要冷蔵印刷	13.9	5.4	-	牛乳瓶 1986-92
GL023	p.113	薬品？	HG	SB310	透明	小型円筒形短頸瓶				9.0	3.9	-	
GL024	p.113	化粧品	HG	SB310	透明	超小型四角形瓶			KIN TSURU OSG	4.5	2.2	-	金鶴香水
GL025	p.113	食品	HG&ND		輝青	合子			花文	c.3.0	c.10	-	
GL026	p.113	化粧品	HS-3	SD37	黒	小型円筒形広口瓶		機械		5.6	4.8	-	
GL027	p.113	化粧品	HS-3	SD37	茶	扁平短頸瓶		機械	IZUTSU	10.0	5.0	2.3	香水瓶？
GL028	p.113	アルコール	HS-3	SD37	茶	大型撫で肩瓶		キックアップ		c.26.5	7.8	-	ワイン瓶？
GL029	p.113	薬品？	HS-3		コバルト	超小型短円筒形瓶				3.6	2.5	-	アンプル？
GL030	p.113	薬品？	HS-3	SD37	艶消し透明	小型扁平短頸瓶				5.0	3.0	1.4	
GL031	p.113	飲料	HS-3	SD37	緑	撫で肩瓶				c.18.9	6.5	-	
GL032	p.113	化粧品	HS-3	SD37	乳白	小型広口瓶		機械	脇田	5.8	3.2	-	
GL033	p.113	薬品	HS-3	SD37	乳白	小型円筒形瓶	アルミ	機械	MENTUM HANKYU KYOYEI	5.2	4.1	-	
GL034	p.113	化粧品	HS-3	SD37	乳白	小型広口瓶			◎	3.2	5.9	-	
GL035	p.113	薬品	HS-3	SD37	透明	超小型短円筒形瓶				3.6	2.6	-	アンプル？
GL036	p.113	化粧品？	HS-3	SD37 標	透明	小型円筒形瓶				8.9	3.2	-	
GL037	p.113	化粧品？	HS-3	D-3g	透明	小型円筒形瓶				7.4	3.4	-	
GL038	p.113	化粧品？	HS-3	SD37 標	透明	円筒形栓	王冠型摘み			3.8	2.4	2.6	
GL039	p.113	文具	HS-4	SD56AB	薄緑	小型四角錐瓶	ベークライト	機械	クリヤー・インキ	4.0	4.0	-	
GL040	p.113	飲料	HS-4	SD58A	透明	大型撫で肩瓶		機械	明治 スカット（プリント）	20.0	5.3	-	1970 年代初頭
GL041	p.113	薬品	HS-4	SD58A	透明	縦長円筒形瓶		機械	目盛り	11.8	2.8	2.4	
GL042	p.113	化粧品？	HS-4	SD56	透明	円筒形栓	円形摘み			4.6	1.0	-	
GL043	p.113	食器	HS-4	SD58D	透明・赤	グラス				c.8.4	5.4	-	
GL044	p.113	食器	HS-4	SD58AB	輝黄緑	取手付きカップ				c.7.0	-	-	
GL045	p.114	化粧品	KK	SB281	透明	小型円筒形短頸瓶		機械	みや古染	6.4	3.2	-	桂屋 1915 以降
GL046	p.114	薬品？	KR-N	SB226N	コバルト	小型円筒形短頸瓶				8.4	3.8	-	
GL047	p.114	化粧品	KR-N	SB226N	緑	扁平四角形瓶			ヘチマ コロン	11.2	2.0	4.0	天野源七商店
GL048	p.114	化粧品	KR-N	SB226N	緑	扁平四角形瓶			ヘチマコロン	10.8	1.9	3.9	天野源七商店
GL049	p.114	飲料	KR-N	SB226N	淡青	撫で肩長頸瓶		機械	日本麦酒鑛泉株式會社 登録商標 6	c.17.4	6.3	-	1921-33
GL050	p.114	化粧品？	KR-N	SD31	淡青	小型円筒形瓶		機械		7.5	2.9	-	
GL051	p.114	化粧品	KR-N	SB226N	淡青	短広口瓶		機械		2.8	6.9	-	
GL052	p.114	化粧品	KR-N	SB226N	淡青	小型広口瓶		機械		4.5	4.6	-	
GL053	p.114	化粧品	KR-N	SB226N	乳白	小型広口瓶	アルミ	機械		4.1	5.0	-	
GL054	p.114	化粧品	KR-N	SB226N	乳白	小型六角形瓶	アルミ			5.3	3.0	-	
GL055	p.114	化粧品	KR-N	SB238	乳白	小型花弁型瓶				5.0	3.0	-	
GL056	p.114	化粧品	KR-N	SB221	乳白	小型広口瓶			〇高	3.1	5.9	-	
GL057	p.114	化粧品？	KR-N	SB263	透明	長頸瓶				12.3	4.2	-	
GL058	p.114	薬品？	KR-N	SB226N	透明	スポイト？				c.5.0	0.6	-	
GL059	p.114	文具	KR-N	SB226N	透明	小型円筒形瓶				6.0	5.5	-	インク瓶？
GL060	p.114	薬品	KR-N	-K7g	透明	四角形瓶			☆H	12.3	3.8	2.0	星製薬
GL061	p.114	化粧品	KR-N	SB226N	透明	砲弾型栓				3.8	-	0.7	
GL062A	p.114	食器	KR-W	SD16	輝黄緑	合子蓋		機械		3.0	9.4	-	切子状
GL062B	p.114	食器	KR-N,W	SB226N	輝黄緑	合子身		機械		c.7.7	9.4	-	鎬状
GL063	p.114	飲料	KR-NN	-K12g	茶	縦長円筒形瓶		機械	TAISHO PHARM.CO 150 TI	12.0	4.3	-	
GL064	p.114	化粧品？	KR-NN	-J12g	淡青	円筒形瓶		機械		c.11.0	5.3	-	
GL065	p.114	化粧品	KR-NN	SX01,02	透明	小型四角形瓶		機械		9.2	4.1	-	
GL066	p.114	化粧品？	KR-NN	SX01,02	透明	小型円筒形瓶				7.5	3.5	-	
GL067	p.114	薬品？	KR-NN	SX01,02	透明	小型広口瓶	ガラス	栓付き		6.1	4.7	-	
GL068	p.114	飲料	KR-W	-K3g	茶	円筒形瓶		機械		11.5	4.6	-	
GL069	p.114	化粧品	KR-W	SD16	乳白	小型広口瓶？			ピヤン	c.5.0	3.3	-	
GL070	p.114	化粧品	KR-W	SS01	乳白	超小型円筒形広口瓶		機械		3.0	3.7	-	
GL071	p.114	飲料	KR-W	-J2g	透明	撫で肩瓶		機械	ペプシコーラ（プリント）65 7	19.7	5.6	-	1970 年代
GL072	p.114	化粧品？	KR-W	SS01	透明	小型扁平瓶	ベークライト	栓一部残り		5.5	-	3.0	
GL073	p.114	化粧品	KS	SB151	乳白	円盤形栓			レリーフ	1.2	4.0	-	
GL074	p.114	化粧品	KS	P-3g	乳白	小型広口瓶	プラスティック		蓋不明線刻	3.0	4.5	-	
GL075	p.114	化粧品？	KS	SB151	透明	円筒形栓	円盤形摘み		不明マーク	2.6	3.0	-	

ガラス瓶観察表

番号	写真	種類	建物	遺構	色	形状	栓	技法	エンボス	高cm	径cm	幅cm	企業名・年代等
GL076	p.114	化粧品？	MT	H17g	透明	小型六角形瓶				5.2	1.5	-	
GL077	p.114	化粧品	ND	B2g	黒	小型広口瓶		機械	ONLY	5.2	4.9	-	
GL078	p.114	薬品	ND	SB125	茶	小型扁平瓶		機械	保壽 神藥 保壽堂製 M	6.0	3.0	1.8	
GL079	p.114	化粧品？	ND	B2g	艶消し透明	扁平瓶		機械		10.0	5.5	2.6	
GL080	p.114	文具	ND	SB125	淡青	小型四角形瓶		機械		5.7	5.1	-	インク瓶？
GL081	p.114	化粧品？	ND	A2g	淡青	小型広口瓶		機械		6.8	6.1	-	
GL082	p.114	化粧品？	ND	B2g	淡青	小型広口八角瓶		機械	◯高	7.0	6.0	-	
GL083	p.114	薬品	ND	B2g	乳白	超小型円筒形瓶		機械	皮膚メンスワー保健薬	4.6	3.7	-	
GL084	p.114	化粧品	ND	A2g	乳白	小型卵型瓶		機械		5.8	4.2	6.0	
GL085	p.114	化粧品	ND	SB125	乳白	小型卵型瓶				4.3	3.2	4.2	
GL086	p.114	化粧品	ND	A2g	乳白	短広口瓶			◯高 純植物性 ポマード	2.3	6.2	-	
GL087	p.114	化粧品	ND	SB126	乳白	短広口瓶			REG.PAT.OFF	2.8	4.3	-	
GL088	p.114	薬品	ND	A2g	透明	中型円筒形短頸瓶		機械	目盛り	12.3	5.4	-	
GL089	p.114	薬品	ND	B2g	透明	扁平瓶		機械	鐘紡新町工場醫局 目盛り	16.4	2.4	7.4	
GL090	p.114	薬品	ND	-C2g	透明	小型円筒形瓶		機械	目盛り（紐付き）	6.8	3.1	-	
GL091	p.114	化粧品？	ND	SD18	透明	小型四弁形瓶		機械		6.1	4.4	-	
GL092	p.114	文具	OR-NE	SB381	淡緑	小型円筒形瓶		機械	M	5.2	4.6	-	インク瓶？
GL093	p.114	薬品	OR-N	SB364	透明	小型円筒形瓶		機械		5.5	2.2	-	アンプル？
GL094	p.114	薬品	OR-S	SB334	透明	超小型短円筒形瓶				3.7	2.7	-	アンプル？
GL095	p.115	飲料	OR-W	-F7g	茶	円筒形瓶		機械	38 TI	13.2	4.6	-	
GL096	p.115	化粧品？	OR-W	-E2g	透明	十角形瓶		機械	ヤマ マツ	11.4	3.2	-	
GL097	p.115	化粧品	OR-W	SB064	透明	小型四角形瓶		機械	蜻蛉・花ロゴ	8.4	3.8	-	1919-29ビゲン桃屋順天館製
GL098	p.115	飲料	OR-W	SB092	透明	撫で肩広口瓶	紙栓	機械	◯正 180ml ◯☆ i2	13.9	5.2	-	牛乳瓶 S.30 年代
GL099	p.115	薬品	OR-W	-E3g	透明	小型円筒形瓶		機械	目盛り ◯T	8.4	3.9	-	
GL100	p.115	化粧品？	OR-W	SB004	透明	小型円筒形瓶		機械	◯SY 桜屋製 日章	9.0	4.2	-	
GL101	p.115	化粧品	SB	-F-5g	乳白	小型卵型瓶			TANCHO VANISHING CREAM	4.5	3.4	-	丹頂クリーム（現マンダム）
GL102	p.115	化粧品	SB		透明	扁平瓶		機械	レートフード LAITFOOD	11.0	4.8	2.9	1915 平尾賛平商店乳白色美容液
GL103	p.115	化粧品	SB	-D-5g	透明	超小型片口瓶			脇田	4.9	3.3	-	
GL104	p.115	化粧品	SM	SB318	乳白	小型十角形瓶				6.5	4.0	-	
GL105	p.115	薬品	SM	SB103	透明	小型円筒形瓶		機械斜め	KA	5.5	2.4	-	アンプル？
GL106	p.115	化粧品？	SM	-K-1g	透明	長頸瓶				15.3	4.5	-	
GL107	p.115	化粧品	SM	SB318	透明	小型四角形瓶		機械？	ホーカ液 堀越 60	9.5	2.6	-	堀越嘉太郎商店 ラベル残存
GL108	p.115	化粧品	SM	-L-3g	透明	小型卵型瓶		機械	ビノール香油	6.4	3.2	-	
GL109	p.115	薬品？	TK-E	Q15g	青	小型扁平六角形瓶		機械		6.6	1.5	0.9	
GL110	p.115	文具	TK-E	SB374S	透明	小型扁平四角形瓶		機械	PILOT MADE IN JAPAN	4.4	4.8	3.3	インク瓶
GL111	p.115	薬品	TK-E	H15g	透明	小型扁平瓶			☆ H	6.8	3.4	1.6	星製薬？
GL112	p.115	薬品？	TK-E	SB374N	透明	小型円筒形広口瓶			△	8.4	4.4	-	
GL113	p.115	化粧品	TK-W	SB349	乳白	蓋	球形摘み			1.8	4.8	-	
GL114	p.115	化粧品？	TK-W	SB348	透明	円錐形栓	円盤形摘み			2.7	2.8	-	
GL115	p.115	文具	UM	Q5g	淡緑	超小型広口瓶		泡	ヤマト糊	4.3	4.7	-	
GL116	p.115	化粧品	YI	N16g	乳白	小型卵型瓶			三日月ロゴ	5.2	4.2	-	内容物痕？
GL117	p.115	化粧品？	YR	SD39	透明	長頸瓶		機械		11.0	4.0	-	
GL118	p.115	化粧品	YR	SD40	透明	超小型円筒形広口瓶		機械	みや古染 ヘト0	4.2	3.1	-	桂屋 1915 以降
GL119	p.115	化粧品	試掘		艶消し透明	小型扁平卵型瓶		機械	REGDESIGN NO41651	6.6	3.9	2.6	
GL120	p.115	化粧品	試掘		乳白	短広口瓶			意匠登録	3.0	6.0	-	
GL121	p.115	薬品	不明		コバルト	小型扁平八角形瓶	コルク	機械斜め	神薬	6.9	2.5	1.6	
GL122	p.115	化粧品？	不明		淡緑	六角形瓶		機械	◯高	17.1	4.6	-	
GL123	p.115	化粧品	不明		乳白	小型卵型瓶		機械	S字ロゴ	5.6	3.8	-	
GL124	p.115	化粧品	不明		透明	扁平四角形瓶			ビホー液 土尾	10.9	4.0	2.4	
GL125	p.115	アルコール	HS-3	SU1	茶	大型撫で肩瓶		機械	キリンビール 登録商標 2	28.8	7.0	-	S.20-30 年代
GL126	p.115	アルコール	HS-3	SU1	茶	大型撫で肩瓶		機械	◇N 7 Y	28.8	7.0	-	ビール瓶？
GL127	p.115	薬品	HS-3	SU1	茶	小型円筒形瓶		機械	45 2	7.4	3.2	-	
GL128	p.115	飲料？	HS-3	SU1	緑	撫で肩短頸瓶	アルミ	機械	10 T2. Kanebo V.S.R.O.P.P.	13.2	4.5	-	
GL129	p.115	アルコール	HS-3	SU1	緑	大型撫で肩瓶		キックアップ		30.3	8.2	-	ワイン瓶？
GL130	p.116	アルコール	HS-3	SU1	淡青	大型撫で肩瓶		機械		38.7	9.0	-	一升瓶
GL131	p.116	薬品	HS-3	SU1	淡青	扁平瓶		機械	養命酒 ロゴ	16.0	6.2	2.4	1925 以降
GL132	p.116	薬品	HS-3	SU1	青	小型扁平点眼容器		機械	EYE LOTION ROHTO	8.8	2.4	1.6	
GL133	p.116	化粧品	HS-3	SU1	淡青	超小型円筒形広口瓶		泡	桜T	4.4	4.3	-	
GL134	p.116	薬品？	HS-3	SU1	淡青	円筒形短頸瓶		機械	—	19.0	6.0	2.0	
GL135	p.116	飲料	HS-3	SU1	淡青	撫で肩広口瓶	紙栓	機械	全乳 180c.c.	14.0	4.8	-	S.20 年代
GL136	p.116	食器	HS-3	SU1	淡緑	カップ			CAN 66 I.G-18	9.8	5.0	-	
GL137	p.116	不明	HS-3	SU1	淡緑	広口十四角形瓶		機械		11.2	4.0	-	
GL138	p.116	ホルマリン？	HS-3	SU1	淡緑	超大型短頸瓶		キックアップ		c.45.0	24.0	-	
GL139	p.116	化粧品	HS-3	SU1	乳白	小型広口十角形瓶			ELINA	3.4	6.6	-	
GL140	p.116	化粧品	HS-3	SU1	乳白	小型広口六弁形瓶			Poppy	4.3	5.9	-	
GL141	p.116	化粧品	HS-3	SU1	乳白	小型広口瓶	ベークライト		club I	4.2	3.0	-	中山太陽堂クラブ化粧品
GL142	p.116	化粧品	HS-3	SU1	乳白	超小型広口瓶			◇ hn	2.2	2.4	-	
GL143	p.116	飲料	HS-3	SU1	透明	撫で肩瓶	栓不明	機械	高温殺菌全乳 一．八分	c.13.7	4.4	-	
GL144	p.116	アルコール？	SM	SU2	淡青	大型撫で肩瓶		キックアップ		20.4	6.3	-	
GL145	p.116	アルコール？	SM	SU2	淡緑	大型撫で肩長頸瓶				23.2	6.0	-	
GL146	p.116	化粧品	SM	SU2	乳白	小型卵型瓶	ガラス	機械	（栓付き）	6.4	2.4	-	
GL147	p.116	化粧品	SM	SU2	乳白	小型広口十角形瓶			尾	6.5	4.1	-	平尾賛平商店
GL148	p.116	化粧品	SM	SU2	乳白	小型広口十角形瓶			平尾分店	6.6	4.1	-	平尾賛平商店
GL149	p.116	薬品	SM	SU2	透明	小型円筒形瓶		機械	目盛り	6.9	3.1	-	アンプル
GL150	p.116	化粧品？	SM	SU2	透明	長頸瓶		肩部贅		11.0	3.5	-	
GL151	p.116	化粧品	SM	SU2	透明	小型長頸瓶		分厚い		9.8	3.6	-	
GL152	p.116	薬品？	SM	SU2	透明	長頸瓶		分厚い		10.0	3.8	-	
GL153	p.116	薬品？	SM	SU2	透明	小型長頸瓶				8.3	4.1	-	
GL154	p.117	文具？	SM	SU2	透明	小型円筒形瓶				7.4	5.8	-	インク瓶？
GL155	p.117	化粧品	SM	SU2	透明	小型四角形瓶			旭日	8.8	3.5	-	
GL156	p.117	化粧品	SM	SU02	透明	扁平四角形瓶				11.5	4.3	2.7	

ガラス瓶観察表

番号	写真	種類	建物	遺構	色	形状	栓	技法	エンボス	高cm	径cm	幅cm	企業名・年代等
GL157	p.117	化粧品	SM	SU2	透明	扁平四角形瓶		機械	旭日	11.9	4.7	4.4	
GL158	p.117	化粧品	SM	SU2	透明	扁平四角形瓶		機械	旭日 （方格突起）	11.0	3.8	1.8	
GL159	p.117	化粧品	SM	SU2	透明	小型長頸瓶		機械	SY ロゴ 旭日	9.0	4.0	-	
GL160	p.117	薬品	SM	SU2	透明	中型円筒形短頸瓶		機械	目盛り	12.3	4.8	-	
GL161	p.117	化粧品	SM	SU2	透明	扁平瓶		機械	桜香本舗守田謹製	10.6	3.8	2.7	香水瓶
GL162	p.117	飲料	SM	SU2	透明	大型撫で肩長頸瓶	木紙栓	機械	特別上等全乳 搾取所	21.1	5.7	-	愛光舎販賣所門奈 大正
GL163	p.117	化粧品	SM	SU2	透明	小型脚付瓶	ガラス		（スポイト栓付き）	6.8	2.9	-	香水瓶？
GL164	p.117	薬品	SM	SU2	透明	小型円筒形瓶		機械		5.3	2.1	-	アンプル？
GL165	p.117	薬品	SM	SU2	透明	超小型短円筒形瓶				4.0	2.5	-	アンプル？
GL166	p.117	薬品？	SM	SU2	透明	小型円筒形広口瓶		機械	33	7.6	5.1	-	
GL167	p.117	薬品？	SM	SU2	透明	小型広口十二角形瓶		機械	H	6.9	4.5	-	
GL168	p.117	化粧品	SM	SU2	透明	小型広口瓶	ガラス		（栓付き）	6.3	4.2	-	
GL169	p.117	薬品	KR-NN	SU3	コバルト	小型扁平四角形瓶		機械	神薬 ○薬	6.2	3.0	1.8	
GL170	p.117	薬品	KR-NN	SU3	コバルト	小型円筒形瓶		機械	目盛り	6.0	2.5	-	アンプル
GL171	p.117	薬品	KR-NN	SU3	コバルト	小型八角形瓶		機械	神薬 資生堂製	8.2	2.3	-	DISPENSARY
GL172	p.117	化粧品	KR-NN	SU3	緑	扁平四角形瓶			TM ヘチマコロン	11.1	3.9	2.3	天野源七商店
GL173	p.117	アルコール	KR-NN	SU3	淡青	大型撫で肩長頸瓶		機械	大日本麦酒株式會社製造 ☆〇8	22.4	5.8	-	S.1-10 年代
GL174A	p.117	飲料	KR-NN	SU3	淡青	大型撫で肩瓶	ネジ栓	機械	6	25.2	5.4	-	
GL174B	p.117	飲料	KR-NN	SU3	染付・鉄線	機械栓			郎葉井牛乳	2.2	2.2	-	
GL175A	p.117	飲料	KR-NN	SU3	淡青	撫で肩長頸瓶		機械	日本麦酒鑛泉株式會社	c.19.5	5.3	-	1921-33
GL175B	p.117	飲料	KR-NN	SU3	白磁・鉄線	機械栓				3.0	2.5	-	
GL176	p.117	薬品	KR-NN	SU3	青	小型扁平八角形瓶		機械	神薬	6.3	2.2	1.5	
GL177	p.117	化粧品？	KR-NN	SU3	淡青	短広口瓶		泡		2.9	6.6	-	
GL178	p.117	化粧品？	KR-NN	SU3	淡青	小型広口瓶		泡	トクヨ	4.2	4.8	-	
GL179	p.117	食器	KR-NN	SU3	淡青	広口四角形瓶		機械	TABLE SALT	9.6	4.0	-	
GL180	p.117	化粧品	KR-NN	SU3	乳白	蓋付短広口瓶			PEACHFLOWE もゝの花	2.5	5.2	-	東京安藤井筒堂 1912-50
GL181	p.117	化粧品	KR-NN	SU3	乳白	超小型広口瓶				2.2	2.6	-	
GL182	p.117	化粧品	KR-NN	SU3	乳白	小型広口瓶	アルミ			3.6	2.7	-	
GL183	p.117	化粧品	KR-NN	SU3	乳白	小型卵型瓶			ウテナロゴ	5.3	3.6	-	ウテナ薬品工業
GL184	p.117	化粧品？	KR-NN	SU3	乳白	円筒形栓	六角形摘み			2.0	2.2	-	
GL185	p.117	玩具	KR-NN	SU3	乳白・青	コマ				1.2	2.2	-	
GL186	p.117	薬品	KR-NN	SU3	透明	小型円筒形瓶		機械		5.1	2.2	-	アンプル？
GL187	p.117	化粧品？	KR-NN	SU3	透明	長頸瓶				17.9	5.7	-	
GL188	p.117	化粧品？	KR-NN	SU3	透明	扁平六角形瓶		機械		12.4	4.9	2.9	
GL189	p.117	文具	KR-NN	SU3	透明	小型四角形瓶		機械		5.4	4.8	-	インク瓶？
GL190A	p.117	化粧品？	KR-NN	SU3	透明	小型八角錐形瓶		機械		7.6	3.4	-	香水瓶？
GL190B	p.117	化粧品？	KR-NN	SU3	青銅・コルク	注口栓？		ねじ式開閉		c.3.0	2.0	-	
GL191	p.117	化粧品？	KR-NN	SU3	透明	小型四角形瓶		機械		9.3	4.1	-	
GL192	p.117	化粧品	KR-NN	SU3	透明	小型円筒形瓶	ガラス	機械	（ネジ式）	5.6	1.4	-	香水瓶？
GL193	p.117	薬品	KR-NN	SU3	透明	小型管状瓶				6.6	1.3	-	
GL194	p.117	食器	KR-NN	SU3	暗緑	合子身			花文・[illegible]	5.0	6.0	-	
GL195	p.118	薬品	SM	SU5	茶	円筒形短頸瓶	ガラス			19.2	7.4	-	
GL196	p.118	薬品	SM	SU5	茶	小型円筒形短頸瓶		泡		5.5	3.3	-	
GL197	p.118	アルコール	SM	SU5	茶	大型撫で肩瓶		キックアップ		c.25.2	7.0	-	ワイン瓶？
GL198	p.118	薬品	SM	SU5	コバルト	大型円筒形短頸瓶	ガラス		（平坦底）	20.0	6.8	-	
GL199	p.118	薬品	SM	SU5	コバルト	円筒形短頸瓶	ガラス		（凹み底）	19.7	6.5	-	
GL200A	p.118	薬品	SM	SU5	コバルト	大型円筒形短頸瓶	ガラス		五稜星	20.1	6.7	-	
GL200B1	p.118	薬品	SM	SU5	コバルト	円筒形栓				3.9	1.5	-	
GL200B2	p.118	薬品	SM	SU5	淡青	円筒形栓		小		3.7	1.4	-	
GL200B3	p.118	薬品	SM	SU5	淡青	円筒形栓		大		4.7	1.3	-	
GL200B4	p.118	薬品	SM	SU5	淡緑	円筒形栓				4.0	1.3	-	
GL200B5	p.118	薬品	SM	SU5	透明	円筒形栓				c.3.5	1.5	-	
GL201	p.118	薬品？	SM	SU5	淡青	円筒形短頸瓶	ガラス		五稜星	-	6.9	-	
GL202	p.118	薬品？	SM	SU5	淡緑	小型広口瓶		機械	5	8.1	4.0	-	
GL203	p.118	薬品	SM	SU5	乳白	小型円筒形瓶		機械		5.9	3.2	-	
GL204	p.118	化粧品？	SM	SU5	乳白	小型円筒形瓶		機械		c.5.7	2.2	-	
GL205	p.118	化粧品？	SM	SU5	乳白	小型卵型瓶		機械	四	5.2	2.1	-	
GL206	p.118	化粧品	SM	SU5	乳白	小型広口瓶				4.0	5.1	-	
GL207	p.118	化粧品	SM	SU5	乳白	小型広口瓶		機械		6.1	5.1	-	
GL208	p.118	薬品	SM	SU5	透明	小型円筒形瓶			（内容物一部残存）	7.2	3.4	-	
GL209	p.118	化粧品？	SM	SU5	透明	小型円筒形瓶				9.9	3.4	-	
GL210	p.118	薬品	SM	SU5	透明	円筒形短頸瓶		機械	目盛り	11.9	4.8	-	
GL211	p.118	薬品？	SM	SU5	透明	中型円筒形短頸瓶？			BAU DEN PIPRICE DU DOCTEUR PIERRE A.C.777.B	c.6.6	4.7	-	
GL212	p.118	化粧品？	SM	SU5	透明	長頸瓶				10.6	3.2	-	
GL213	p.118	文具	SM	SU5	透明	小型円筒形瓶				7.3	5.9	-	インク瓶？
GL214	p.118	薬品	SM	SU5	透明	小型円筒形瓶		機械	目盛り	5.8	2.7	-	アンプル
GL215	p.118	薬品	SM	SU5	透明	小型円筒形瓶		機械	市川	5.5	2.1	-	アンプル？
GL216	p.118	化粧品	SM	SU5	透明	超小型長頸瓶	ガラス		（スポイト栓付き）	5.0	2.7	-	香水瓶？
GL217	p.118	薬品？	SM	SU5	透明	小型長頸瓶		機械		6.2	2.6	-	
GL218	p.118	化粧品？	SM	SU5	透明	小型広口瓶				7.5	3.8	-	
GL219	p.118	アルコール	SM	SU6	茶	大型撫で肩瓶	紙栓痕	キックアップ		28.9	7.3	-	ワイン瓶？
GL220	p.118	薬品？	SM	SU6	淡緑	円筒形短頸瓶		歪み		19.0	5.8	-	
GL221	p.118	化粧品	SM	SU6	乳白	小型広口十角形瓶		機械	平尾分店	6.7	4.1	-	平尾賛平商店
GL222	p.118	化粧品	SM	SU6	乳白	小型広口瓶		機械		6.2	3.3	-	
GL223	p.118	化粧品	FJ	SX4	黒	小型卵型瓶		機械	f 字形ロゴ	5.5	3.8	-	
GL224	p.118	化粧品	FJ	SX4	黒	小型卵型瓶	ベークライト	機械	AMOURPAPAYA パパヤ	5.3	3.7	-	
GL225	p.118	化粧品	FJ	SX4	黒	小型広口瓶			[illegible]	3.5	4.8	-	
GL226	p.118	化粧品	FJ	SX4	黒	小型広口瓶				3.3	4.8	-	
GL227	p.118	化粧品	FJ	SX4	黒	小型円筒形広口瓶	ベークライト	機械	三円錐	5.2	3.7	-	
GL228	p.118	化粧品	FJ	SX4	黒	小型円筒形広口瓶		機械	十字形 KBK TOKYO	6.0	4.0	-	
GL229	p.118	化粧品	FJ	SX4	黒	小型楕円形瓶		機械	月ノ友	5.0	3.9	-	

ガラス瓶観察表

番号	写真	種類	遺物	遺構	色	形状	栓	技法	エンボス	高cm	径cm	幅cm	企業名・年代など
GL230	p.118	化粧品	FJ	SX4	黒	小型扁平四角形瓶		機械	TSUKIBIJIN 月美人	5.3	3.9	3.0	月美人
GL231	p.118	化粧品	FJ	SX4	黒	小型扁平四角形瓶		機械	Tsuki Bijin	5.9	4.4	3.2	月美人
GL232	p.118	化粧品	FJ	SX4	黒	小型扁平卵型瓶		機械	ANDO	5.0	4.0	2.8	香水瓶？
GL233	p.118	薬品	FJ	SX4	茶	円筒形短頸瓶		機械	7Y	18.7	7.2	-	
GL234	p.119	薬品？	FJ	SX4	茶	円筒形瓶		機械	○	17.7	6.7	-	
GL235	p.119	薬品？	FJ	SX4	茶	円筒形広口瓶		機械	3	11.0	5.8	-	
GL236	p.119	アルコール	FJ	SX4	茶	大型撫で肩長頸瓶		機械	AKADAMA PORT WINE 2	28.8	6.4	-	壽屋洋酒店 1921 以降
GL237	p.119	化粧品	FJ	SX4	コバルト	小型扁平四角形瓶	ベークライト	機械	花文（栓）	9.9	4.1	2.6	
GL238	p.119	薬品	FJ	SX4	コバルト	小型円筒形瓶		機械	目盛り	5.9	2.6	-	アンプル
GL239	p.119	化粧品	FJ	SX4	コバルト	小型円筒形広口瓶		機械	KBK Tokyo トランプマーク・数字	5.3	4.5	2.0	
GL240	p.119	化粧品	FJ	SX4	コバルト	小型逆四角錐瓶			Juju	5.2	2.9	-	1946 ジュジュ洗顔クリーム
GL241	p.119	化粧品	FJ	SX4	コバルト	小型扁平四角形瓶		機械	TSUKIBIJIN	6.0	4.5	3.4	1945 月美人特製クリーム
GL242	p.119	薬品？	FJ	SX4	オリーブ	広口瓶		機械	2	10.5	5.8	-	
GL243	p.119	飲料	FJ	SX4	艶消し透明	大型撫で肩瓶	王冠	機械	3 D.LITER	24.9	4.9	-	
GL244	p.119	化粧品	FJ	SX4	艶消し透明光沢	小型耳付き卵型瓶		機械		5.3	3.4	-	
GL245	p.119	薬品	FJ	SX4	淡青	小型円筒形瓶		機械	目盛り	5.6	2.4	-	アンプル
GL246	p.119	薬品	FJ	SX4	淡緑	中型円筒形短頸瓶		機械	良薬口口口苦し ▽三式錠	12.5	5.2	-	
GL247	p.119	薬品	FJ	SX4	淡青緑	円筒形瓶		機械	WAKAMOTO	11.3	3.8	-	
GL248	p.119	化粧品？	FJ	SX4	淡青緑	小型広口円筒形瓶		機械		5.5	3.8	-	
GL249	p.119	薬品？	FJ	SX4	淡青緑	小型円筒形瓶	ベークライト		十字形	6.2	3.9	-	
GL250	p.119	化粧品	FJ	SX4	緑	扁平撫で肩瓶		機械	ヘチマコロン 登録商標 180300	11.0	3.8	2.3	天野源七商店
GL251	p.119	薬品	FJ	SX4	透明	小型扁平瓶		機械		5.1	3.0	1.4	
GL252	p.119	文具	FJ	SX4	淡青緑	小型四角形瓶		機械		5.3	4.6	-	インク瓶
GL253	p.119	文具	FJ	SX4	淡青緑	小型扁平八角形瓶		機械	東京 大國文具	6.2	3.7	3.1	インク瓶
GL254	p.119	化粧品	FJ	SX4	淡青緑	小型八角形瓶		機械	SUMUO	6.5	5.5	-	
GL255	p.119	薬品？	FJ	SX4	淡青	小型円筒形広口瓶		機械		9.0	4.9	-	
GL256	p.119	薬品？	FJ	SX4	淡青緑	小型円筒形広口瓶		機械	B	9.5	4.0	-	
GL257	p.119	食器	FJ	SX4	淡黄緑	カップ			◆ SGF	9.0	4.1	-	
GL258	p.119	化粧品？	FJ	SX4	淡黄緑	扁平八角形瓶		機械	スタート 120cc	12.3	4.6	2.8	
GL259	p.119	飲料	FJ	SX4	淡青緑	撫で肩瓶	王冠栓	機械	180cc 乳 ◯A	16.4	4.8	-	
GL260	p.119	薬品	FJ	SX4	淡緑	小型扁平瓶		機械		6.0	2.6	1.5	
GL261	p.119	薬品？	FJ	SX4	淡青	円筒形瓶		機械		16.0	5.7	-	
GL262	p.119	アルコール？	FJ	SX4	淡青	大型撫で肩瓶	機械栓	機械	2	31.3	6.4	-	
GL263	p.119	薬品？	FJ	SX4	淡青	円筒形瓶			S	17.5	6.5	-	
GL264	p.119	薬品	FJ	SX4	淡青	小型扁平点眼容器		機械	EYE LOTION ROHTO 40	8.0	1.5	1.0	
GL265	p.119	化粧品？	FJ	SX4	淡青	扁平八角形瓶	ベークライト	機械	（紙ラベル一部残存）	11.3	5.1	2.5	
GL266	p.119	薬品？	FJ	SX4	淡青	小型円筒形瓶		機械		8.1	2.5	-	
GL267	p.119	薬品？	FJ	SX4	淡青	小型円筒形瓶		機械	5	8.1	4.0	-	
GL268	p.119	文具	FJ	SX4	淡青	小型円筒形瓶		機械		4.0	2.1	-	インク瓶？
GL269	p.119	薬品	FJ	SX4	淡黄緑	小型瓢箪型瓶		機械	縦襞	8.5	1.7	-	
GL270	p.119	薬品？	FJ	SX4	淡オリーブ	広口十二角形瓶		機械		12.4	6.1	-	
GL271	p.120	化粧品	FJ	SX4	乳白	扁平四角形瓶	ベークライト		N1	11.6	4.9	2.6	
GL272	p.120	化粧品	FJ	SX4	乳白	小型扁平卵型瓶	ベークライト	機械	MASTER SHOBIDO	6.4	3.4	2.4	
GL273	p.120	化粧品	FJ	SX4	乳白	小型卵型瓶			ウテナロゴ	6.6	4.4	-	ウテナ薬品工業バニシングクリーム 1930 以降
GL274	p.120	化粧品	FJ	SX4	乳白	小型卵型瓶		機械	レリーフ	5.1	3.5	-	
GL275	p.120	化粧品	FJ	SX4	乳白	小型広口瓶	ベークライト	機械	KAGASI	4.0	5.3	-	
GL276	p.120	化粧品	FJ	SX4	乳白	短広口瓶			お染ポマード	3.2	6.6	-	
GL277	p.120	化粧品	FJ	SX4	乳白	小型広口十二角形瓶			共榮會特製ポンネットクレ	3.5	4.5	-	
GL278	p.120	化粧品	FJ	SX4	乳白	超小型円筒形広口瓶		機械	レリーフ	3.2	3.5	-	
GL279	p.120	化粧品	FJ	SX4	乳白	小型卵型瓶	ベークライト		MOND CREAM	6.2	2.5	-	
GL280	p.120	化粧品	FJ	SX4	乳白	小型卵型瓶		機械	尚美堂	5.0	3.3	-	
GL281	p.120	薬品	FJ	SX4	透明	中型円筒形短頸瓶		機械	楠原醫院 目盛り	12.5	4.9	-	
GL282	p.120	薬品	FJ	SX4	透明	管状瓶	布		錠剤残存	c.9.1	1.5	-	
GL283	p.120	薬品	FJ	SX4	透明	スポイト状瓶			底部小孔	c.8.1	1.3		
GL284	p.120	化粧品	FJ	SX4	透明	小型扁平短頸瓶		機械	縦襞	9.1	5.0	2.3	
GL285	p.120	化粧品	FJ	SX4	透明	扁平短頸瓶		機械	Tellme	10.1	4.8	2.8	
GL286	p.120	化粧品	FJ	SX4	透明	小型扁平四角形瓶		機械	3 水平帯	9.0	5.2	2.2	
GL287	p.120	化粧品	FJ	SX4	透明	小型扁平八角形瓶		機械	5 水平帯	9.0	5.0	2.7	
GL288	p.120	化粧品？	FJ	SX4	透明	扁平四角形瓶		機械		10.5	4.4	2.1	
GL289	p.120	文具	FJ	SX4	透明	小型四角形瓶		機械		5.6	4.7	-	インク瓶？
GL290	p.120	文具	FJ	SX4	透明	小型円筒形瓶		機械	RIGHT INK 2OZ MADE IN JAPAN	6.7	5.0	-	インク瓶
GL291	p.120	家具	FJ	SX4	透明	掛け鏡				35.5	12.4	0.8	
GL292	p.120	文具	FJ	SX4	透明	ペン先	ゴム柄部？			c.2.5	0.4	-	
GL293	p.120	化粧品	FJ	SX4	透明	小型円筒形瓶		機械	千代花	9.2	3.3	-	
GL294	p.120	食器？	FJ	SX4	揮青	合子身？			レリーフ	c.3.1	c.9.5	-	

金属製品観察表

番号	図	写真	遺物	遺構	種類	形状	長／幅cm	幅／高cm	径／厚cm	備考	想定
MT04	p.71	p.125	KR-N	SB226N	銅鍵		6.0	1.8	0.4		
MT05	p.71	p.125	KR-NN	SB283	有孔円形細銅板	環状	-	0.5	0.2	鋲孔 2・針金 4ヶ所	繰糸機械部品？
MT06	p.71	p.125	KR-W	SB001	細口銅管頭	太管＋細管	2.8	1.4	0.4		
MT07	p.71	p.125	KK	SU2	銅指環	指輪	2.1	1.8	0.9	宝石離脱	
MT08	p.71	p.125	TK-E	SB374	銅環		1.8	1.5	0.2		
MT11	p.71	p.125	KR-NN	SB222	鉛製鋲頭？	鋳造痕	1.5	2.1	1.3	下端円形鉄鋲	繰糸機械部品？
MT12	p.71	p.125	KR-NN	SU3	二重湾曲銅線	2U 字形	4.0	3.8	0.2		繰糸機械部品？
MT13	p.71	p.125	KR-NN	SU3	鉤状銅製品		8.0	0.6	0.1		

金属製品観察表

番号	図	写真	建物	遺構	種類	形状	長／幅cm	幅／高cm	径／厚cm	備考	想定
MT14	p.71	p.125	KR-NN	SU3	有孔銅円盤		2.6	0.8	0.6		
MT22	p.71	p.124	OR-W	-E3g	合金製支え具	開閉式	12.4	8.1	1.0	下部角釘状	
MT23	p.71	p.124	OR-W	-E3g	合金機械部品	二重 内側内部綿状縦縞	4.6	3.2	1.8	MADE IN GERMANY 陰刻	
MT24	p.71	p.125	SM	SD18	鉛蓋	円盤状	2.4	0.2	0.1	「煉麝香」	
MT26	p.71	p.124	FJ	SB408	鉄製長金具	円孔部とボルト部	62.3	5.2	1.7		
MT27	p.71	p.124	ND	-C-1g	鉄製回転部品	2 円盤と連結軸	13.0	6.4	-		
MT28	p.71	p.124	UM	SB205	鉄製枠台？	2 円形部分と支え台	34.8	30.0	1.5		
MT29	p.71	p.124	UM	SB205	不明鉄製品	弓形3筋	46.0	23.5	1.1		
MT30	p.71	p.124	HG	SU1	鉄製歯車伝導部品		27.0	18.0	3.3		
MT31	p.71	p.124	SM	SU2	鉄製ロストル？		28.8	18.5	1.5		
MT32	p.71	p.124	KR-NN	SU3	鉄製支え具	3 弧状	27.2	23.5	1.2		
MT33	p.71	p.124	KR-NN	SU3	鉄製隅用板材	円弧状	17.4	15.9	0.4		
MT34	p.71	p.124	KR-NN	SU3	鉛部品・銅線	直方体連結銅線	c.30	5.1	4.2		

整髪具類観察表

番号	図	写真	建物	遺構	種類	材質	色	形状	長cm	幅cm	備考
HT01	p.66	p.120	FJ	O15g	櫛	セルロイド	黒	長方形？	-	3.7	「引口？」線刻
HT02	p.66	p.120	FJ	SB404	櫛	セルロイド	鼈甲	長方形	-	4.6	「ノ四 武井しづ」線刻
HT03	p.66	p.120	HG	SB299	櫛	セルロイド	鼈甲	長方形	9.3	4.1	「三番 小川みつ」線刻
HT04	p.66	p.120	HG	SB310	櫛 A	セルロイド	淡黄	長方形	-	4.6	「二ノ宮キヨ」線刻
HT05	p.66	p.120	HG	SB310	櫛 B	セルロイド	虹色	片楕円形	-	2.9	「ナミセ」線刻
HT06	p.67	p.120	HS-3	SD37	櫛	セルロイド	青緑	楕円形	-	3.5	「青木愛子」線刻
HT07	p.66	p.120	HS-4	SD56	櫛	セルロイド	鼈甲	楕円形	15.2	3.7	「ロツネノこ」線刻
HT08	p.67	p.120	HS-4	SD58	櫛	セルロイド	黒	長方形	9.5	3.5	「梅之口山之ミヤ？」線刻
HT09	p.67	p.120	KK	SB281	櫛 A	セルロイド	鼈甲	長方形	-	5.5	「一沢キヨ子」線刻
HT10	p.67	p.120	KK	SB281	櫛 B	セルロイド	鼈甲	楕円形	15.9	3.8	「美原村金沢サト用」線刻
HT11	p.67	p.121	KR-NN	-K11g	櫛	セルロイド	黒	楕円形	10.1	3.1	象嵌
HT12	p.67	p.121	KR-NN	SX1,2	櫛 A	セルロイド	黒	片楕円形	13.8	3.6	「佐藤」線刻 光沢
HT13	p.67	p.121	KR-NN	SX1,2	櫛 B	セルロイド	鼈甲	片楕円形？	-	2.3	「梅田ツヤ」線刻
HT14	p.67	p.121	KR-NN	SX2	櫛	セルロイド	白黄	片楕円形	15.0	3.4	「熊谷スラ」刻
HT15	p.67	p.121	KR-W	SS1	櫛	セルロイド	黒	小長方形	7.8	3.0	「高山ヨコヤマキワコ」線刻
HT16	p.67	p.121	KS	Q-5g	櫛	セルロイド	鼈甲	長方形	-	5.0	「十五ば」線刻
HT17	p.67	p.121	MT	F15g	櫛	セルロイド	黒	楕円形	-	3.7	不明線刻
HT18	p.67	p.121	MT	I17g	櫛	セルロイド	鼈甲	長方形	13.1	5.1	「ロラロサイロセセイレン渡辺ハキ用？」線刻
HT19	p.67	p.121	ND	-A2g	櫛	セルロイド	鼈甲	楕円形？	-	3.6	「ロヤメ」線刻
HT20	p.67	p.121	ND	A2g	櫛	セルロイド	鼈甲	楕円形	-	3.8	「ヨイ」線刻
HT21	p.67	p.121	ND	B2g	櫛	セルロイド	黒	長方形	-	3.5	「ナデシコセ」線刻
HT22	p.67	p.121	ND	SB125	櫛	セルロイド	黒	長方形	-	3.5	「ヤザワヤス」線刻
HT23	p.67	p.121	ND	SD20	櫛	セルロイド	三色	長方形	-	2.9	
HT24	p.67	p.121	SM	-Q-1g	櫛	セルロイド	鼈甲	長方形？	-	-	毛彫
HT25	p.67	p.121	SM	-H-2g	櫛	セルロイド	鼈甲	長方形？	-	4.4	「中井？ セレ」線刻
HT26	p.67	p.121	SM	SB102	櫛	セルロイド	藤色	長方形	-	-	「山？・ハイノミヤイメ」？線刻
HT27	p.67	p.121	SM	SU2	櫛 A	セルロイド	鼈甲	長方形	10.2	4.4	「十一バン中村ミツコ」線刻
HT28	p.68	p.121	SM	SU2	櫛 B	セルロイド	鼈甲	長方形	9.4	4.7	「○○スラ」線刻消し線
HT29	p.68	p.121	SM	SU2	櫛 C	セルロイド	鼈甲	山形	10.0	3.0	不明線刻
HT30A	p.68	p.121	SM	SU2	櫛 D	セルロイド	鼈甲	長方形	-	5.1	「トチ」線刻 光沢
HT30B	p.68	p.121	SM	SU2	櫛 E	セルロイド	鼈甲	長方形	-	4.7	
HT31	p.68	p.121	KR-NN	SU3	櫛 A	セルロイド	淡黄	長方形差し櫛	10.5	3.3	光沢
HT32	p.68	p.121	KR-NN	SU3	櫛 B	セルロイド	鼈甲	長方形差し櫛	11.0	3.2	象嵌
HT33	p.68	p.122	FJ	SX4	櫛 A	樹脂？	橙	長方形	10.0	2.4	「ノザキカズ子」線刻
HT34	p.68	p.122	FJ	SX4	櫛 B	木製	黒	半円形	9.7	5.3	
HT35	p.68	p.122	TK-W	SB377	櫛	セルロイド	鼈甲	長方形	-	3.6	「入」線刻
HT36	p.68	p.122	TK-W	SB348	櫛	セルロイド	鼈甲	楕円形	16.6	3.6	「セイレン中村キリ子？」線刻
HT37	p.68	p.122	FJ	SB399	櫛	セルロイド	鼈甲	大型差し櫛	10.8	6.2	「紫寮の五号室 清水」線刻
HT38	p.68	p.122	HS-4	SD56	髪留め	セルロイド	乳白	花形	5.2	2.0	透彫
HT39	p.68	p.122	KR-N	SB226	髪留め	セルロイド	鼈甲	唐草形	-	-	透彫
HT40	p.68	p.122	KR-N	SD32	大型髪留め	セルロイド	鼈甲	爪型	9.2	5.3	紅葉文毛彫
HT41	p.68	p.122	SM	SU2	髪留め A	セルロイド	鼈甲		-	1.7	向日葵文透彫象嵌
HT42	p.68	p.122	SM	SU2	髪留め B	セルロイド	鼈甲		3.7	1.2	葉文毛彫
HT43	p.68	p.122	FJ	SU4	大型髪留め	セルロイド	鼈甲	爪型	10.6	5.9	唐草文透彫
HT44	p.68	p.122	HG	SB299	ピン	セルロイド	鼈甲	V 字形	8.6	1.5	
HT45	p.68	p.122	HG	SB310	簪	セルロイド	茶		-	1.5	光沢
HT46	p.68	p.122	HS-3	SD37	ピン A	セルロイド	鼈甲	V 字形	11.0	-	
HT47	p.68	p.122	HS-3	SD37	ピン B	セルロイド	茶		-	-	捻り
HT48	p.68	p.122	KR-NN	SX1,2	ピン	セルロイド	鼈甲	V 字形	12.9	1.9	
HT49	p.68	p.122	KR-NN	SX2	ピン	セルロイド	鼈甲	V 字形	11.3	1.9	
HT50	p.68	p.122	ND	SB125	ピン	セルロイド	黒	V 字形	10.5	1.5	捻り
HT54	p.69	p.122	KR-NN	SU3	ピン A	セルロイド	鼈甲	V 字形	10.7	1.9	捻り
HT55	p.69	p.122	KR-NN	SU3	ピン B	セルロイド	鼈甲	V 字形	10.8	2.5	捻り
HT56	p.69	p.122	KR-NN	SU3	ピン C	セルロイド	赤	V 字形	9.4	-	捻り
HT57	p.69	p.122	KR-NN	SU3	ピン D	セルロイド	鼈甲	X 字形	7.6	1.9	
HT58	p.69	p.122	FJ	SU4	ピン	セルロイド	鼈甲	V 字形	10.5	1.8	
HT59	p.69	p.122	TK-E	SB372	ピン A	セルロイド	鼈甲	U 字形	8.6	1.6	
HT60	p.69	p.122	TK-E	SB372	ピン B	セルロイド	鼈甲	U 字形	10.3	3.3	
HT61	p.69	p.122	TK-W	SB348	ピン A	セルロイド	鼈甲	U 字形角付き	9.5	2.6	
HT62	p.69	p.122	TK-W	SB348	ピン B	セルロイド	黒	U 字形	10.7	3.5	象嵌
HT63	p.69	p.122	KR-W	SS01	装飾紐	ビニール？	緑		9.5	0.4	象嵌
HT64	p.69	p.122	HS-3	SD37	手鏡	セルロイド	乳白		7.5	6.4	
HT65	p.69	p.122	KS	SB151	櫛？	セルロイド	鼈甲	柄付き	-	3.2	

洗面具類観察表

番号	図	写真	建物	遺構	種類	材質	色	孔	部位	長cm	幅cm	備考
WT01	p.69	p.123	HG	SB310	歯ブラシ A	骨	白・青緑	55+3	完存	13.3	1.2	
WT04	p.69	p.123	HG	SB310	歯ブラシ B	骨	白	58+3	先端部	-	1.0	
WT05	p.68	p.123	HG	SB310	歯ブラシ C	骨	白	3 列	先端部	-	1.0	
WT06	p.69	p.123	HS-3	SD37	歯ブラシ A	骨	白・青緑	70+4	完存	11.1	1.2	下端耳掻き状　不明文字
WT07	p.69	p.123	HS-3	SD37	歯ブラシ B	骨	白・青緑	4 列	柄部	-	1.1	小型
WT11	p.69	p.123	KR-NN	SX2	歯ブラシ A	骨	青緑	28+0	完存	15.0	1.2	トーダイ
WT12	p.69	p.123	KR-NN	SX02	歯ブラシ B	骨	白	3 列	頭部	-	1.0	孔径 2mm　SS ナ
WT13	p.69	p.123	MT	I17g	歯ブラシ	骨	白	49+0	完存	11.7	0.9	小型
WT14	p.69	p.123	ND	B2g	歯ブラシ A	セルロイド	鼈甲	49+0	先端部付属部	7.8	1.1	付属部樹脂製
WT15	p.69	p.123	ND	B2g	歯ブラシ B	骨	白・青緑	62+4	先端部	-	0.9	
WT18,19	p.69	p.123	SM	SB103,104	歯ブラシ	骨	白	94+4	先端部	-	1.4	
WT20	p.69	p.123	SM	SU2	歯ブラシ	骨	白・青緑	48+3	完存	12.7	0.9	小型
WT21	p.69	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ A	骨	白	28+3	完存	15.5	1.1	②
WT22	p.69	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ B	骨	白	74+4	完存	16.0	1.2	製
WT23	p.69	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ C	骨	白	25+3	完存	15.0	1.1	エスエス消毒歯刷子 ③
WT24	p.69	p.123	KR-NN	SU0	歯ブラシ D	骨	白・青緑	22+3	完存	14.4	1.0	エスエス消毒歯刷子 ④
WT25	p.69	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ E	骨	白	–	柄部	-	1.2	エスエス消毒歯刷子 ①
WT27	p.69	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ F	骨	白・青緑	62+4	下端部欠	-	1.1	エスエス消毒歯刷子
WT28	p.69	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ G	骨	白・青緑	56+3	完存	13.1	1.0	小型
WT29	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ H	骨	白	82+4	完存	13.7	1.2	
WT30	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ I	骨	白・青緑	22+3	完存	14.2	1.1	エスエス消毒歯刷子 ④
WT31	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ J	骨	白	28+3	下端部欠	-	1.2	エスエス消毒歯刷子 ②
WT37	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ K	骨	白・青緑	43+0	下端部欠	-	1.1	小型？
WT39	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ L	骨	白・青緑	43+0	完存	12.6	1.1	小型
WT40	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ M	骨	白	49+3	完存	11.5	0.9	小型
WT41	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ N	骨	白	49+3	完存	11.7	1.0	小型
WT45	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ O	骨	白	–	柄部	-	1.2	THE TR □ HTY
WT49	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ P	骨	白	–	柄部	-	1.0	オン歯刷子小島具　教練用
WT52	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ Q	骨	白・青緑	62+0	先端部	-	1.2	
WT53	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ R	骨	白	31+3	先端部	-	1.2	孔径 2mm
WT54	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ S	骨	白	60 以上	先端部	-	1.2	
WT55	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ T	骨	白	25+3	先端部	-	1.0	孔径 2mm
WT56	p.70	p.123	KR-NN	SU3	歯ブラシ U	骨	白	86 以上	下端部欠	c.15.0	1.2	エスエス消毒歯刷子 ③
WT57	p.70	p.123	SM	SU5	歯ブラシ	骨	白	50+4	ほぼ完存	c.14.4	1.2	
WT58	p.70	p.123	FJ	SX4	歯ブラシ A	骨	白	31+0	完存	14.5	1.1	孔径 1.5mm
WT59	p.70	p.123	FJ	SX4	歯ブラシ B	骨	白	–	上端下端欠	-	0.8	孔径 2mm
WT64	p.70	p.123	TK-E	SB375	歯ブラシ	骨	白	–	柄部	-	1.1	小型
WT70	p.70	p.123	ND	SD44	歯ブラシ A	骨	白	31+0	完存	15.9	1.2	孔径 2mm
WT71	p.70	p.123	ND	SD44	歯ブラシ B	骨	白	22+3	先端部	-	0.8	小型
WT72	p.70	p.123	HS-3	SD37	石鹸箱	プラスティック	黄緑	–		6.3	4.5	「丸山」ペン描
WT73	p.70	p.123	HS-4	SD58AB	石鹸箱	プラスティック	赤	–		8.2	5.7	「ヤマダシメコ」線刻
WT74	p.70	p.123	HS-4	SD58D	石鹸箱	プラスティック	薄紫	–		9.0	6.7	「テツコ」ペン描
WT75	p.70	p.123	OR-W	-E3g	耳掻き	樹脂	白	–	完存	8.1	0.3	

銭貨観察表

番号	図	写真	建物	遺構	種類	直径cm	備考
CN01	p.70	p.125	BM	SJ2	不明	2.7	銅貨
CN02	p.70	p.125	FJ	SB408	不明	2.3	銅貨
CN04	p.70	p.125	KR-W	SB002	2 銭	3.2	明治 15　銅貨
CN06	p.70	p.125	OR-W	S0B92	1 銭	1.6	昭和 11　アルミ貨

その他遺物観察表

番号	図	写真	建物	遺構	種類	材質	色	長cm	幅cm
OT02	p.70	p.122	KR-N	SX2	編み棒	骨	白・青緑	13.6	0.5
OT03	p.70	p.122	FJ	SB408	ヘラ	角	白・青緑	11.4	1.0
OT06	p.70	p.122	KR-N	SB273	キセル	角	白	7.4	1.5

石・木製品観察表

番号	図	写真	建物	遺構	形状	長cm	幅cm	厚cm	備考
ST1	p.72	p.123	HG	A5g	踏み石？	c.13.5	c.3.3	5.9	ST4と同一石材
ST2	p.72	p.123	SM	-I-1g	重り	-	c.14.0	7.9	頂部有孔？砂岩
ST3	p.72	p.123	KR-NN	SU3	石臼	33.4	21.2	9.7	
ST4	p.72	p.123	SM	SU6	踏み石？	45.0	c.10.5	5.9	ST1と同一石材
WD1	p.72	p.125	TK-W	SB347S	下駄	22.0	8.9	3.6	
WD2AB	p.72	p.125	TK-E	SB374S	サンダル	24.6	9.0	4.0	蚕蛾押印

赤・耐火レンガ観察表

番号	図	写真	建物	遺構	刻印	長cm	幅cm	厚cm	印長cm	印幅cm	重量g	備考
RB042	p.72	p.125	HG	SB008	製免敷上	23.0	11.2	6.0	4.2	1.7	2,530	
RB044	p.72	p.125	HG	SB008	上敷免製	22.9	10.7	5.5	-	-	2,299	
RB134	p.72	p.125	HG	SB022	製免敷上	23.1	11.1	5.8	4.8	1.8	2,417	
RB136	p.72	p.125	HG	SB022	製免敷上	24.5	11.2	6.0	4.6	1.8	2,645	
RB140	p.72	p.125	HG	SB022	?	22.4	10.8	6.2	4.3	?	2,565	細印
RB166	p.72	p.125	HG	SB034	製免敷上	22.2	10.9	5.8	4	1.7	2,370	太字
RB167	p.72	p.125	HG	SB034	製免敷上	22.5	10.9	5.6	-	-	2,391	長方形印
RB186	p.72	p.125	HG	SB043	製免敷上	22.7	10.8	5.6	?	1.5	2,352	細字
RB189	p.72	p.125	HG	SB043	製免敷上	21.7	10.5	5.8	4.7	1.7	2,370	太字
RB196	p.73	p.126	HG	SB049	製免敷上	23.0	11.1	6.0	4.2	1.6	2,730	長方形印
RB198	p.73	p.126	HG	SB049	製免敷上	22.9	11.0	6.2	-	-	2,459	
RB267	p.73	p.126	KS	SB151	上敷免製	21.6	10.6	5.8	-	-	2,499	太印
RB270	p.73	p.126	KS	SB151	製免敷上	21.8	10.7	6.0	4.3	1.6	2,618	
RB293	p.73	p.126	HG	-C4.5g	製免敷上	-	11.0	6.0	3.8	1.2	1,998	細印
RB295	p.73	p.126	OR-W	SB004	製免敷上	22.4	11.0	5.7	?	1.6	2,456	細字
RB296	p.73	p.126	OR-W	SB004	製免敷上	23.0	11.2	6.0	4.1	1.6	2,453	
RB304	p.73	p.126	OR-W	SB093	製免敷上	21.3	10.3	5.5	?	1.3	2,371	小型印
RB342	p.73	p.126	TK-E	SB377	製免敷上	23.0	10.1	6.0	4.6	1.7	2,548	
RB345	p.73	p.126	TK-E	SB377	製免敷上	23.2	11.3	6.0	4.5	?	2,559	長方形印
RB351	p.73	p.126	UM	SB205	製免敷上	22.8	11.2	6.0	4.1	1.1	2,597	
RB358	p.73	p.126	UM	SB205	製免敷上	23.0	11.0	6.0	4.2	1.7	2,582	
RB387	p.73	p.126	不明		製免敷上	22.8	10.8	6.0	4.2	1.6	2,514	細字
RB390	p.73	p.126	不明		製免敷上	22.4	10.8	5.7	4.1	1.7	2,409	長方形印
WB05	p.73	p.126	KK	SD03	SHINAGAWA	19.0	11.0	6.0	?	4	1,908	
WB07	p.73	p.126	KR-NN	-J12g	SHINAGAWA	-	10.4	6.0	?	3	1,076	
WB08	p.73	p.126	ND	-BC-2g	なし	22.5	11.6	6.4	-	-	超 3kg	
WB10	p.73	p.126	SM	SU5	前	-	-	-	1.7	1.2	2,089	

第3章　調査のまとめ

第1節　遺構の特徴

A　各建物の規模

今回の調査で判明した建物跡は、女工寄宿舎８棟とその他建物６棟である。その中で建物本体の全体規模が確定できたのは、竹寮（東西 59.4m 南北 10.2m）・藤寮（東西 37.5m 南北 9.3m）・隔離室北棟（東西 22.5m 南北 7.4m）だった。また一部が判明したのは、萩寮（南北 9.5m）・薫撫子寮（南北 8.7m）・菊寮（南北 8.5m）・梅寮（南北 9.5m）・仏間（南北 12.6m）・教室（南北約 8m）・隔離室西棟（東西 7.4m）となる。

寮の南北幅は約 10.3m と約 9.4m が多い。また南北の間隔は、撫子・萩寮間 11.8m、萩・竹寮間 13.2m、竹・松寮間 11.8m、教室・仏間間 7.0m、仏間・梅寮間 14.8m、梅・藤寮間 14.2m、藤・百合寮間 11.7m そして葛藤・薫撫子寮間は 10m 以上で、間隔は約 11.8m がやや目立つ。

東西方向に整然と並んでいるように最終的には見えた建物群だが、微妙な規模差が存在したことになる。また性格の異なる隔離室北・西棟、仏間そして教室は、かなり異なった規模になっている。

完成した寄宿舎群（昭和 13 年頃）

薫・撫子寮改築後（昭和 45-48 年、『鐘紡新町工場 90 年史』）

B 基礎構造

これらの建物は、基礎構造に大きな違いがあった。

レンガ積み基礎：壁基礎（レンガ８段以上、隔離室東棟のみ）と根太・柱基礎（レンガ５段程度、萩寮・竹寮・教室と隔離室西・北棟）に別れる。ほぼ全てのレンガ刻印は埼玉県深谷市の日本煉瓦製造で生産された右から左の「上敷免製」である（403 点中 401 点）。前者に似た状態が、大正８(1919) 年建築の『女工手寄宿舎浴室・結髪室設計図』（クラシエ 3-10）に見える（レンガ積総段数 20 段）。白色耐火レンガは、基礎構造に使用されていない。

コンクリート基礎（断面台形根太・断面平形根太・角形柱・円形柱）：レンガが使われていないもので、菊寮・薫撫子寮・藤寮・仏間で残っていた。教室の改築もこの方法でなされた。根太基礎は断面台形（菊・藤寮・仏間旧）から断面平形（薫・撫子・仏間新）へ変わっている。前者は昭和 10 年頃建設の藤寮に始まり、後者は仏間増築の昭和 27 年以後の技法になる。

鉄筋コンクリート基礎：明瞭な例は大銀下の北東側で接する小建物だけである。

レンガ積みは大正 14 年頃の大増築時まで続き、昭和 12 年頃の菊寮建設時にはコンクリートに変わった。なお藤寮は竹寮などと同じ昭和２年図の建物に見えるが、基礎構造は全く異なり菊寮と同じである。竹・萩寮のようなレンガは全く出土していないため、実際の施工は菊寮に近い昭和 10 年頃と考えられる。

隔離室東棟のレンガ積み壁基礎

萩寮のレンガ基礎

菊寮のコンクリート基礎（台形断面）

改築董寮のコンクリート基礎（平形断面）

C 排水路

断面U字形レンガ積みと土管列があるが、前者でも何らかの上部構造があった部分は土管列に換わっている。レンガ水路は、単純にレンガのみで構成されたものと内側三面をモルタル塗りしたものに別れる。大正5年頃に使用されていた可能性のある大廊下南端のSD46は、レンガで蓋をされた最古の形態である。また撫子寮（大正2年以前建設）より古く作られていた排水路3（SD37）も、レンガのみのU字形である。モルタル塗りレンガ水路は、大正9年建設の隔離室北・西棟に見られる。また萩寮・竹寮など大正14年頃建設の寮群も、同様のモルタル塗りレンガ水路を伴っている。

無釉土管の古い例は排水路1・3の大口径や、隔離室北・西棟の小口径のものである。また萩寮や菊寮のモルタル塗りレンガ排水路と繋がった小口径の無釉土管列も見られた。一方明らかな施釉土管列は、昭和40年全面改築の葦・撫子寮の南北辺に沿った例である。排水路2・4も同様の施釉土管列である。

レンガ蓋レンガ積排水路（大廊下南端）

レンガ積U字形排水路（排水路3）

レンガ積三面モルタル排水路（隔離室北棟）

無釉大型土管列（排水路3）

無釉小型土管列（萩寮）

施釉大型土管列（排水路2）

D　便所と洗面所

章建物と隔離室北棟・教室・仏間で各種便所を検出した。隣接する洗面所を確認した例も併せて見てみよう。便所の下部構造（便槽）は、基本的に次の3形態に分かれる。

埋甕式便槽：土製大甕を埋めたもので、隔離室北棟東端と仏間北辺中央で検出した。前者は4区画の中で外側に突出する中央2区画にのみ大甕が納入されていた。

集合便槽式：竹寮の東西端と教室東端で検出した。共に複数の区画の内側個室に接してモルタル塗りの深い長方形箱形便槽を設けている。竹寮のアーチ構造の両便所は北側に排水溝を伴う長方形空間が近接し、洗面所と考えられる。このレンガアーチは、工場の原料倉庫跡（大正7年頃）のものとかなり類似している。

埋甕式便槽（隔離室北棟）

集合便槽（竹寮）

個別便槽式：藤寮と梅寮の各東端で検出した。前者は南北方向に並ぶ2個室ごと6区画の外側に、各モルタル塗り便槽が設けられていた集合方式からの過渡的形態である。後者はモルタル塗りの正方形完全個別8便槽が、中央の空間を挟んで南北方向に2列並ぶ。これらの便所に接して洗面所と推定される空間が北側に突出する。

明治40年代初め頃に最初の菖蒲寮が建てられた時、便所は恐らく埋甕を使った独立した建物だった。大正9年建設の隔離室北棟以降、便所は寮建物に付随することになった。これらの便所の形態変遷は、排泄物販売の効率化と関係した可能性がある。

過渡的個別便槽（藤寮）

完全個別便槽（梅寮）

E 居室のあり方

建物の大半を占める寮は女工たちの居住の場で、その中心は集団生活を行なった居室である。その広さを畳枚数の近似値を探ると次のようになる。

教室（大正9年）：南北6.4m×東西4.6m（9.0坪、18畳）東西に押入れ部分（幅0.9m）

萩・竹寮（大正14年頃）：南北5.6m×東西4.7m（8.0坪、16畳）東西に押入れ部分（幅0.9m）南側にテラス状部分（幅1.8m）

藤寮（昭和10年?）：南北5.6m×東西4.4m（7.5坪、15畳）東西に押入れ部分（幅0.9m）

梅寮（昭和12年頃）：南北約5.4m

菊寮（昭和12年頃）：南北5.6m×東西4.4m（7.5坪、15畳）東西に押入れ部分（幅0.9mと0.45m）南にテラス状部分（幅1.0m）

撫子寮（昭和40年）：南北5.8mか（記録では10室）南側にテラス状部分（幅0.9m）か

葦寮（昭和40年）：改築後の特定が難しい

萩寮居室（廊下側から）

菊寮居室押入れ（廊下側から）

レンガ柱基礎での柱設置位置のずれを考えれば、不鮮明な藁・撫子寮と梅寮も含めて、当初蚕室だった教室を除き全居室は基準広さ 15 畳（藁・撫子の改築時広さ）の可能性が高い。これは、明治 40（1907）年頃の女工募集要項『女工員の募りに応せらる人のしほり』（『鐘紡新町工場 90 年史』）にも「二階建てで室々は皆同じ 15 畳敷であって錠前附の押入を備へ」と明記されている。その両側に奥行き半間の押入れがあり、南側は藁・撫子寮以外幅1間程度のテラス状部分があった。また北側に幅1間の廊下があることも共通する。藁・撫子寮は、改築後に北側に廊下が移った可能性が考えられる。なお性格の異なる隔離室北棟（大正 9 年）の1部屋は、南北 3.8m × 東西 2.6m（3 坪、6 畳）という狭い空間だった。

藤寮居室（テラス側から）

隔離室北棟居室群

第2節　遺物の特徴

A 寄宿舎使用遺物とその他

検出遺構の大部分は撹乱層中に残った建物基礎等のため、廃棄場遺物を除き付記遺構名は出土位置を示すだけで遺構との直接関係は限られている。そのため検出遺構のほとんど全ては寄宿舎建物群の痕跡であるものの、出土遺物は必ずしも寄宿舎群で使用されたものであるとは断定できない。

調査範囲内で建てられた最古建物は撫子寮（明治 40 年代頃～大正 2 年建設）で、それより古い遺物は寄宿舎生活とは無関係になる。それらは官営屑糸紡績所創業（明治 10 年）以降の工場関連遺物（ア）と中山道新町宿関連の近世遺物（イ）に大別できる。撫子寮建設以降の遺物も、建物が昭和 12 年頃まで増築され続けた経緯を考えると同時代工場内の寄宿舎以外で使用された遺物（ウ）も当然含まれている。つまり寄宿舎での生活に関連した遺物以外に、3 種類の遺物が混在している。

（ア）撫子寮以前の工場遺物：SU2 の木紙栓牛乳瓶（GL162）が該当する。主に SU5・6 と菖蒲寮北外側で出土した型紙刷染付磁器の多くも含まれるが、旧撫子寮建設時にも流通していたため全てではない。「越」字が見込に手描染付された飯碗（CR074）と茶碗（CR013）は、三越時代（明治 20 ～ 35 年）の食器の可能性がある。ガラス瓶の一部も含まれると思われる。

（イ）近世遺物：近世陶磁は比較的多く発見されたが、明確な遺構は確認されない。ただ中山道新町宿の西端から僅か百 m の距離のため、出土自体は理解しやすい。巴文桟瓦瓦当は現存する屑糸紡績所創業時建物に見られ、明治 8 年建設の富岡市蚕塚製糸場跡でも検出されているが、相当する初期建物跡は調査範囲で確認していないので近世遺物の流入として理解する。

（ウ）同時代の工場遺物：典型的なものは製糸器具関係で、それ以外は用途不明金属製品の多くと医局関係のガラス瓶が該当する。昭和 34 年に大食堂が旧製糸部工場跡に建てられ、寄宿舎用地で食事を取ることが原則的には無くなった。工場遺物とすべき、それ以後の食器の出土はない。

以上の 3 種類を除いたものが寄宿舎の生活遺物となるが、当然のように量的に多い陶磁器とガラス瓶を見るとほとんどが大正から昭和 20 年代までのものとなり女工数が多かった時期と重なる。

B 廃棄場遺物

7ヶ所の遺物廃棄場（SU1-6・SX4）に廃棄された遺物の出所と廃棄年代を推定すると、次のようになる。

SU4（藤寮便所より旧）：寄宿舎内食堂から昭和 10 年頃に廃棄

SU3（隔離室境界塀より新）：寄宿舎内食堂と製糸部工場から昭和 12・13 年から 16 年頃までに廃棄

SU1（排水路 3 より新）：寄宿舎以外から昭和 16 年から 21 年頃までに廃棄

SX4（重複なし）：寄宿舎から第二次大戦後（昭和 20 年代）に廃棄

SU2・5・6（董寮改築以前）：寄宿舎及び工場内施設からが混じり昭和 40 年以前に廃棄

寄宿舎内からの廃棄物は、最も古い菖蒲・撫子寮関係が SU2 にある程度見られる。SU5・6 も含めて製糸部工場関係（大正 10 年操業開始）遺物も含むが、それらは昭和 40 年の董寮改築時に混入したと考えられる。SU5 で大量出土のコバルト色円筒形短頸瓶は、旧董寮西側階下の部屋が「若草クラブ」として使われた頃に貯蔵されていて改築時に古い遺物と混じったと思われる。寄宿舎内の食堂は大正 8 年頃に菖蒲寮の南西から南に移転後移築されていないが、何らかの事情でのそこからの食器大量廃棄が SU3・4 である。大多数は雪の下文など瀬戸美濃産銅版転写型成形碗と皿だった。一括廃棄で最も新しい SX4 は、女工数減少に伴う可能性がある。工場内施設は、西側隣接地にあった社宅群を壊しての隔離室や製糸部工場建設、また同工場での頻繁な製糸機械改変に伴うと考えられる。顕著な例の SU1 には、推定寄宿舎関係遺物はほとんど含まれていない。食堂で使用された食器は美濃窯業（岐阜県瑞浪市）製の飯碗が第二次大戦前後の統制時代まで続いたと思われるが、大量出土はなかった。なお美濃窯業製品は飯塚西金井西Ⅱ遺跡の碓氷社本社直営工場跡（操業期間 1931-42 年）でも出土し、当時の普遍的工場用食器だったようだ。

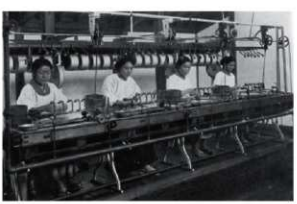
C 製糸器具

大正 10 年から昭和 31 年まで、西側隣接地に製糸部工場が操業していた。特に昭和 10 年代前半まで木製座繰機から増沢式多条機まで繰糸機の交換が頻繁に行われたため、寄宿舎の生活とは無関係な製糸器具遺物が次のように比較的多く発見された（東町Ⅴや飯塚西金井Ⅱ出土例と同種）。

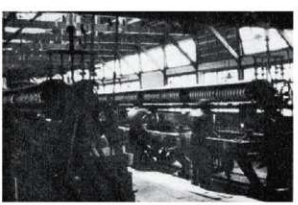
繰糸機関係（集緒器・目皿・フリカギ）、煮繭機関係（煮繭鍋）、揚げ返し機関係（切断計数器）

他に金属製品中にも含まれている可能性があるが、数が最も多いのはほとんどが瀬戸美濃産白磁の集緒器で合計 20 点を確認した。また信楽製煮繭鍋は兼業式を含む 4 個体を検出し、遺物廃棄場 SU1 で出土した例（FL12）はほぼ完存で木製制御棒まで残っていた。SU1 への廃棄時期は上記のように第二次大戦中と考えられるため、この分業式煮繭鍋はその頃まで使用されていた可能性が高い。他に大量出土の円筒形短頸瓶は、後述のように繰糸作業での皮膚病治療用の木酢液容器になり製糸遺物にも該当する。

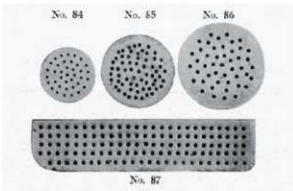
今回の調査地は製糸工場跡自体ではなく、隣接した寄宿舎用地だった。しかし製糸関係遺物がこのように出土したことは、今後の製糸業の物的要素を考える上で、少なくとも製糸器物の広域的流通検討の必要性を明確に示している。



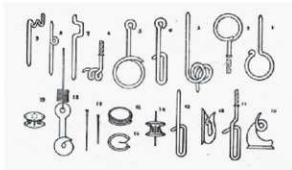
木製 5 条兼業式繰糸機（『満留安昭和 8 年型録』）



昭和 9 年設置増沢式多条繰糸機（『鐘紡新町工場 90 年史』）

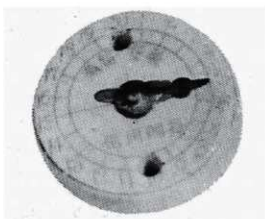


繰糸鍋目皿（満留安昭和８年型録）



繰糸機フリカギ・集緒器など小物部品（同前）

分業式煮繭鍋（同前）



揚げ返し切断計数器（同前）

また製糸部の活動と寄宿舎の増築を見ると、新町工場製糸部は昭和７年には全国の繰紡工場中で最大規模となり、昭和14年に当時最新鋭の増沢式多条繰糸機 360 台を備え、片倉富岡製糸場に次ぐ全国２位の量となった。この間に寄宿舎は８棟増築されて、最終的な姿を完成させた。紡績部の女工増加が 400 人ほどに対して製糸部はゼロから 600 人以上増えたので、新設寮の多くは製糸部女工のためだった『四季の糸』によれば、第二次大戦前後は松・竹・梅寮が製糸部女工用）と言える。

D ガラス瓶類

遺跡内全体から大量のガラス瓶が出土したが、種類は次のように区分できる。

アルコール瓶 12 点（SU1 で 4 点）：ビール瓶 3、ワインボトル 5、一升瓶 1、撫で肩瓶 3

飲料瓶 20 点（SU3 で 4 点）：牛乳瓶及び機械栓 10、サイダー瓶 2、円筒形瓶 3、撫で肩瓶 5

薬品瓶 89 点（SX4 で各種 23 点：SU5 で円筒形短頸瓶 5 種 48 点）：エンボス病院名 2、薬品名 17、目盛り線のエンボス 11、ロゴ製薬会社 12

化粧品瓶 151 点（SX4 で各種 36 点：SU3 で各種 14 点）：エンボス会社名 44、商品名 14

食器 10 点：鞆青・鞆緑色切子状合子 4

文具 16 点（SX4 で各種 6 点）：インク瓶 14、エンボス商品会社名 5

家具１点（GL291 掛鏡）玩具１点（GL185 コマ）不明１点（GL137 広口十四角形瓶）

アルコール瓶では赤玉ポートワイン（GL236）は明治 40（1907）年に壽屋洋酒店（現サントリーインターナショナル）の鳥居洋治郎氏が発売したもので、現在でも販売されている。本品は大正 10 年以降のものであろう。GL125 はキリンビールで、キリンビール登録KB 商標のエンボスが入っている。昭和20年から30 年代のものであろう。GL173は大日本麦酒製のもので、大日本麦酒は明治 39（1906）年に大阪麦酒（アサヒビール）・日本麦酒（恵比寿ビールを製造していた）・札幌麦酒（サッポロビール）が合併した会社で、昭和初期から昭和 10 年代のものであろう。

飲料瓶では牛乳瓶（GL001・022・098・135・143・162・174B・259）がある。GL001は全乳一合入東京第一ミルクブラント和田牛乳店とエンボスが入っている。和田牛乳店は明治創業の牛乳店で、大正15年にアメリカから低温殺菌機を輸入し、東京市乳業界の中核をなしたが、昭和8年に明治乳業に吸収された。GL022は明治乳業の牛乳瓶で広島硝子工業製で、昭和61年から平成5年頃のものである。GL098とGL135はそれぞれ開口部から、昭和30年代と昭和20年代のものである。GL143は高温殺菌全乳一．八分とエンボスが入っている。GL162は特別上等全乳　搾取所愛光舎販賣所門奈とエンボスが入っている。これは埼玉県大宮にあった門奈商店で販売されたもので、大正時代に使用されたものであろう。GL040は明治スカットと印刷されており、昭和40年代のものである。GL049は日本麦酒鉱泉株式会社登録商標6とエンボスが入っているサイダー瓶で、日本麦酒鉱泉株式会社は三ツ矢サイダーの前身の企業である。GL071はペプシコーラの瓶で、昭和45年から昭和55年頃のものである。GL063は大正製薬の栄養ドリンクで、TAISHO PHARM, CO150Hのエンボスが入っている。GL095は栄養ドリンク剤の瓶とおもわれる。

薬品瓶は多数出土しており、GL002は白元の蛍光染料である。GL003は神薬資生堂製 SHISEIDO TOKIO DISPENSARYのエンボスが入っている。GL008はコバルト色のガラス栓がついたもので、中に液体が残存している。底部に★のエンボスが入っている。GL014・171は神薬資生堂製 TOKYO SHISEIDO DISPENSARYのエンボスが入っている。GL033はロート製薬製のメンソレータム瓶で、METUM HANKYU KYOYEIのエンボスが入っている。GL060・111は星製薬の薬品瓶で、★Hのエンボスが入っている。GL078は保壽堂製の神薬瓶で保壽新薬保壽堂製Mのエンボスが入っている。GL083は皮膚メンスワー保健薬のエンボスが入っている。GL088・089・090・210・238・245・281は目盛りがエンボスされた薬瓶で、GL089には鐘紡新町工場医局のエンボスが入っている。GL281には植原医院のエンボスが入っている。GL121・176は神薬のエンボスが入っている。GL131は養命酒のエンボスが入っている。GL029・035・093・105・149・186・214・215・238・245はアンプルの瓶である。GL149・214・238・245は目盛りがエンボスされ、GL215は市川のエンボスが入っている。GL246は良薬□□□苦し▽三式錠のエンボスが入っている。GL247はWAKAMOTOのエンボスが入る整腸剤の瓶である。GL132はロート製薬の目薬で、EYE LOTION ROHTOのエンボスが入っている。

化粧品瓶も多量に出土しており、寄宿舎内での女工の生活が伺える。GL007・230・231・241はTSUKIBIJIN月美人のエンボスが入っている。GL018・020・102・148・221は平尾賛平商店の化粧品で、CREME LAITのエンボスが入っている栓。GL020はSAMPEI.HIRAO"LAIT"TOILET WATERのエンボスが入っている。GL102はレートフードLAIT FOODのエンボスが入っている。GL148・221は平尾分店のエンボスが入っている。GL047・048・172・250はヘチマコロン瓶で、GL009は美顔水、GL047・048・250は天野源七商店のヘチマコロンのエンボスが入っている。GL024・101は現マンダムになっている金鶴香水と丹頂クリームの瓶で、GL024はKINTSURU OSG、GL101はTANCHO VANISHING CREAMのエンボスが入っている。GL027・232は安藤井筒堂の香水瓶であろう。IZUTSUとANDOのエンボスが入っている。GL045・118は、みや古染のエンボスが入った髪染め瓶である。GL086はポマード瓶で、○の中に高、純植物性ポマードのエンボスが入っている。GL107は堀越嘉太郎商店のホーカー液堀越60とエンボスが入っている。GL161は櫻香本舗守田謹製のエンボスが入った香水瓶。GL180は桃の花クリームで、安藤井筒堂東京PEACH FLOWERもゞの花のエンボスが入っている。GL183・273ウテナクリーム瓶でウテナのエンボスが入っている。GL240はジュジュ洗顔クリームで、Jujuのエンボスが入っている。

茨城県石岡市国分遺跡出土の「みや古染」瓶（玉里村立史料館2001）

化粧品瓶（同前）

文具類はイング瓶とペン先や糊瓶が出土している。GL013・039・059・080・092・110・189・213・252・253・268・289・290 がインク瓶である。GL013 は TRADE MARK METORO、GL039 はクリヤー・インキ、GL092 は M、GL110 は PILOT MADE IN JAPAN、GL253 は東京大國文具、GL290 は RIGHT INK 2OZ MADE IN JAPAN のエンボスが入っている。GL115 は糊瓶で、ヤマト糊のエンボスが入っている。GL292 はペン先である。

GL012 は金平糖の入っていたガラス瓶である。

（以上の中で GL014・096・102・107 は高崎市東町Ⅴ遺跡で、GL118・GL223 は神栄製糸石岡工場跡の茨城県石岡市国分遺跡で類似した同種のものが出土している。）

	円筒形瓶	円筒形短頸瓶	長頸瓶	徳利瓶	多角形瓶	広口瓶	筒状瓶	扁平瓶	卵型瓶	その他	栓	小計
化粧品	22	0	9	0	15	41	0	33	18	2	11	151
薬品	30	18	9	0	3	4	3	14	0	3	5	89
飲料	3	0	0	27	0	0	0	0	0	0	2	32
文具	7	0	0	0	5	1	0	2	0	1	0	16
食器	0	0	0	0	0	1	0	0	0	9	0	10
その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	4
小計	62	18	18	27	23	48	3	49	18	18	18	302

表 1　報告ガラス瓶類の種類と形態

E　近現代陶磁器類

今回報告した陶磁器類の中で近現代のものは、233 点となった（他に中世土器 1・近世陶磁 28・桟瓦 10・土管 3）。これらを器種と技法別に分類すると、次表のようになる（多数出土したものは 1 点しか報告していないため、出土量とは一致しない）。

	皿	小皿	洋皿	鉢	平碗	丼	飯碗	茶碗	湯呑類	蓋	蓋物	急須類	鍋卸皿	便器	他	小計
手描	6	3	2	0	0	1	8	4	1	2	0	3	0	0	1	31
型紙刷	5	8	0	0	0	0	12	1	1	0	3	0	0	0	0	30
銅版転写	11	4	0	1	0	4	27	10	2	1	3	0	0	1	0	64
吹絵	0	0	0	0	0	0	5	2	0	1	0	0	0	0	0	8
ゴム印	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	2	0	0	0	0	6
プリント	2	0	2	1	0	2	5	2	4	0	0	0	0	0	1	19
緑胎	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3
統制番号	3	1	0	1	0	1	0	2	2	0	0	0	0	0	6	16
戦後プリント	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	4
青磁白磁他	1	0	1	3	0	0	0	1	1	1	1	0	0	6	4	19
陶器	0	0	0	2	5	0	0	2	5	1	0	6	4	0	5	30
土器等	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	3
小計	28	16	5	9	5	9	60	24	20	6	9	9	4	8	21	233

表 2　器種・技法別の報告近現代陶磁器類（点数）

この分類で興味深いのは、いくつかの器種のものが特定の技法に集中する傾向にあることである。最大量を占める飯碗では銅版転写と型紙刷製品が 3 分の 2 近くで、茶碗も銅版転写が 4 割以上になっている。洋皿を含めた皿類も、型紙刷と銅版転写が大きな割合である。一方、何らかの副菜容器と推定される平碗（蓋付）は、全てが産地不明の軟質の陶器だった。他に湯呑・急須類そして鍋・卸皿が、陶器中心である。

そのため湯呑を除く基本食器の碗皿は各時期の主要な技法で生産された磁器が使われたが、その他の急須類や調理具などの器種は陶器が占める割合が高かったことになる。1900 年代頃までの型紙刷製品の時期には、調査地に寮はまだ存在せず社員社宅群があった。また 1930 年代からの吹絵などの技法による基本食器が比較的少ないことは、食堂での食器の改変に伴う可能性が高い。実際に銅版転写の同一種類が大量廃棄されていた SU3・4 以外で吹絵以降のものが同種多数確認されなかった事実は、それらが最終的に食堂で使われ続けていたことを想定させる。

第3節　女工寄宿舎の生活

若草寮寄宿舎用地での生活は、調査対象外の明治 39(1906)年頃建設の菖蒲寮に始まった。そして鐘紡が昭和 50(1975)年に新町工場での紡績業を停止した数年後に、最後に残っていた藤岡高校定時制に通う女工たちがいなくなった。寄宿舎群は、この約 70 年間の女工たちの生活の場であった。そのあり方を調査成果からまとめてみたい。

A 部屋の広さと建物の特徴

共同生活空間と居住密度

明治末から昭和 12 年頃まで（昭和 40 年改築含む）各時期建築の寄宿舎建物規模や部屋数・便所形態は異なるが、女工が生活した居室は 15 畳の広さである。しかし昭和 15 ～ 23 年に製糸部で働いていた三木良の回想録『四季の糸』によれば、多くは筆笥 4 棹と火鉢（p.96 写真では炬燵）があるため実際の生活空間は 12.5 畳の広さだった。

基本的に南側に暖房要素でもあるテラス状空間、そして片側に奥行き半間の押し入れと床間を伴っていた。この共通する居室の住環境を考えるため、居住密度を検討してみよう。

		製糸部	紡績部	女工合計	寄宿女工	部屋数	総畳数	室人数	密度
1911	明治 44	0	228	228	158	14	175	11	1.1
1917	**大正 6**	**0**	**477**	**477**	334	**25**	**313**	**13**	**0.9**
1923	大正 12	230	687	917	460	40	500	12	1.1
1925	**大正 14**	**484**	751	1,235	853	**98**	**1,225**	**9**	**1.4**
1931	昭和 6	484	777	1,261	1,009	98	1,225	10	1.2
1937	**昭和 12**	605	**777**	**1,382**	1,106	**120**	**1,505**	**9**	**1.4**
1956	昭和 31	45	777	822	658	85	1,068	8	1.6
1959	**昭和 34**	**0**	**790**	**790**	632	**85**	**1,068**	**7**	**1.7**
1965	昭和 40	0	790	790	632	96	1,201	7	1.9

表 3　鐘紡新町工場の推定女工数と居室密度（人数太字は確実度が高い数値）

この地域の最初の寄宿舎菖蒲寮建以後の寄宿女工数推定可能な年の実質居住面積は、『鐘紡新町工場 90 年史』とクラシエフーズ保存図面に『四季の糸』の記録での居住人数を考慮すると上記表 3（1部屋 12.5 畳で計算、寄宿女工割合は明治 44 年のみ実数、密度は 12.5 畳を室人数で割った数値）となる。資料に誤記が多く寄宿舎に実際に住んだ女工数推定は難しいが、寄宿女工1人当たり畳数（密度）が大正 12（1923）年の製糸部工場操業開始までのかなり狭い環境から、大正 14（1925）年以降の寄宿舎増設で徐々に改善された傾向がみられる。そして製糸部が操業停止した昭和 31（1956）年からは、1人当たりの空間が広がったことになる。ただし最終建設の菊・梅寮も 20 年近く経ち全体に老朽化が進み、実際の居住可能畳数は表 3 数値より少なかっただろう。

昭和 40（1965）年、居住されていた最も古い菫・撫子寮が取り壊されて改築された。この頃働いていた新鐘会の元女工さんの証言では、1 部屋最大で 7 人ほどとのことだった。それは上記表の推定と合う。だが新しい菫・撫子寮の平形コンクリート基礎は、昭和 12（1937）年頃の藤・菊寮の台形コンクリート基礎に比べ脆弱に感じられる。桟瓦からスレートへなど建材の軽量化もあるが、居住密度減少と無関係ではないだろう。さらに彼女たちの体格の変化も考慮するなら、居住人数減は大きな要素と考えられる。なお調査対象地ではない桜寮も、紡績業廃止直前の昭和 46-47（1971-72）年に全面改築された。建物老朽化の激しさは、事業の見通しとは無関係だったことになる。

廊下の役割

各寄宿舎は、テラス状部分を南側そして押入れを両側に備えた居室が東西方向に並び、それらを繋ぐ幅 1.8m の長い廊下がそれぞれの北側を貫いていた（改築前の菫・撫子寮のみ南側）。そして竹寮の西端から菖蒲寮の南側まで 50m 以上直線で南北に伸びる大廊下（幅 2.7m）など、南北廊下と繋がっていた。寄宿舎用地入り口に近いその南端からは、最終的に大食堂の北側に沿って製糸部や紡績部の工場まで東西走向の廊下で結ばれた。

昭和初期製糸工場寄宿舎の大廊下例（『満蚕安昭和８年型録』）

片倉製糸熊谷工場女工寄宿舎の廊下
（昭和 40 年代、片倉シルク記念館）

結果的には居室という「私的」空間から、天候に関わらず直接工場という「公的」空間へ移動できたのである。『四季の糸』によれば、製糸部より勤務時間が短い紡績部の女工が、そこを分担して拭いていた。その結果、昭和 40 年代に勤務の元女工さんたち（新鐘会会員）は、「黒光りしていた」と大廊下のことを語った。昭和 32 年に改正された３交替の勤務時間でさえ午前５時から午後 10 時まで、数多くの女工たちがこの大廊下を行き来していたのである。

休日の敷地外への外出や、昭和 34 年開始の県立藤岡高校定時制への集団通学など他への移動はあった。だが居室出入り口は各寮の廊下のみのため、洗面等も含め廊下の往来が必要になる。そのため学校建物と同じように、共有空間としての廊下の役割はかなり重要だったと言える。

B 遺物から見た女工の生活

出土遺物、特に陶磁器の多くは、女工の個人所有物ではない。だが最も直接的に 1,000 人近く（昭和 12 年前後）住んでいた女工たちを示す遺物が、名前線刻櫛と化粧品瓶類である。

名前線刻櫛

63 点の調髪具は、櫛 38 点・各種髪留め 24 点・手鏡１点に分かれる。櫛では８割強の 31 点に針状の道具でなされた何らかの線刻が確認でき、うち 29 点は所有者名かその一部と考えられる情報が判読できた（p.66-68 図・p.120-122 写真）。それらは書き方から、次のように区分できる。

姓＋名：10、番号＋（姓）＋（名）：4、地名＋姓＋名：4、寮名＋部屋名＋（姓）＋（名）：2、
所属部所＋姓＋名 2、姓：4、名：3、判読不能：2

姓名を記すのが基本で、さらに番号・地名（出身地）・寮名・所属部所のような情報も入れたものが多く見られる。美原村（HT10）・高山村（HT15、表紙）は近隣の現藤岡市になり、それぞれ 1954 年まで存続した。番号は部屋番号と思われ、またセイレン（HT18・36）とは紡績の最初工程の精錬だろう。姓のみなどの短いものも、本来長い表記の断片の可能性がある。また刻みが容易のためかカタカナが多く、さらに姓名全てをカタカナにしたものも３点ある。

大正5年頃には浴場に近い菖蒲寮の1室が結髪室とされ、大正9年に浴場へ附設で同名の空間が確保されていた。このような櫛への所有者情報の線刻から、女工たちにとって結髪がかなり重要なプライベート行為だったと考えられる。なおより線刻が容易に思われる大型の髪留め6点には、全く線刻は確認できなかった。透彫等の装飾があるため、所有者の識別が簡単だったためかもしれない。また線刻のある櫛は鐘紡新町工場と直接関係のない小口組の高崎製糸工場跡である東町V遺跡でも出土しているので、女工たちの普遍的な行為だった可能性が想定できる。

化粧品瓶・薬品瓶など

ガラス瓶の半分を占める化粧品瓶と飲料瓶・インク瓶のほとんどは女工たちが使ったものと考えられる。報告した化粧品瓶は、エンボスより次のように区分できる。

整髪料（ポマード・染粉・香油）：7点、洗顔クリーム：10点、洗顔水（コロン等）：10点

大部分の瓶はエンボスがないため、同種の内容はさらに多かったことは間違いない。遺物廃棄場SU2・3・5から出土した香水瓶の可能性の大きいものは女工生活とは無関係だったと推定されるが、同型瓶が複数出土（報告は1点のみ）している化粧品関係瓶の多さは彼女たちの生活を彷彿とさせる。なお判明している化粧品製品の販売時期は大正4年から戦後直後ほどで、寄宿舎の存続時期と大きな差はない。

SU5大量出土の円筒形短頸瓶は、残存液体分析結果（p.97）より木酢液容器と考えられる。『四季の糸』も記すように木酢液は皮膚病治療に使われ、大正5年頃から温湯中での指作業の繰糸労働で皮膚疾患が訴えられていた。出土量の多さから、製糸部で働く女工に要治療者が少なくなかったことになる。SU5出土薬品瓶全体から、戦後に「若草クラブ」になった菖寮階下は、それ以前に1室が木酢液瓶など医薬品の保管用に使われていたことになる。

飲料瓶は牛乳が最も多く、それにサイダーそしてコーラまでがあった。年代的には昭和初期から1990年代初めまでで、多くは女工が使ったものである。最新のもの（GL022）は食品工場へ転じた後も、寮建物が使われていた可能性を示している。またインク瓶の量も少なくない。そのうちのSX4出土の5点と他の遺物廃棄場以外出土の6点は、寄宿舎内で女工たちが使った可能性も十分にあるだろう。

C 隔離室

隔離室という建物名は、『鐘紡新町工場90年史』には全く登場しない。菊寮建設で壊されて以降、完全に忘れられた存在だった。しかし今回確認した大正9年建設の3棟以前にも、最も古い菖蒲寮の南側に規模の小さい同名建物がそれ以前の建物配置図に記されている。

構成と機能

今回確認の隔離室はそれまでと異なって建物3棟で構成されただけでなく、北側の温井川端まで広い長方形用地がレンガ塀で囲まれた。その結果、大正14年頃に萩・竹・松寮が東側に建設された時点でも、それらの寮の生活とは文字通り隔絶された空間となった。

3棟の中で僅かな部分しか残っていなかった東棟の役割は明確ではないが、唯一地下深い位置に基礎を持つレンガ壁建物であるため何らかの倉庫的な機能が想定できる。一方、六畳間が3室ずつ中央廊下を挟んで東西に並ぶ北棟は、「隔離された」女工の病室であることは間違いない。中央廊下と接続する南北に長い西棟は南端に入り口状突出部を持ち、中央東側のやや広い空間と西側の細長い空間がそれぞれ診察室と厨房的補助室ではないかと推定される。

収容能力と役割

北棟の収容能力は、1人一畳とした場合の最大数で36人となる。大正9年の女工数は約630人だが、製糸部工場操業開始の翌年には約820人になった。この女工数の増加の前提で建てられた可能性が高く、収容能力は総数の4%強となる。当時の一般的状況から結核罹患者の隔離が想定できるが、この予想最大罹患者数の多寡は判断しにくい。ただ北棟から大正ロマン的な雰囲気を見せる大型装飾髪留め（HT40、表紙）が出土したことは、興味深い。

D 小結

以上の調査成果から、大正以降に鐘紡新町工場寄宿舎で生活をしていた女工たちは、一般的なイメージの『女工哀史』的な姿とは異なっていたと思われる。居住密度は継続的な増築にも関わらず決して十分ではなかったが、要隔離女工の存在や製糸部工場の繰糸労働での皮膚病（『四季の糸』74・75 頁、シャール 2020 の 218-220 頁）などの職業病罹患者が相当数いた可能性を告げたのは、それらへの対処の痕跡だった。

経営者が大企業鐘紡のためかは判断できないものの、そのような状況から物質的環境が全て極端に劣悪だったとは考えにくい。そして大量の化粧品使用や櫛への名前の線刻に示されるように、昼夜を問わず会社環境の共同生活の中にあっても彼女たちが多少なりとも自らを主張しようとしていた事実を知ることができたのは大きな成果だった。似た遺物が高崎市東町Ⅴ遺跡や茨城県石岡市国分遺跡でもあることは、企業を超えた女工生活の普遍性かもしれない。

昭和 40 年改築の堇・撫子寮（『鐘紡新町工場 90 年史』）

ある女工寄宿舎（撫子寮か、同前）

女工食堂（昭和 30 年代か、『鐘紡新町工場 90 年史』）

寄宿舎内学校（同前）

ある寮の 2 階外側（『鐘紡新町工場に詩りあり』）

ある寄宿舎居室での女工たち（同前）

付章　新町戸崎遺跡 2 出土ガラス瓶内液体の成分分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1　はじめに

高崎市新町に所在する新町戸崎遺跡 2 より出土したガラス瓶内の液体について蛍光 X 線分析を行い、その成分を検討した。

2　試料と方法

分析対象は、女工寄宿舎萩寮の南東部分で出土したガラス瓶（GL008）内に残存していた液体である（図版 1-1）。ガラス瓶は、濃いコバルトブルーの大型円筒形短頸瓶（高さ 20.8cm、底径 6.8cm）で、底部に五稜星のエンボス加工がされている。また、これと同形同色のガラス瓶約 50 本が、30m 西の遺物廃棄場 SU5 で出土している。時期は、大正 10 年から昭和 40 年までの間とみられている。

分析対象の液体の入ったガラス瓶は、摺合せのガラス栓がされ、容量の 20% 強ほどの液体が残存していた。なお、寄宿舎のはずれには医局もあり、「医局」と書かれた瓶や、目盛入りの薬瓶なども出土している。そのため今回分析対象となった液体も同型の瓶が多量に出土している状況などから、医局で多く消費されたであろう医療用消毒薬のヨードチンキである蓋然性が高いとみられたため、蛍光 X 線分析を実施して検討した。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV、1000 μ A のロジウム（Rh）ターゲット、X 線照射径が 8mm または 1mm、X 線検出器は SDD 検出器である。また複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することで S/N 比の改善が図れる。なお、検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）であり、有機物の主成分である炭素（C）や酸素（O）などの軽元素は検出できない。

ガラス瓶より液体を全量取り出し、その一部をマイラーフィルムを張った試料容器に入れ、大気環境下で測定を行った。測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが 15kV（一次フィルタ無し・Cl 測定用）・50kV（一次フィルタ Pb 測定用・Cd 測定用）の 4 条件で、測定時間は各条件 100s、管電流自動設定、照射径 8mm に設定した。

3　結果

図版 1-2 に、ガラス瓶より取り出した液体全量を示す。約 180ml の褐色の液体で、時間を置くと淡褐色の上澄みと濃褐色の沈殿物に分離した。図版 1-3 に、上澄みと沈殿物、比較試料として用意した希ヨードチンキ（健栄製薬株式会社製）を示す。

上澄みと沈殿物、希ヨードチンキの蛍光 X 線分析により得られた蛍光 X 線スペクトルを図 1 に示す。なお、アルゴン（Ar）は大気由来の元素である。

上澄みからは、リン（P）、塩素（Cl）、アルゴン（Ar）、カルシウム（Ca）、鉄（Fe）のピークが検出された（図 1-1）。沈殿物からは、リン（P）、アルゴン（Ar）、カルシウム（Ca）、鉄（Fe）、臭素（Br）、スズ（Sn）、鉛（Pb）のピークが検出された（図 1-2）。比較試料の希ヨードチンキからは、リン（P）、アルゴン（Ar）、カリウム（K）、臭素（Br）、ヨウ素（I）のピークが検出された（図 1-3）。特にヨウ素（I）のピークは極めて明瞭であった。

4　考察

蛍光 X 線分析の結果、上澄み、沈殿物ともにヨウ素（I）は検出されなかった。念のため、水で溶いた片栗粉に各試料をスポイトで滴下してみたところ、希ヨードチンキ試料は青紫色に染まり、ヨウ素デンプン反応が確認されたのに対し、ガラス瓶から取り出した液体は、上澄み、沈殿物ともに色の変化はなかった（図版 1-4）。以上の結果より、ガラス瓶内の液体は、予想とは異なり、ヨードチンキである可能性が極めて低い。

上澄みは、青色のシリカゲルを浸漬したところ、試料が淡褐色のためわかりにくかったが、青色が失われて色が変

化した。シリカゲル中の塩化コバルトの反応より、上澄みは水を含むと判断でき、おそらくは水を主とした液体と推定される。なお、上澄みの水素イオン濃度（pH）をpH試験紙で測定したところ、約2～3を示した（図版1-5）。

一方、沈殿物は水に溶けづらい粘度の高い液体で、エタノールには容易に溶けた。また恒温乾燥機で105℃で一晩乾燥させたところ、濃褐色の残渣が得られた（図版1-6）。この残渣は、常温では硬化しているが、105℃下では軟化した。以上、濃色の液体で水より比重が重くて溶けにくく、有機溶剤に可溶で乾燥させた残渣は高温で軟化し、蛍光X線分析では特徴的な元素は検出されないといった特徴より、タールやピッチの類などが推定される。

以上のような上澄みと沈殿物を持つ物質として、木酢液が考えられる。木酢液は、狭義には製炭など木材の乾留で得られる液体生成物の上澄み（粗木酢液）をさらに蒸留精製したものであるが、ここでは広義に上澄み（粗木酢液）と沈殿物（木タール）の分離前の、木材の乾留で得られる液体生成物も含む。木酢液は、多いと約200種類もの化合物を含み、有機化合物の主成分は酢酸でpHは2～3程度を示す（炭やきの会編, 1991）。市販の木酢液（中川屋製中川屋の木酢）の、外観と105℃乾燥後の残渣を図版1-7、1-8に示す。入手した市販の木酢液と比較すると、今回の試料は赤みが弱く燻臭よりも腐敗臭が強いなど異なる点もあるが、これは原材料や抽出条件や経年変化による違いと考えられ、pHや残渣の特徴はよく似ていた。木酢液は、過去には医療用、食品添加用、工業原料、脱臭剤、農薬原料など、様々な用途で利用されてきた。今回の新町戸崎遺跡2においては、皮膚への負担も大きかったであろう製糸工場の女工たちの皮膚治療薬として、木酢液が医局で多く使用されていた可能性が考えられる。

5　おわりに

新町戸崎遺跡2より出土したガラス瓶内の液体について、成分を分析した結果、予想されていたヨードチンキではないと確認された。蛍光X線では特徴的な元素は検出されず、物理的な特徴から木酢液の類である可能性がある。

引用・参考文献

馬淵久夫編 1994『元素の事典』304p、朝倉書店
中井　泉編 2005『蛍光X線分析の実際』242p、朝倉書店
炭やきの会編 1991『環境を守る炭と木酢液』206p、家の光協会

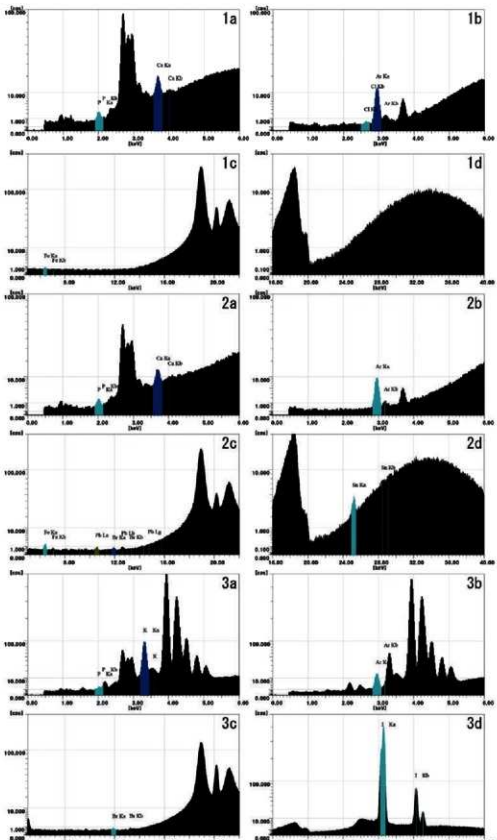


図 1 蛍光 X 線スペクトル（1. 上澄み、2. 沈殿物、3. 希ヨードチンキ）

a.15kV・一次フィルタ無し b.15kV・一次フィルタ Cl 用 c.50kV・一次フィルタ Pb 用 d.50kV・一次フィルタ Cd 用

図版 1 ガラス瓶内液体の成分分析

1 分析対象ガラス瓶内液体　2 取り出した液体　3 各試料の外観　4 水溶き片栗粉に滴下した試料
5 上澄みの pH　6 105℃乾燥後の残渣　7 市販木酢液の外観　8 市販木酢液 105℃乾燥後の残渣

空中撮影写真

萩寨跡（中央手前左）上空からの旧鐘紡新町工場域鳥瞰（2020 年 8 月 27 日）

調査地点北側の旧中山道：右側が旧新町宿（2020 年 8 月 27 日）

調査地点上空より南西の高山社方向遠望（2020 年 9 月 30 日）

南東からの萩寮跡・董撫子寮跡・梅寮跡・仏間跡・教室跡（2020 年 9 月 30 日）

隔離室北棟と菊寮北西端（2020 年 12 月 3 日）

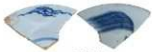
竹寮跡上空から西側の富岡製糸場方向遠望（2021 年 1 月 6 日）

CR001

仏間

CR003

CR002


CR004

CR005

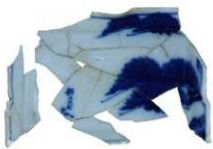
藤寮

CR007

CR008

CR006

CR009



CR011

CR012

CR010

CR016

CR018

CR019

CR013

CR014

CR017

CR021

萩寮

CR015

CR020

排水路 3

CR022

CR023

CR026

CR029

CR028

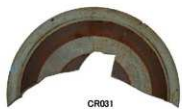
CR032

CR024

CR030

CR025

CR027


CR031

CR033

排水路 4

CR034

CR035

CR036

CR037

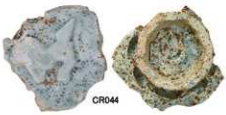
CR038

CR039 CR040 CR041

CR043

CR042

菊寮


CR044

CR045

CR046

CR047

CR049

CR048A CR048B

CR053

CR054

CR056

CR057

隔離室

CR050

CR051

CR052

CR055

CR058

CR059

CR061

CR063

教室

CR060

CR062

CR064

CR065

松寮

CR066

CR069

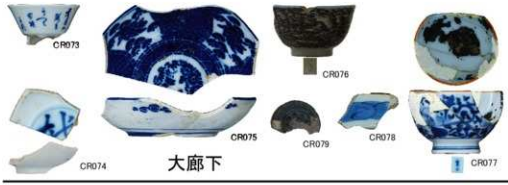
CR067

CR068 CR070

CR071

CR072

撫子寮


CR073
CR076
CR075
CR079
CR078
CR077
CR074
大廊下
CR080

CR081
CR082
CR083
CR084
CR089
CR085
CR087
CR086
CR090
CR093
CR094
CR088
菖蒲寮北外側
CR092
CR091

CR096
CR101
CR095
CR098
CR097
董寮
CR102

竹寮東
CR104
CR099
CR103
CR105
CR100

竹寮西

CR106

CR107A

CR107B

CR108

CR109

CR110

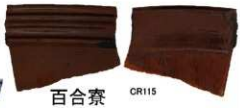
CR111

CR112

CR113

梅寮

CR114


百合寮 CR115

CR116

浴室廊下

CR117

CR118

CR119AB

CR120AB

CR121

CR122

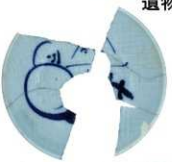
CR123

CR124

遺物廃棄場 SU1

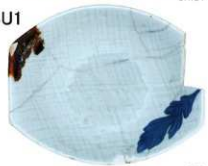
CR125

CR126



CR127

CR128



CR129

CR130

CR131

CR132

CR134

CR133

CR135

CR136

遺物廃棄場 SU1

CR137

CR139

CR140

CR141A

CR141B

CR138

CR144

CR143

CR148

CR146

CR147

CR149

CR142AB

CR145

CR150 S=1/4

遺物廃棄場 SU2

CR151

CR152

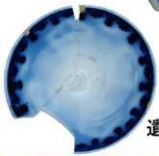
CR154

CR153

CR155

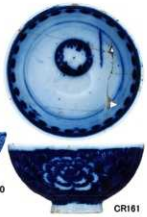
CR157

CR158



遺物廃棄場 SU2

CR160


CR161

CR156

CR159

CR162

CR163

CR165

CR166

CR164

CR167

CR168

CR169

CR170

CR171

CR172

CR173

CR174

CR175

CR176

CR177

CR178

CR179

CR180

CR181

CR182

CR183

CR190

CR186

CR187

CR189

CR191

CR184

CR185

CR188

遺物廃棄場 SU3

CR192
CR193
CR194
CR195
CR196
CR197
CR202
遺物廃棄場 SU4
CR198
CR199
CR200
CR201
CR203
CR204
CR205
CR206

CR207
CR209
CR208
遺物廃棄場 SU5
CR210
CR211
CR212
CR213
CR214
CR218
CR221
CR222
CR223
CR224
CR215
CR219
CR225
CR226
CR216
CR217
CR220
CR227

CR229
CR228
遺物廃棄場 SU5
CR231
CR233
CR232
CR234
CR238
CR239
CR235
CR236
CR237
CR240
遺物廃棄場 SU6
CR242
CR243
CR241
CR244
CR245
CR246
CR248
CR253
CR247
CR249
CR250
CR254
CR251
CR252
遺物廃棄場 SX4

CR255
CR256
CR257
CR258
CR259
遺物廃棄場 SX4
CR260
CR262
CR263
CR264
CR266
CR265
CR267
CR268
CR261
CR269
CR270
CR271

FL01
FL02
FL03
FL04
FL05
FL06
FL07
FL08
FL09
FL16
FL21
FL22
製糸器具
FL10
FL12B
FL11A
FL11B
FL13A
FL13B
FL15
FL17
FL18
FL12A
FL14
FL19
FL20
FL23

GL001
仏間
GL002
GL003
GL004
GL005
GL006
藤寮
GL007
GL008
GL009
GL010
GL011
GL012
GL013
GL014
GL015
GL016
GL017
GL018
GL019
GL020
GL021
GL022
GL023
GL024
GL025
萩寮
S=1/3
GL026
GL027
GL028
GL029
GL030
GL031
GL032
GL033
GL034
GL035
GL036
GL037
GL038
排水路 3
GL039
GL040
GL041
GL042
GL043
GL044
排水路 4

GL045
菊寮
GL046
GL047
GL048
GL060
GL062AB
GL050
GL052
GL051
GL059
GL053
GL057
GL058
GL061
GL049
GL070
GL054
GL055
GL056
GL072
GL071
GL066
GL068
GL069
GL064
GL065
GL067
GL063
隔離室
GL073
GL075
教室
GL074
GL076
松寮
GL077
GL078
GL079
GL080
GL082
GL083
GL092
GL081
GL084
GL087
GL093
GL090
GL091
GL086
GL085
GL088
GL089
撫子寮
S=1/3
GL094
大廊下

GL095
GL096
GL097
GL098
GL099
GL100
大廊下
GL101
GL102
GL103
菖蒲寮北外側
竹寮
GL109
GL110
GL111
GL112
GL113
GL114
GL104
GL105
GL106
GL107
GL108
董寮
GL115
梅寮
GL116
百合寮
浴室廊下
GL117
GL118
GL119
GL120
GL121
GL122
GL123
GL124
出土位置不明
GL125
GL126
GL127
GL128
GL129
S=1/3
遺物廃棄場 SU1

GL130

GL131

GL132 GL133

GL135

GL138

GL134

GL136

GL137

GL139

GL143

GL141

GL142

GL140

GL144

GL145

GL146

GL148

GL147

GL151

GL150

S=1/3

GL152

GL149

GL153

遺物廃棄場 SU1

遺物廃棄場 SU2

GL154
GL155
GL156
GL157
GL158
GL159
GL160
GL161
GL163
GL164
GL165
GL166
GL167
GL168
GL162
遺物廃棄場 SU2
GL175B
GL177
GL169
GL170
GL176
GL178
GL171
GL172
GL179
GL181
GL175A
S=1/3
GL180
GL182
GL183
GL173
GL174B
GL174A
遺物廃棄場 SU3
GL184
GL185
GL186
GL187
GL188
GL189
GL190
GL191
GL192
GL193
GL194

GL195

GL196

GL200B1

GL200B2

GL200B3

GL200B4

GL200B5

GL197

GL198

GL199

GL200A

GL201

GL203

GL205

GL207

GL209

GL210

GL211

GL204

GL202

GL217

GL206

GL208

GL213

GL214

GL215

GL218

GL212

GL216

遺物廃棄場 SU5 S=1/3

遺物廃棄場 SU6

GL219

GL220

GL221

GL222

GL223

GL224

GL225

GL226

GL227

GL228

GL229

GL232

GL233

GL230

GL231

遺物廃棄場 SX4

GL240
GL241
GL244
GL245
GL235
GL242
GL243
GL234
GL238
GL239
GL237
GL236
GL246
GL248
GL249
GL247
GL251
GL255
GL257
GL250
GL252
GL254
GL258
GL253
GL256
GL269
GL267
GL265
S=1/3
GL262
GL270
GL259
GL261
GL264
GL266
GL263
GL260
GL268

遺物廃棄場 SX4

GL271
GL272
GL273
GL274
GL275
GL276
GL277
GL278
GL279
GL280
GL281
GL282
GL283
GL284
GL285
GL286
GL287
GL288
GL289
GL290
GL291
GL292
GL293
GL294

遺物廃棄場 SX4

HT01
HT02
HT03
S=1/2
整髪具類
HT04
HT05
HT06
HT07
HT08
HT09
HT10

HT11

HT12

HT13

HT014

HT16

HT15

HT17

HT18

HT19 HT20

HT21 HT22

HT23 HT24

HT25

HT26 HT27

整髮具類

HT29

HT28

HT30A HT30B

HT32

S=1/2

HT31

整髪具類

HT33

HT34

HT36

HT35

HT37

HT39

HT38

HT41

HT42

S=1/2

HT40

HT43

HT44

HT45

HT46

HT47

HT48 HT49

HT50

HT54

HT55

HT56

HT57

HT58

HT59 HT60

HT61

HT62

HT63

HT64

HT65

OT06 OT03 OT02

S=1/2

その他

WT01
WT04
WT05
WT06
WT07
WT11
WT12
WT15
WT13
WT14
WT18,19
WT20
WT21
WT22
WT23
WT24
WT25
WT27
WT28
WT29
WT30
WT31
WT37
WT39
WT40
WT41
WT45
WT49
WT52
WT53
WT54
WT55
WT56
WT57
WT58
WT59
WT64
WT71
WT70
WT72
WT73
WT74
WT75
S=1/2
洗面具類
ST3
S=1/6
ST1
ST4
石製品
S=1/3
ST2

MT26

MT28B

MT28A

MT31

S=1/6

金属製品

MT29

MT27

MT32

MT30

S=1/4

MT33

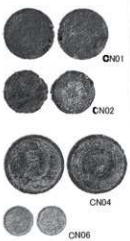
MT34

MT22

MT23

S=1/2

金属製品・銭貨

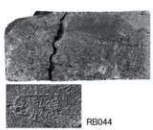


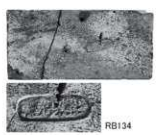
S=1/2

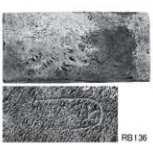
木製品 S=1/4

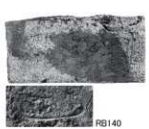
赤レンガ

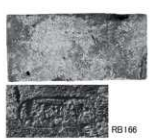
S=1/6, 1/2

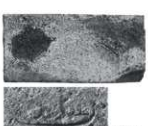


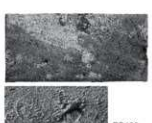


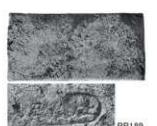


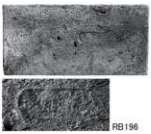




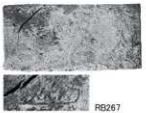







RB196

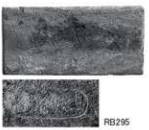
RB198

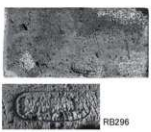

RB267

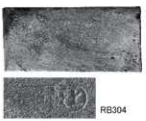
赤レンガ

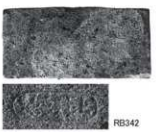
RB270

RB293


RB295

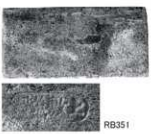

RB296

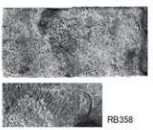

RB304

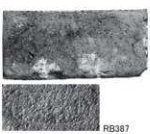

RB342

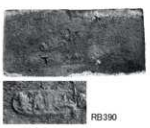
S=1/6, 1/2

RB345


RB351


RB358

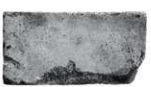

RB387


RB390

耐火レンガ

WB05

WB07


WB08

WB10

遺構写真

A 萩寮

建物西側（南東から）

萩寮建物全景：北側壁基礎痕跡が黒く残る（北東から）

萩奈建物東端部分（北から）

萩奈：南辺排水溝 SD02（左）と壁基礎 SB008（東から）

同前（西から）

萩察：壁基礎 SB08（北東から）

同前（南から）

萩察：北辺排水溝 SD13 と北側壁基礎跡（東から）

萩察：土管列 SD10（西から）

萩察：土管列 SD06（北から）

萩察大型柱基礎 SB295.296（北東から）

萩察：小型柱基礎 SB299（西から）

萩察：栓付き円筒形短頸ガラス瓶出土状態（南から）

B 隔離室

隔離室東棟：入り口部分（東から）

隔離室西棟：全景（南から）

隔離室北棟：全景（東から）

隔離室北西外側：不明遺構 SX1・2（北東から）

隔離室東棟：壁基礎 SB03（北から）

同前（北東から）

隔離室東棟：壁基礎 SB03（南から）

隔離室東棟：壁基礎 SB80（北西から）

隔離室東棟：壁基礎 SB80（西から）

隔離室東棟：柱基礎 SB81（東から）

隔離室西棟：壁基礎 SB91・排水溝 SD17（東から）

同前（南から）

隔離室西棟：壁基礎 SB02 中央・排水溝 SD16（西から）

隔離室西棟：石列 SS1 と入り口部分（南から）

隔離室西棟：大型柱基礎 SB64（西から）

隔離室西棟：小型柱基礎 SB90（南東から）

隔離室北棟：全景（北西から）

隔離室北棟：北辺中央（北から）

隔離室北棟：北辺排水溝 SD32（北東から）

同前髪留め（HT40）出土状態（北から）

隔離室北棟：西辺排水溝 SD31（北東から）

隔離室北棟：便所跡 SB226 と排水溝 SD33（北東から）

隔離室北棟：壁基礎 SB259・便所跡 SB226（北から）

同前：便所跡 SB226 中央部分（東から）

隔離室北西外側：不明遺構 SX1・2（北西から）

同前南西側部分（東から）

隔離室北西外側：不明遺構 SX1・2（南西から）

隔離室北西外側：壁基礎 SB283（南から）

隔離室北西外側：壁基礎 SB283（北から）

遺物廃棄場 SU3 下から検出した排水路 1（北から）

排水路 1：SD51（北東から）

C 菊寮

菊寮西側部分（北から、手前は隔離室北棟）

菊寮北西部分（北東から）

菊寨：南側排水溝 SD01 と土管列 SD38（南東から）

菊寨：壁基礎 SB303 と柱基礎 SB305（東から）

菊寨：壁基礎 SB303 と柱基礎 SB86（南東から）

菊寨：壁基礎 SB292（北から）

菊寨：壁基礎 SB83B（東から）

菊寨：壁基礎 SB83A と 83B（東から）

菊寨：壁基礎 SB83A・SB82 と北側排水溝 SD03（東から）

菊寨：壁基礎 SB281 と北西側排水溝 SD36（北から）

D 董・撫子寮

董寮：西側全景（東から）

撫子寮中央部全景（北東から）

董察：北辺（東から）

董察：北辺（西から）

董察：北辺中央（北から）

董察：壁基礎 SB116（西から）

董察：壁基礎 SB103・104（北から）

董察：南辺中央（東から）

撫子寮：東端（北から）

撫子寮：壁基礎 SB127・132AB（南から）

撫子寮：北辺中央（東から）

撫子寮：南側張り出し SB118（浴室廊下、北から）

撫子寮：南側張り出し SB118（浴室廊下、東から）

撫子寮：北側張り出し SB123・125（東から）

撫子寮：壁基礎 SB325・SB338（南から）

撫子寮：土管列 SD45（北から）

E 教室

教室全景（北西から）

教室全景（南から）

教室：便所 SB151（北から）

同前（南西から）

教室：南側壁基礎 SB152（南西から）

同前中央部分（南から）

教室：東側柱基礎群（北から）

同前 SB155 東側（北から）

教室：西側柱基礎群（北から）

教室：排水溝 SD21 集水マス（北東から）

F 仏間

仏間全景（北西から）

仏間全景（北東から）

仏間：柱基礎 SB176 と付加されたコンクリート基礎（西から）

仏間：柱基礎 SB182（西から）

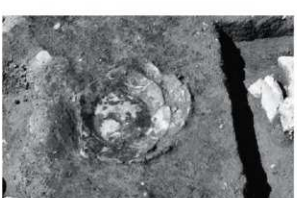
仏間：柱基礎 SB188（手前）と壁基礎 SB186（奥）（南から）

仏間：壁基礎 SB187（北東から）

仏間：壁基礎 SB185（西から）

仏間：柱基礎 SB196（奥）とコンクリート基礎撹乱（南から）

仏間：柱基礎 SB204（西から）



仏間：埋甕 SJ2（南から）

G 梅寮

梅寮全景（東から）

梅寮東端部分（北から）

梅寮：便所 SB205 全景（西から）

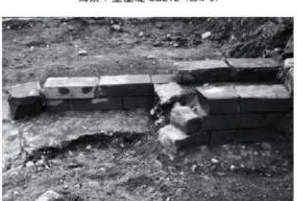
同前（南から）

同上南側（南東から）

同前北西隅（北から）

梅寮：壁基礎 SB212（西から）

梅寮：壁基礎 SB215,214 と排水溝 SD22（西から）



梅寮：排水溝 SD22 西側（北から）

梅寮：円筒形モルタル SJ3（南東から）

H 竹寮他

竹寮西端：全景（東から）

竹寮西端：便所 SB347（北西から）

竹寮西端：南側（東から）

竹寮西端：北側（東から）

竹寮西端：北西隅（北から）

竹寮西端：南西隅（南西から）

竹寮西端：便所 SB347 アーチ構造（北西から）

同前全景（南東から）

竹寮西端：壁基礎 SB346（南西から）

竹寮西端：壁基礎 SB355（北東から）

竹寮西端：壁基礎 SB359（南東から）

竹寮西端：壁基礎 SB348（西から）

竹寮西端：大型柱基礎 SB357（西から）

竹寮西端：大型柱基礎 SB352（東から）

竹寮西端：中型柱基礎 SB342（西から）

竹寮西端：中型柱基礎 SB343・344（北から）

竹寮西端：壁基礎 SB356 と排水路 2 SD4（北西から）

同前（西から）

竹寮東端：全景（北から）

竹寮東端：便所 SB374 と排水路 4（SD58B 集水マス）全景（北から）

竹寮東端：壁基礎 SB375（南西から）

竹寮東端：壁基礎 SB377（北から）

竹寮東端：排水路 SD59 と柱基礎 SB371（西から）

竹寮東端：柱基礎 SB383・395・396（北から）

中間地点：貯水遺構 SB363（西から）

大廊下北：柱基礎 SB364（北から）

松寮南辺（南から）

松寮：排水溝 SD54 と柱基礎 SB370（東から）

大廊下南側突出部 SB04-06 と柱基礎 SB92・93（南から）

北側西柱基礎 SB339・286（北から）

南端部水路群 SD42・43・46・48 と SB319・324・337（南東から）

大廊下：北側西突出部 SB284（北から）

大廊下：北側東突出部 SB285（北から）

大廊下：南側突出部中央 SB06 と柱基礎 SB84・89（南から）

大廊下：南側東突出部 SB05（南から）

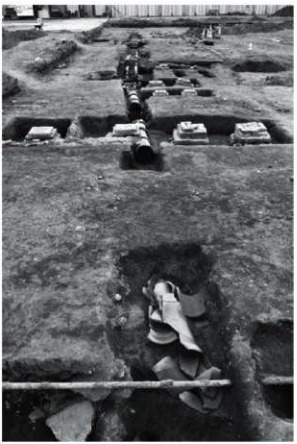
大廊下：北西側壁基礎：SB279・294（東から）

同前：北側西突出部 SB284 との接合部分（北西から）

排水路 2：SD04 南端集水マス（南から）

大廊下：中央東側突出部壁基礎 SB47（北東から）

J 排水路 3



排水路 3：SD37 全景（北から）

同前（南から）

同前土管部分（北から）

同前北側集水マス（東から）

同前南側集水マス遠景（北から）

排水路 3：SD37（南東から）

同前：SD37 南側集水マス（北西から）

排水路 3：SD37 土管列（南西から）

同前（東から）

排水路 3：SD39（西から）

同前：SD39・47（東から）

K 藤寮他

藤寮・百合寮全景（南東から）

藤寮全景（東から）

藤寮：中央部分（北から）

藤寮：北東隅（北東から）

藤寮：南辺西側（東から）

藤寮：南辺排水溝 SD61 西端（東から）

藤寮：南辺東側（西から）

藤寮：壁基礎 SB409 西側（北東から）

藤寮：北辺東端（東から）

藤寮：北辺中央（北西から）

藤寮：壁基礎 SB413（東から）

藤寮：壁基礎 SB398 と柱基礎 SB391（北から）

藤寮：便所 SB408（西から）

同前（北から）

藤寮：北東隅張り出し部（北から）

藤寮：東端部分（北西から）

藤寮：壁基礎 SB379（東から）

百合寮：南辺排水溝 SD55 西側（南東から）

L 遺物廃棄場

遺物廃棄場 SU1 全景（北から）

遺物廃棄場 SU2 全景（東から）

遺物廃棄場 SU2 中心部分（南から）

遺物廃棄場 SX4 取り上げ後（西から）

遺物廃棄場 SU3 全景（東から）

遺物廃棄場 SU3 中心部分（東から）

遺物廃棄場 SU4（東から）

遺物廃棄場 SU5：中央奥の低い部分（南から）

遺物廃棄場 SU6：中央部分（東から）

発掘調査報告書抄録

ふりがな	しんまちときさいせき2
書名	新町戸崎遺跡 2
副書名	新町防災アリーナ建設に伴う旧鐘紡新町工場若草寮跡発掘調査
巻次	なし
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 488 集
編著者名	坂井　隆　矢島　浩　滝沢　匡　竹原弘展
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	370-8501 群馬県高崎市高松町 35 番地 1
発行年月日	2023（令和 5）年 3 月 31 日

（ふりがな） 所収遺跡名	（ふりがな） 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
（しんまちときさいせき） 新町戸崎遺跡 2	（ぐんまけんたかさきしんまち） 群馬県高崎市新町 2330-40 番地	1012020	801	36° 16’41”	139° 06’16”	2020.4.20- 2021.3.31	6,242	体育館建設

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新町戸崎遺跡 2	工場寄宿舎跡	近現代	繊紡新町工場寄宿舎跡 14 棟基礎	陶磁器・ガラス瓶・整髪具・洗面具・製糸器具部品・金属製品・刻印レンガ	旧新町紡績所（国重文および史跡）を引き継いだ工場の明治末から昭和 13 年頃までに建設された女工寄宿舎群。隣接の製糸工場からも含む工場内の遺物一括廃棄場も複数検出。
	中山道新町宿	近世	なし	陶磁器・桟瓦	北東 100m ほどで宿場西端のため、個別廃棄された遺物が混在。
	遺物散布	中世	なし	内耳土鍋	1点のみ。

高崎市文化財調査報告書　第 488 集
新町戸崎遺跡 2
新町防災アリーナ建設に伴う旧鐘紡新町工場若草寮跡発掘調査

発行日　令和 5 年 3 月 31 日
編集　高崎市教育委員会文化財保護課
発行　高崎市教育委員会
370-8501 群馬県高崎市高松町 35 番地 1
電話　027-321-1292
印刷：荒瀬印刷株式会社